

大正六年九月十四日第三種郵便
物認可・昭和十四年 八月 一日
印刷済本・昭和十四年八月五
日発行・毎月一即一日発行・

第廿二輯第八號 昭和十四年八月一日

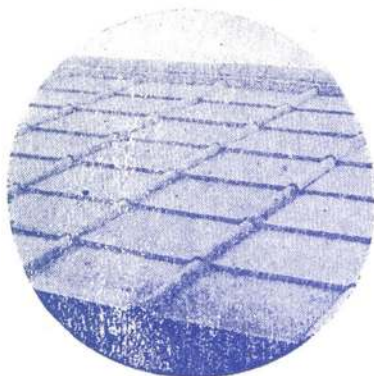
日 本 建 築 協 會



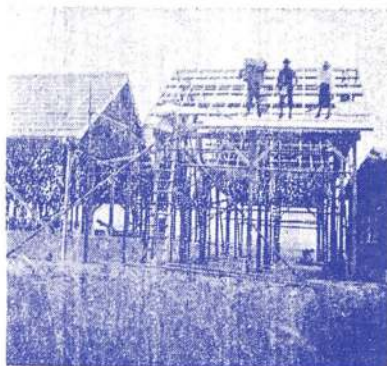
8

日 本 建 築 協 會

日興 強度スレート 防火テックス



強度スレート葺上



某製作所（整會社施工）

強度スレート

規格

幅3尺×長2尺1坪當り6枚トス

特徴

1. 耐熱保温ハ何レノ瓦ヨリモ完全ナリ
2. 耐酸性ニシテ化學工場等ニ適ス
3. 葺上施行ハ簡單ニシテ裏板ヲ要セズ垂木ノ上ニ直接釘止トス
4. 震動大ナル重工業ノ工場ニ使用スルモ葺キ下リ等ハ勿論ナク絶體ノ耐風耐震的ナリ
5. 重量ハ波型スレートト凡ソ同ジ
6. 葺方又ハ差替ハ簡單ニシテ素人ニテモ自由ニナシ得ル

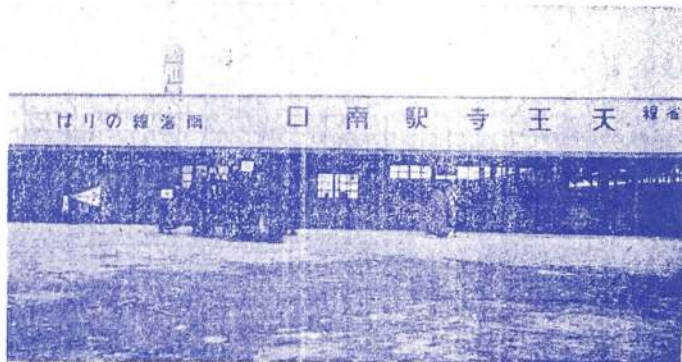
價格 葺上屋根坪當 ¥9.50

防火テックス

規格 幅3尺×長2尺×厚9耗

特徴 耐酸性ニシテ耐熱保温ニ適ス。防火、耐水性ナル故ニ外壁ニ適ス。鋸、鉋ニテ切合又ハ削リ合せハ自由ナリ。施工ハ釘止メニテ至極ク簡單ナリ

價格 1坪當り ¥4.30



防火テックス御使用

株式 日興 製作所
會社

大阪市住吉區北田邊町

電話天王寺⑦六八二五番

本工場 大阪市住吉區北田邊町八四五番地

第一工場 大阪市住吉區杭全町七一八番地

第二工場 大阪市住吉區北田邊町二番地

分工場 大軌沿線瓢箪山

告 會

今般理事副會長中澤誠一郎氏並常務（主計）石川寛三氏辭任に付
昭和14年7月17日開會の評議員會に於て補缺選舉を執行致しま
した結果下記の通り當選相成りました。

理 事 副會長 今 林 彦 太 郎 氏
常 務（主計） 岩 尾 保 衛 氏

昭和14年8月

社 團 法 人 日 本 建 築 協 會

防 空 防 火 標 語 募 集

防空の建築規則が愈實施されました。
既存の木造家屋を進んで防火改修される方には國及市の補助があります。市民各位に
は舉つて御協力下さる様切望致します。

要 旨 焼夷彈から都市を護るため簡易迅速に木造家屋を防火的に改修する事が
防空上の急務であり市民の義務なることを強調し痛感せしむるもの。

審 査 員	建築學會々長 工學博士 内 田 祥 三（五十音順）
	建築學會標語募集委員會主査工學博士 岸 田 日 出 刀
	大日本防空協會理事 佐 野 利 器
	大日本防空協會會長 工學博士 佐 野 光 信
	大日本防空協會常務理事 佐 野 光 信
	陸 軍 中 將 松 村 光 磨
	內 務 省 計 畫 局 長

賞 金 一 等 五十圓 一名
二 等 二十圓 三名
三 等 十 圓 五 名

規 定 要旨の精神を十五字以内に表現すること。 當選標語の同案多數の場合は先着順に依る。
用紙は官製ハガキ一標語一枚のこと但楷書。 応募者の住所氏名は宛名面に明記のこと。

締切 昭和十四年八月十日

發表 昭和十四年八月中旬

送先 東京市京橋區銀座西三ノ一

建築學會標語募集係

主 催 大 日 本 防 空 協 會 ・ 建 築 學 會

建 築 と 社 會

第22輯 第8號 昭和14年8月發行

八 月 號

目 次

「あるぜんちな丸」を見て將來に對する希望……………	松 田 軍 平 (2)
船内造作の艤装に就て……………	松 本 儀 八 (4)
船 内 装 飾 私 見 ……………	向 井 寛 三 郎 (7)
「住宅」と「塔」の回顧……………	石 川 純 一 郎 (11)
病院と「ホテル」の思ひ出……………	新 名 種 夫 (17)
「あるぜんちな丸」を語る座談會……………	1 4 氏 (21)

・紫 烟 室・

「時局と建築」放談……………	中 野 吉 禰 (42)
----------------	----------------

・文 獻・

Bedford の「調溫・換氣の最新原理」抄録(3)……………	前 原 大 二 郎 (47)
都市に於ける航空港の將來……………	後 藤 典 夫 (51)
健康都市に對する例年の賞金……………	(53)
州計畫局の病院問題に關する研究……………	(54)

・古建築新抄・

姫 路 城……………	藤 原 義 一
------------	---------

・新建築欄・

浪速區役所(大阪) 北區役所(大阪) 大和鐵工所(奈良縣) 外壁にガラスブリック
を使つた研究所(アメリカ) ローマのエリゼ劇場(イタリー) モンテカッチニ組合の
新館(イタリー) ビーター・ジョーンズ百貨店(イギリス) 労働者長屋(イギリス)
ゲハーグの集合住宅(ドイツ) オットー・ブレントの狩獵小屋(ドイツ)

會 報……………	(56)
----------	--------



7月15日より國家總動員法に基く國民徵用令が實施せられた。

徵用を受ける職能の中に、最初建築及び土木の技術者は加へられてゐなかつたのであるが、徵用令實施の間際に至つてこれが追加せられ、而も新聞紙の傳ふる所に依れば、最初に徵用を受くるものは建築技術者であらうといふことである。既に或方面では職業紹介所を通じて、その準備が行はれてゐると聞く。

東亞建設事業の進捗と共に益々甚しい技術者の不足を補ふ爲に、本年3月より各大學・専門學校等に於ては、工科の必要なる部門に對して夫々定員の増加が行はれたが、建築土木の方面は、學校當局の熱心な具申にも關らず、その必要なしとして定員の増加は認められなかつた由である。

これは正しく政府の認識不足といふべきで、徵用を受くる職能の中に、建築土木が最後まで加へられなかつたのも、同じ認識不足に依るものであらう。

大陸各地に於ける深酷な住宅難が、如何に興亞の聖業に走せ參じた人々を悩みつつあるか。必要な建築施設の遅延が、各種の建設事業の遂行に何れだけ障礙になりつつあるか。これ等は何れも建築技術者の出勤を俟つてのみ、はじめて解決し得る問題である。

吾人は支那事變が建設の段階に入つてより以來、常にこの點を指摘し來つたものであるが、今回徵用令の發動に當つて、政府が遅滞ながらもここに留意し來つたことを喜び、この機會に、建築技術者に對する舊來の封建的見方を一擲し、新技術に依る東亞建設の分擔者としての立場を、明確に認識せられむことを切望して已まない。

「あるぜんちな丸」を見て將來に對する希望

松 田 軍 平

肇國以來の未曾有なこの非常時局下に於て、建設的事業の第一歩として、大阪商船の優秀船「あるぜんちな丸」が此程竣功し、吾國造船科學と近代藝術を世界人に示す機會を得た事は、吾々日本人として、最近の痛快事であり、殊に建設の業務に携つて居る私に取つても此上もない欣びである。

去る六月十九日、芝浦岸壁にびつたりと寄り添つた雄大な姿——恐らく帝都中心近くに停船した最大な汽船であつたであらう——を私は見學する機會を得た。目下、私の事務所では此の船の姉妹船である「ぶらじる丸」其他數隻の船の室内裝飾の設計をしてゐる關係上船室の設計が如何に苦辛を要し、困難であるかが充分に了解出來得る丈けに、此の船の設計に關係された諸氏の御苦勞を察し、又戰時材料統制下に於て、全部使用材料を國産品を以つてし、斯様な立派な完成を見た事に心より敬意を表したのである。

私は、建築設計者としての立場より、此の際に於いて、船室の設計に就いての感想と希望の一端を述べて見たいと思ふ。

日の丸の國旗を掲げ、而も日本で造られた船の内部が、純西洋式であつた時代は既に過去の事であり、現代日本獨特の構成藝術の精華を、充分に表現すべき事は當然のことであつて、此處に改めて述べる必要も無い。既に今迄完成された最近の船に於いてでも、此等の苦辛の點が充分認め得らるゝのであるが、船室室内裝飾設計に當つては、今一步を進めて、根本的に其の手段方法に就いて研究さるべきではあるまいか。即ち單に、圖面に描かれた、圖案上の表面的色調のみを以て表現し説明するに止り、その詳細的手法を決定するに先立ち、平面の形態、窓、出入口等の位置及大小、家具の配列など、構成的要素を爲す基本問題を、主體構造及附屬設備の設計と同時に、充分に研究されることが、比較的閑却されて居る様に思はれる。斯様な事柄は陸上の建築設計計畫に當つては、常に實行されて居る事である。

素より、船舶は激浪に耐へ、且つ馬力の大なるエンジンの震動、スペースの極度の利用等の關係上、構造には十二分の強度の必要な事は勿論ではあるが、然しながら船内公室の室内裝飾設計と、没交渉に決定される筈のものではなく、矢張り室内設計者の意見をも取入れ協力して完成せしめ、綜合構成藝術の粹であることを期す可きではあるまいか。恰も之を人體に例へると主體構造は骨格であり、窓、出入口等は夫々目、鼻、口に相當する。骨格の虚弱な事は勿論許されないが、然し例へ丈夫と云ふに止まつても、其の體位が悪く即ち姿勢に無理があれば、内臓にも欠點を生じ、且つ目鼻の位置が整はぬ者を、如何に服裝、化粧に念を入れたとしても、絶世の美人は出現し得ない。

元來日本人は、繪畫、彫刻、服裝文様、色調、漆藝其他工藝美術に於いて、世界的に卓絶な、獨特の技能を有して居る事は萬人の認める處であるが、之等が綜合的に共働協力し一つの構成を造る経験と訓練が非常に少なく、此の點外國に一步も二歩も遅れて居る様に感ぜられる。設計者は室の用途、構造、照明、換氣設備等の概念を會得研究の上、室内の構成、材料、色調等の綜合的計畫に全力を盡し、各個の美術工藝の部門に對する詳細な、圖案並に手法、技術は之等の擔當専門家に委嘱し、協力を得て完成される可きものと考へる。此の場合、之等美術家、工藝家としては、工藝其物一個として觀賞されるのではなく室内構成の一部として、他と調和すべき事を第一義として研究し、其の範圍に於て最大の効果を納める様に努力する事が最も必要な事と思ふ。設計者には全體を纏めると云ふ大局の大切な仕事があるにも拘らず一部分の詳細部分に囚はれて、之等の設計圖案に時日を費すことは、天才で無い限り、不成功な結果を來すことは勿論である。

私は、此の綜合的構成藝術を考へる時、音樂に於ける交響樂を連想せずには居られない。タクトを振るコンダクターと之れを取圍む各樂手に依り、各樂器單獨では感じ得られない聽衆に對する迫力と、快感を與へる如く、室内裝飾に於ても、日本獨特の綜合藝術として發達せしむべきであらう。現在の造船裝飾界では、上述の如き意味に於いての綜合、協力統一と云ふ事が、未だ充分と云はれる域に達して居らぬ感がある。

斯様なことを、比較的容易に實現する方法としては、共働の美術工藝家は、或る程度に完成した美術家、又は固性的に大成した工藝家などよりも、寧ろ若くして才能あり、熱意のある無名の埋れた、未完成の藝術家の協力結合して、眞摯なる研究を得た方が可能性がある様に考へられ、又此際私の最も希望する處である。單に富士山を畫き、櫻花の蒔繪を以つて日本藝術の唯一の表現を考ふる如きは、世界に飛躍せんとする、近代日本文化に對して、余りにも素人欺しや、低級な外國人威しの意氣地ない事ではなからうか。

私は、世界の海を、文化を以つて征服し様としてゐる此の機會に於いて、船主、造船家構成藝術家（建築家）美術工藝家が、相互の職分を十分に理解し、各個を通じて一心同體となり、世界に無比な日本文化の精神を基調した、現代躍進日本の藝術を世界に示す日が近き將來に實現せんことを希望して止まないものである。——14,7——

船内造作の艤装に就て

松 本 儀 八

本年三月十三日、議會に於ける政府の表明によれば、昭和十三年十一月現在に於て我國の船舶數は、千百六十九隻にして其噸數四百九十四萬一千噸であるが、國策として昭和十七年度末迄に七百五十萬噸を目標に今後年々七十五萬噸見當を建造する豫定だとのことである。

然して造船能力は造船臺合せて九十七臺、一ヶ年の造船能力八十萬噸、之に要する船用機關も大體八十萬噸の造船に間に合ふとのことであつた。

そうした譯で我國造船界の近況は其國策の線に沿ふために一入多忙に多忙を極めつゝあるが、就中優秀船も茲數年中には次から次へと建造せらるる段取となつてゐる様である。其トップを切つて茲に颯爽と就航したのが「あるぜんちな丸」である。スマートな流線型で國產品の粹を採り入れ内部設備と裝飾に至つては時局下躍進日本を表徴するかの様である。今後引續き建造されつゝある優秀船の漸次就航を見るの曉には期せずして技術日本の上に又列強國との間に七ツの海の制覇を目ざして氣を吐く事ともなう。

此時に當つて船舶の艤装が陸上建築の造作の施工法と相違する所を検討して見るのも強ち無意味な事でもあるまいと考へて、僅かの經驗から得た事を基調として茲に之をものにしてみた。

先づ船内客室の配置、即ちプランは陸上の建物に比べ正規なものよりもカーブの伴つた異形のものが多く、言はゞ能率第一主義であつて、すべてが合理性と云ふことに重點を置き無駄なスペースなどゝ云ふことには相像以上に神經的に考慮されるのが恒である。

室の配置や設備の如きものは旅客本意の船では收容船客員數を多分に考慮して限られた鐵構物内に按配せらるゝことになるものゝ、骨組が全部鐵材である爲船内の造作材取付方法は陸上の建物に於けるよりも比較的面倒である。一般公室と稱するエントランスギャラリー、社交室、喫煙室、ベランダ及び食堂等の如きは船客の長い旅情を慰める上に幾分でも効果的に取扱ふ意味合ひから陸上建築の持つ安定感を多分に取る爲に天井高、採光窓等には餘程考慮を拂はるゝ様になつて來たが、造作の艤装に當つては第一に船は陸上の建物に比べ船としての特徴性とも云ふべき條件がつき纏ふのである。即ち船は常に海上に浮び潮風に曝され且寒暑風浪の地帯を航海する性質上乾濕寒暖の變化特に急激にして然かも風浪から起る前後左右への動搖、即ち「ローリング」と機關の運轉より傳はる震動即ち「バイブレーション」とを念頭に於て是等から來る障害を如何にして最小限度迄に喰ひ止め得るかゝ施工法の要點となる譯で、斯様に船の持つ特異性を考慮に入れると造作材の取

付は至極堅牢を必要とする事と、其の造作材なるものが特に乾燥材を以てするの必要があることである。(船内造作材としての木材乾燥程度は10%以^内の含水量まで乾燥したるものであり度い) 見へ隠れの下地粗材と雖も充分に乾燥したるものを必要とし、主材として使用する表面化粧ベニア板の如きものは特に慎重に取扱ひ、然かも急激に變化する乾燥寒暖より起る所の剝脱や狂ひ等も絶対に防ぎ得る丈の耐水耐熱性の接着剤により製作したるものを要求する譯であり、一般市場品の如きもの使用は後日不覺の失敗を招く事になると云ふ事が了解されるであらう。

勿論陸上建築造作の場合とても之等の條件を具備したるものを要求せらるゝ事は當然ではあるが船の持つ特異性を考へる時は又格別である。

次に仕組及取付方法であるが、之は建築造作の場合と相似てゐるものゝ上述の缺點と船獨特の「シヤー」及「キャンバー」即ち「反りと起^{ムク}」があり、其の上「カーブ」した所が多い關係から仕組み取付共仲々に手数を要し、只單なる圖面のみにては下揃へ困難なる場合が多く大概伏圖即ち現圖を引き附けてから夫々の切組をすることになる。

仕上寸法の如きも鐵構と壁、天井内の隠蔽物との關係を充分に考へて粗漏の無い様に心掛ないと建物の場合と異なり、裏面から研るとか、或は塗り足すとかいつた事が絶対に出来得ないので原圖引附けの際は「スチフナー」「ガーター」「トランク」及び配線等迄詳細に書き入れて仕上面との關係を能く調べて置かないと取付けになつて思はぬ失敗と手数とを見る事がある。

取付けは總て鐵構物へ直接緊結する上に隠蔽物の多き事と船體のより安全性を保持する關係から出来得る限り重量の輕減をはかり濫りに大きな粗材を使用せずして最も輕装に且つ堅牢なる構成を工夫し、然かも船體の動搖感は震動等より來る仕口の緩みや、夫れより生ずる不快なる軋音を防がねばならぬ必要から緊結用金物としては絶対に釘打ちを避け「ボルト」「木捻」締めとし所謂丈夫一點張の工法を採る譯であるが、表面高級なる素地仕上げのものになると、やたらに見付^{ミエガタ}からの木捻締めは許されぬ關係もあり、其都度色々と工夫をせなければならず施工者としては一番夫れが辛い點である。然し之れがペンキ仕上げのものになると取付けと言ふよりも寧貼り付けとさへ言ひ得る位に遠慮もなく表面見付から下地材へ木捻等で間隔を狭めて締付得るので施工としては誠に手輕に出来る譯であるがフレームレス窓や、電燈器具及び配線其他のもので能く故障破損の起き易い場所では其の局部のみの取外しに依つて容易に修理可能なる様手際良き施工を要するので、この點も苦心の種となる。

それから家具、其他器具類の中で配置に従ひ壁や床に固定せしめ「ローリング」に際しても移動せぬ様に仕向ける必要から豫め配置に倣つて脚部型狀を考慮して床鐵板に取付け用木座を設置したりして、後日の配置替へは許されない事もあるから最初に其點を充分研究の上船客をして不便、不快の念を抱かしめない様周到なる計畫が入る譯である。

尙化粧金物、出入口扉金物及び常々船客の接觸する諸設備に付ては萬全の注意を拂ひ破

損、狂ひなき様入念に施工する事が肝要である。

或一婦人船客が階段の迂り金物の木捻一本の弛みのため、ハイヒールに引掛つて怪我をした爲辨償金を船會社から支拂つたと云ふ實例さへ耳にしたことがある。

之を以てしても木捻一本から萬端に至る迄細心の注意を以て施工に當るべき要がある。塗装工事に付ては潮風に曝されたり乾濕の急激なる變化より生ずる木材の缺點を補ふ意味も加へて特に入念に施工を要し、尙被覆面自身之等の障害に遭遇しても些かも毀損せぬ様使用材料の吟味と選定には慎重に心すべきである。

要するに船舶機装は建築造作と出来上りの點では無論相似あつてはゐるものゝ施工方法に至つては相當相異なる點もあり、輕率なる判斷に依る施工は斷じて採られない事に歸結する。

尙最近我國造船技術の進歩に伴つて未だ嘗て何れの國に於ても實現しなかつたと言はるるシャー、ギャンパーを斷然排して陸上建築の持つ味を其儘船内へ味合へる様に水平、垂直、構造に計畫される傾向となつた事も技術日本の誇りとして誠に結構だと思ふ。(七月十日)

建築技術の擴充と工業士法案の企圖

戰時經濟遂行に當つて生産力擴充が擔ふ任務は極めて重くこれが達成強行については官民共にあらゆる努力と方法を講じてゐるが、特に最近においては新生産方式の適用、能率的設備の設計建設等新技术の採用による生産力の高度擴充が企圖されるに至つてゐる。しかるにこれが實施に際し斯る技術的新設備の設計建設に従事する技術者が著るしく不足を來して居り殊にこれが主要原因の一として技術者に對する個々の會社の獨占があげられてゐるので政府は技術者不足による建設技術の不備を補ひ併せて科學研究の應用による新技术の採用とこれに伴ふ新設備の設計施行に萬全を期する目的を以てこれ等技術者を個々の會社に獨占せしめることなく所謂協同技術者として廣く各産業に對する新設備の設計施行に當らしめるため新に「設計施行請負業」を確立せしめることゝなつた。しかしてこれが法的根據としては來議會に「工業士法案」と提出することゝなる模様であるが生擴強行下技術者に惱む各産業にとつては將に劃期的立

法でありこれが成立には多大の期待が寄せられてゐる。しかして右法案具體案については目下企劃院並に商工省兩當局者間に審議が進められてゐるがその骨子は大要左の如きものと見られてゐる。

1. 工業士は工業士の稱號を用ひて工續業に關する設計調査建設、検査、運轉等の請負を業とするものなること
1. 工業士資格は一定の學歴及び國家試験に合格せる外一定期間の實地經驗を有する者に與へる
1. 工業士は商工大臣の監督に屬し工業士登録簿に登録すること
1. 工業士、本法の規定に違反し又は不正行為ありたるときは工業士懲戒委員會の議を経て料料、業務停止若しくは禁止處分に附すること
1. 工業士又は工業士たりし者故なくしてその業務上取扱ひたる事項につき知得したる秘密を漏洩又は盗用したる時は懲役又は罰金に處すをこと(日刊工業7月20日)

船 内 装 飾 私 見

向 井 寛 三 郎

自分は船客としては比較的恵まれた経験を持つてゐる。郵船照國丸で歐洲へ渡り、滞獨中、ノードドイツエ、ロイド社の周遊船モンテ・ローザで一月近い旅行をイタリアからトルコ、ギリシヤを経てアフリカ北岸に試みた。そして歸朝の際は大西洋をブレーメンで太西洋を秩父丸で渡りいつも愉快であつた。歸來、不思議な巡り合せとでもいふか、少しばかりの船内裝飾計畫に關係を持つ事が出来たが、自分の仕事などまだお恥しくて到底話せない。しかし自分が経験した船旅と、種々の船室を見て來た思出と、それらから來る船内裝飾に對する衝動が、あの碧い浪の上に浮ぶ白と黒と赤の眼のさめる様な潑刺とした巨體に感ぜられる一種の愛着と共に常に、胸の中に泡立つ氣がする。今船内裝飾に關して私見を述べる機會を與へられたのを感謝すると同時に、それがほんの夢の様なまともな空想に終るのをお詫しなければならぬと思ふのである。

船は無論一のビルディングに相違ない。それは水上に物や人を運ぶ機械であるが又吾人に生活を享樂させる娛樂場ともなり、限られたる期間を楽しく暮し得る住宅ともなる。船員には職場であり事務室であり、更に考へ方をかへると多くの人達がお互に親しい交際の出来る社交場でもある。實に船の上に感ずる空氣は地上のそれと異つて、濃厚さがあり、刺戟があり、而してスリルに似た味がある。調子を高めていふならば、それは藝術で充たされた世界でもあり、文化の華が咲きほこる花園でもあり得る。それで最も實力的に、最も華やかに日進歩の文化に粹を盡した生活を可能ならしめ様と企てるのが、船内裝飾家の野心であり、又、客船そのものの熱望であるともいひ得る。更にそれが一國の繁盛を誇示する最も現實的な、而して直接的な手段ともなり得る點に於て、國際的な重責を母國に對して負ふものであるとも考へられるのである。

かうした船の内部裝飾が、陸上建造物のそれと自ら異なる事は當然である。否、陸上にはこれに匹敵するものは見當らないと思ふ。汽車や電車はもとよりどんな立派なホテルであらうと、クラブであらうと、如何に行届いた娛樂場でも、觀樂境でも、恐らく船の様に多種多様の性質をあつめて一丸としたものはない筈で、従つて船の裝飾ほど徹底した表現を要求するものも、實は陸上にそうあらうとも思はれない。船と家とのちがひを單に床面がもつ"反り"即ち船がその幅に感ぜられるキヤムパーと、其長さに見られるシーヤーのみと考へる事は、それ故に甚だしい誤りである。勿論床が蒲鉾型の曲線を描いて、ドーアが奇異に歪んで見へたり、椅子が四脚共其長さがちがつてゐたり、室内到るところに曲線と

直線が相闘ひ、曲線と曲線が相争つて、不思議な姿に錯覺を感じしめたりするのは事實で豫想外な結果がそこへに突發するのではないかといふ様な事から陸上のものに熟練した裝飾家や建築家にも多少の不氣味さを感じさせる事は受取れるが、併し、船内裝飾に關する困難は、實はそんな事よりもつと外にあるのではないかと思ふ。

船内裝飾に於て、曲線と直線の錯轢する關係やその心持の上に生ずる異様な抗爭を技術的に征服する事は大した苦心はいらない。寧ろ研究さるべき題目は其他の事情に關したものでないかと思ふ。環境に表れる事柄について考へて見ても、船は其本質として、斷えず移動するものである。昨日は赤道直下の光の下に眺められ、今日は零下幾度の寒氣と共に陰鬱な背景を強られる。そして海面といふ大きい鏡が、四六時中反射して來る晴れた空、曇つた空。そればかりか浪のまにまに起る船自體のローリングとピッチングが、あらゆる効果を奔弄して、感覺の上に猫の目の如き變化がくり返される。これに對して何等かの心構がなくてはならず、氣儘な環境の申出を甘受して、これを善處せねばならぬところに船内裝飾の苦勞があり、又これをなし遂げむとするところに其興味があるといはねばならない。

更に問題を人間相手の心持として吟味する時、所謂形而下の複雑な心持が、船の上ほど形而上的なものによつて敏感に左右される世界も多くはなからう。四角な形がどういふ感じを起すとか、丸い形がどういふびくとかいふ判斷が、少くとも計畫者を悩ます點に耳を傾ければよい。陸上の裝飾では何の差支もなかつた筈の紋様がこゝでは人達の船暈の原因となつたり、少しばかりの錯覺が、乗客の神經を刺戟し、或は更にこれが健康に關聯するばかりか心持まで攪き亂すものである事が物語られるのである。

その上、船客は國籍や人種が制限されない。従つて民族的に偏つた愛憎や、風俗習慣が事々に問題の種子をまく。年齢、職業、性別から趣味教養の上に千差萬別の人達が、とまれ、不満足を感じずに、不愉快を覺えないように、退屈しないように、否それ以上安易に自宅にゐる如くのびのびとした心持にそれを眺め、それを用ひ、更にそれを楽しみ得る如く船は設備され、裝飾されねばならないのである。

あらゆる科學的な文化が最高の表現をこの上に試みられんとするのも實にこの爲であり、最も初歩的な娛樂や、甚だしきは下卑とさへ考へられ兼ねない設備が施されるのも亦この爲である。

ある時は藝術の高峰が裝飾創作に参加し、ある時は學術のエキスパートがそれに關係を持たねばならないのも亦この爲である。

かくて船内裝飾は、これをたとへれば、世故を経た苦勞人の風格に見る如く、黙つてゐてもさびしからず、唄ひつづけてゐても噪がしからぬように、よく上下雅俗の兩端を押へてこれを生かせ、複雑した世態人情の機微を理會して、これを世界的な新しい美の立場に

あつて具體化する事がその理想ではないかと思ふ。

次に今後の装飾は益々日本の味を豊饒に持たされねばならないといふ議論が極めてやかましくなつてゐる點に注意を向けて見たい。それは新日本文化の創造を要求する意味で極めて當然である。これまで日本は餘りに外國に依據し過ぎて來た。あまりに忠實に外來文化に傾倒して來た。それも成長の爲にやむを得なかつたともいへるが、今や最早日本は新しい時代に向つて元服した一人前の男だ。装飾の仕事も日本人の手で、國産材料で見事出来る様になつた。現代の船の建造が外國の方法を採用してゐるとはいへ、日本の船は日本の研究で完成されてゐるのだから装飾も亦日本の味が充分に出なければならぬ事に議論の餘地はない。更に船は外國に向つて航し外人を迎えて歸る。裝備に日本の豊かな香があつてこそ旅の趣も深からうし、旅を生活の重大なる要素とするそれ等の人々をよろこばせ得る筈である。それで日本趣味といひ、日本式といひ、それが果して如何なるものであるべきかは、茲に改めて吟味しなければならない問題となる。

極く簡單卒直に考へると、日本式又は日本趣味は日本の古い装飾藝術に見られる様な味だと思はれるだらう。これは正しい。然し乍らそれは所詮古い時代の日本の香であり、現在とは凡そ事情を異にする生活の反映である。昭和聖代に於ては、装飾は新しい日本生活の記録でなければならない。

それで日本の傳統を生かす事も無論大切であるが、又現下の“大日本”をまのあたり感ぜしめる事が更に望ましいと思ふ。

數年前わが國を去つて行つた元ベルリン大學教授で今は故人となつたブルノー・タウトは久しき日本滞在による、その收獲を發表した著書“ニツボン”に於て、わが國傳統の崇高さを述べ其成長の方向を暗示してゐるが、卷頭に於て現在の歐米新興藝術がどれだけ日本藝術に影響を受けてゐるかしれないと記載してゐる。彼の説くところによれば、現代歐米を風靡してゐる明朗簡潔な工藝の表現は、幾千年來純粹無垢な型を保つて來た日本藝術の刺戟と暗示によつたものだと思はれ、今日世界の最新傾向、それは實に日本傳統の歐米式解釋だと斷ぜられてゐる。

日本が歐米に學んで來た其型は、實は日本の傳統の逆輸入であつたともいひ得る。吾等は彼の言葉を鏡として躬らの姿を再認識しなければならないと思ふ。新日本式の大成はそこに出發點の合理性が見出されるだらうし、又時代に即したる解釋が生れ易い便宜が此の認識の中に横たはつてゐると思はれる。

歐米人にとつて、今日吾人が感じつゝある如き單純化された姿は、實は其本音であるとは考へられない。明朗にして簡潔なる様式が味はれるためには、少くとも日本式なる餘韻と形而下的な深味を持たされなくてはならない。ところが、此の深味とか餘韻とか或は

自然味とかいふ複雑なる心持は、それ自體、外人にとつては苦手であり、一般人には理解され難いものといはねばならぬ。今日歐米の新傾向は各國競つて華々しく發表はしてゐるが、實はそれこそ一部の研究者の理解に限られてゐるといふべく、民衆の趣味は尙三十年前の所謂“歐米式”の複雑にして華麗なる外觀を本位とする“美しさ”の域を遠く離れてはゐない事を知らねばならない。

更に又船は可なり長時日その内に生活すべく豫想される點に於て、外人の満足を購入には單に日本式の傳統のみではその充分なる効果を果し得ない事を覺悟せねばならない。茲に於て、日本式なる表現と同時に歐米式なる華麗さと複雑さがその上に試みられる事も亦必要となるわけである。

かくの如く考へて來る時、こゝに不思議な事情を感じるのである。それは普通に考へられつゝある日本式と歐米式との關係は計畫のための態度に於ては、正反對に取扱ふのが正しい事になる結果である。即ち、一般に日本式を強調するといへば、繊細に周到に部分的なる觀照に應ずる事に傾く事であり、西洋式といへば直ちに明朗簡素に全體的なる効果を先にすると思はれるのが常識であるが、裝飾家の心構へからいへば既に説明した如くこれを反對に思惟すべき事情にあるといはねばならないのである。

かく推論して來るとき、自分は更に面白い事情を発見するのである。それは從來の解釋と、新解釋の推移に日本傳統と、現在の事情との間に都合のよい關係が自然に成立しつゝある事である。殊に船内裝飾の場合に於てこの問題は圓滑に進展し得る希望がほの見へる事である。

概括していへば吾人は日本的な立場で計畫すればよい事となるのである。部分的に洋風の趣を顧ることはあつても、それは日本的立場を妨げる事なく、而かもこの日本的立場と稱するものは實は從來西洋的手法であるかの如く考へられて來た新様式であつて、わが裝飾家達は何人も正しく日本獨特の表現に於て此の手法を充實し得る境地に達してゐる筈である。而して部分的に華麗なる點睛を施すには、日本的なる種々のモチーフを歐米の好みに従つて、實施すればよいわけとなるのである。併しこの行方は、ともすれば不徹底に解釋され勝であつて日本式なるモチーフの組織をのみ日本意匠の精神と速斷し、これに洋式の簡單化されたる取扱方を混するが如く考へ易いが、それは誤である。注意すべきは意匠の態度に關する問題であつて、吾人は勃興しつゝある新しい日本精神で一貫した仕事をなすべきものであり、決して洋風手段の中に思付的に日本趣味を混用或は兼用してはならない。態度が齟齬結果には蓋し大なる相違を生ずべきものであり、統一を欠きたる製作と、混亂に陥つた表現は一に態度の惡さ、或は思惟の撞着から來る結果といふべきである。

船の裝飾は其表現の華々しさと、其環境の宏大さによつて、到達する結果も又大きい。それはやがて陸上の裝飾にも強い暗示を與へるであらうし、ひいては裝飾の全野に亘る傾向を左右するのではないかと思ふ。時局下に於て特に有力なる仕事が見られるであらう船内裝飾問題は、實に裝飾立案者の傾向によつて如何様にも解決されるだらうと思ふが、特に日本美創作の態度と其精神が大切であらうと思ふ。自分は世界をリードするであらう見事な裝飾様式が聖代の日本に於て大成されん事を念願して筆を擱く。(14.7.1)

『住宅』と『塔』の回顧

石川純一郎

○

自叙傳的價值を認められ得る人達ならば兎に角、我々如きが身邊の瑣事を業々しく書き立てるのはとても堪えられない業だ。讀まされる方は猶更だらう。殊に時節柄貴重品の列に入るべき紙を濫費する虞あるに於てをやだ。

それを今敢えてするのは、單に今回協會からの「自作回顧談」の命令があつたからのみではない。

實は私のズボラを告白することになるが今年に入つてから二度ほど本誌用原稿執筆を依頼されて、早速承諾しながら、二度とも用事にかまけて、再參の催促にも拘らずとうとう約束を果さなかつた。編輯の方では、私の原稿などそんなに期待してゐたわけでもあるまいから、どちらになつてもいゝ様なものゝ、私としては内心氣になる。

ところへ三たび、今度の命令である。

「二度あることは三度」又候例の手を出してもいゝが、その代り編輯への信用はゼロになる。則ち勇を鼓して

「堪えられざる業」を敢行する。

しかも前の違約の責をも合せふたがんとして、第一回の註文「住宅に關するもの」第二回「塔に關するもの」第三回即ち今回の「回顧談」是等を三把一トカラゲにして信用の減衰を防ぐ。

但し「住宅」と「塔」と「回顧」と三題連結にしては面倒であるから、「住宅の回

顧」「塔の回顧」といふ風に時局柄二題に節約する。

○

先づ住宅の回顧 第一に朝日新聞社のM氏邸。

M氏は政治を専攻した人に似合はず機械が判り、藝術が判り、建築が判るのだ。

朝日新聞社及びその傍系の朝日ビルは何んだ斯んだといつて随分建築をする。しかもその出来る度に相當世間に反響のあるものをやつてゐる。といふのはM氏が建築が好きだからで、又建築に理解があり、色々な面白い資料を提供されるからなのだ。

そういふM氏の住宅をやるのは、かなりやり＝クいし又一面やりいゝ。

建築の設計を病氣の診斷に喩へるのもいささかをかしいが、病氣を診斷するのに幼児の病氣の様に、又馬や犬の病氣の様に、病人？の口から十分な診斷の資料が與へられないで、醫者が全部客觀的觀察で判斷するんだつたら、かなり面倒だし間違ひ易いだらうと思ふ。病人に十分醫學的な智識なり理解なりがあつて、自分の症狀を十分科學的な醫學的な方法で語り得たとしたら、醫者は随分樂だし誤診もしないだらう。勿論醫者の良心は、病人から提供された資料——よしそれが如何に醫學的であらうとも——のみに頼ることはあるまい。醫者自身も自分の信すべき方法によつて病人の提供資料を裏書しなければ満足しないであらう

しかし兎に角醫者は樂に仕事が出来ゐる。そんな病人だつたら、病人の提供した資料以外自覺症狀以外の診斷材料に就いての質問に對しても病人は十分科學的に醫學的に答へ得るだらうから、醫者の判斷にも十分確信が持てるんだらうと思はれる。

しかしこんな病人に對する處法とか治療方法とかいふことになると仲々難しいのではあるまいか。病人に醫學的理解なり智識なりがあればあるほど「御座なり」の處法では満足しないであらうし、病人にも亦治療の方法上に意見があつて仲々醫者のいふことばかりは聞かないかも知れない。こんな病人がほんとに取扱ひ易くつて取扱ひにくいのではあるまいか。私は醫者のことはわからないが、をそらく事實はこんな重寶で手をやく患者は千人に一人も萬人に一人もないのではあるまいか。

M氏を病人に喩へるのは甚だ相濟まぬわけだが、丁度M氏はこんな病人で私がこんな醫者なのだ。

病人たるM氏は自分の症狀を自分で判斷して、各種の診斷材料を揃へて、醫者たる自分の前へ持つて來る。そしてM氏は自身自身の斷定によつて自分の病氣は〇〇病だと信ずるといふ。そしてその處法は斯う。治療方法は斯う。それで如何だらうと私に尋ねる。

それが醫者たる私から見ても一つ一つ尤もなのである。私が診斷し處法するとしてもM氏の結果になつて來るより仕方がないのだ。

しかし私も尋ねられた以上、醫者たる立場があるから何んか一言云はなければなら

ない。そこで極く末梢的なところで一言二言異見を述べたり反對したりするのである

M氏邸はこんなにして出来上つた。

平面もM氏が考へたのだ。大抵の素人は一階は一階の平面で相當よく考へ纏める。二階は二階でこれ亦よく考へ纏める。しかしこれを組合せた立體的なものになると全然駄目だ。例へば階段なんかまともに納まつてゐるのは一人もない。M氏はこの點しつかりしたもので、この建物が斷面的に一寸複雑で敷地に高低があり、一階平面内にも高低があり、表門から見ては一階で庭のフロントから見ては地階になるガレーヂがありといふ様な關係をよく纏めてゐるのだ

それからエレベーションも御自身考へられるのだ。この建物は主として夏の海岸の別荘なので、鐵筋コンクリート外部打ち放しになつてゐて、前には公認二十五米のプールがあるのだ。そんなことをみんな御自身考へられるのだ。細かい部分の仕上材料から方法、電燈器具や家具、浴室のラスモザイクタイルの飛白文様迄御自身の考案なのだ。意匠上の仕上材料は素人でもよく好みのあるものだが、M氏はフラットルーフになつてゐる屋上の防水方法に對する意見や夏の暑熱に對するコンクリート壁の防熱方法等に就いても意見を持つてゐるのだ。

誠にM氏は千人に一人、萬人に一人の驚くべき稀有患者だ。

○

これと對蹠的に思ひ出されるのは、私の初期時代にやつたT氏邸である。

T氏もその夫人も極く穩やかな方々で施主としては申分のない人なんだが設計に對

して何等特別な注文がない。何等設計上の特異性を出さんが爲めの手掛かりがない。尤も御子様もないので生活も簡単であるが兎に角我々の住む爲めの家らしいものが出來さへすればいいといふ様な工合。

それでは診断の下しやうがないから「一體お腹が痛いのですか?」「頭が痛いのですか?」「如何な風に痛みますか?」「食欲はありますか?」といふ様な調子で見當をつけてやうやくまとめた。

こんなのは馬鹿に自由で、建築家は氣儘に設計が出来そうで返つて氣が小さくなるあんまり無理に窮窟に施主からとや角云はれるのも困るが、あんまり砂漠みたいなの、より處のないところへ放り出されても困る

ところが折角この家が出来上つて移轉され新居の味を楽しまれるか楽しめないかに、お氣の毒にもT氏は心臓弁膜症か何かで急逝されて了つた。

その當時は私も世の中へ出たばかりで、學校での家相否定教育が十分沁み込んでゐるから家相なんてものは全く問題にしてゐなかつた。尤も色々な家相上の嫌忌なんぞ何一つ知らなかつたか或ひは全然記憶してゐなかつたからサツパリしたものである。

T氏もそんな事は何んとも云はなかつたから私も平氣で家相無視でやつた。

しかし後で考へると、T氏が果して家相に全然無關心であつたのか、又は私がいやしくも建築家の端くれであつて見れば、施主が黙つてゐても勿論家相を考慮に入れてやつて呉れると思つて安心してゐられたのか、その邊判らなくなつて來た。

これは大分後になつて、私も世の中の荒

波——家相否定一本槍ではとても乗り切れない——にもまれて多少家相の研究といふと大業だが、家相の本で色々な嫌忌やら吉凶やらを知り、又所謂家相家にも會つて平面を直して貰つたりして、大分家相に近付きになつた。

しかし單なる近付きといふだけで、極めて便宜的なもの以上にはなれない。即ち家相の手は相手によつて持ち出す。相手さへ黙つてゐれば家相はソツと片付けて置くことにしてゐる。相手が重症の中毒患者なる場合のみ家相のモルヒネを注射するのだ。

しかしこんな風に便宜的に考へてはゐるものの、T氏邸の様に家が出来上る勿々主人が亡くなつたりした事實を思ひ浮べると何んとなき氣持が悪くなる。私の心の奥の奥の奥で、かすかに家相恐怖症が頭をもたげる。

知らずにやつたことだけれどもT氏邸は家相が悪かつたんだらうか?

表門は? 玄関は? 便所は? 臺所は? 浴室は? 井戸は? 竈は? 神棚は? 佛壇は?……

私はとても心配になつて來た。T氏はもう既に亡くなつてゐる。今心配しても手遅れだ。

しかし私はホコリにまみれた戸棚を探し廻つてやつとT氏邸の平面を見つけた。遅れ走せながら家相の検討をやつてみるつもりだ。私は入念に調べた。そしてやつと安心した。家相上の吉相である。大吉相といふほどでもないが、凶相では勿論ない。

私はやつと安心したのだ。T氏を殺したのは私の家相冒瀆ではなかつた。

第二は「塔の回顧」私の自作品中で最も思ひ出の深いのはどうしても、大阪朝日ビルの様だ。ビルは塔だけでなく、建物自体も地上階數十軒高百二十尺といふ特別なものだつただけに、随分許可迄には面倒な問題があつて、時の建築課長T氏を悩ますこと甚しかつたのだ。しかしT氏は理智的な合法的な儼然たる態度と共に、お役人には望み得ないほどの人間的な親切な氣持で色々な調査や研究をややつて許可理由の基礎を立て下さつた。しかしこうした建物の許可は前例のない異常のことだつただけに其後も大分永く氏の身邊はうるさい質問や批難やにとりまかれ続け、氏はこれを切り抜けるのに相當苦勞されたのだ。もし朝日ビルの出現が當時の建築界に何等かの意義を持ち得たとしたら、その功績と榮譽の一半は助産婦たるT氏に負ふものだ。

私は今でも常に、この最頂部から發せられる航空標識の三連閃光を遠望する時、T氏を思ひ出し獨り懷しむのだ。

このビルの塔は地上高さ二百四十餘尺相當紀念碑的效果を持つてゐるけれども、實は全く實用的なもので、煙突と排氣筒と航空標識とを合體したものに過ぎない。橢圓筒の南半はスーパーアルミニウム板貼、北半はガラス貼、アルミニウム板貼の部分は煙突と排氣筒、ガラス貼の部分は最頂部航空標識に達する階段室、その上に圓筒形の光源室を置く。煙突の上部は鐵板貼展望甲板として、煙はその下部兩側から抜く

これだけの条件があつた塔を構成する。

一體建築家は一般藝術家と異つて、非常

な規則の中に仕事を爲續けてゐる。使用上構造上、法律上、經濟上等々の規制にしばられつゝ、その中に自由の天地の發見に努力する。そんな習慣からか、あんまり寛大な制約の中では反つて仕事しにくいと感ずるのは私だけではないと思ふ。各種の規制条件は夫々に十分に適應されることによつて建築家をして自ら一の形態把握に達せしめる。

そこで單なる紀念的意味の建築物は取扱ひにくい。そんな場合でも建築家は我れと我が規制を求めて見出して、その埒内で活動する。無目的性の荒莫たる廣野の中に、合目的性の確固たる一據點を要求する。彫刻家の考案した記念碑と建築家の計劃したそれとの異常な懸隔はこゝから來ると思ふ

そこで思ひ出すのは甲子園の野球塔である。これは朝日新聞社主催全國中等學校野球大會の第二十年を記念して建てられたことは御承知の通り。

最初の敷地は球場前の周圍に道路を圍繞した綠地帯であつた爲め、私は最初夫々二十年の各々を紀念する二十本の角柱による圓形コロネードを作り、その中央に中等學校野球の素朴と熱情とを表象する様な單純な矩形高塔を立てやうとして苦しんだ。

しかしその内敷地は變更されて、現在の位置、即ち電車軌道の東側、小高い松林地内となつた爲め、自ら正面と背面とをハッキリさせなければならなくなつた。同時に單なる紀念的意義の上に更に實際使用上の目的が與へられ、一般集會に映畫會に角力や拳闘の催に使用されることとなつた。そこで高塔は圓形コロネードの中心から移動

して、圓形列柱内の一本の巨大な柱として更に高く空に伸びた。圓形コロネード廻廊の内縁からは内部に向つて階段狀の觀覽席が圓形に設けられ、古代希臘野外劇場の小さい新しい姿が生れる。高塔の基部には演臺が作られる。その背壁には建設趣意文の青銅板が嵌込まれ、二十本の各柱には第一回より第二十回に至る優勝校を名譽付ける紀念板が取付けられた。

かくして規制の新しい参加はスラスラと現今の形に迄野球塔をまとめていつた。

私は野球塔を思ひ出すと彫刻家O氏を思ひ浮べる。野球塔高塔の中段には氏の力作「打者の像」が載せられてゐる。随分議論好きな人で、彫刻ばかりでなく建築殊に大阪の橋梁の設計について人の顔さへ見れば文句をいふ。大阪の生命は水だ。しかるに現在の橋の設計は一向それを生かしてゐないといふのが文句の中心だ。大江橋、淀屋橋及びその間市廳前廣場の取扱ひに對してコツピドク罵倒する。わざわざ武田先生のところへ押掛けていつて改造意見を吐いて來たと云ふ。

そんな人だつたので野球塔の形態の中に彫刻の部分が存在することになつたといつて非常に喜んで、私ともよく建築と彫刻との協働といふ様な問題で論じ合つた。その代り「打者の像」の製作にはとても熱心で馬力をかけて、七月の暑い最中を眞裸の泥まみれになつて原型製作に精進した。

私は野球塔の寫眞と設計圖とを薦められるまゝ此間のオリンピックにベルリンへ送つて藝術競技に参加せしめた。しかし建築と彫刻との協働は議論の上ではO氏の意見

と相當調和したつもりだつたが、出来上つた實物では、その協働はもう一息といふところが残つてゐて今でも氣になる。

この點京都朝日會館の外壁の大壁畫を描いて呉れたH氏、K氏、I氏や、大阪朝日ビル地階食堂ランチルームの複雑な曲面に壁畫を描いて呉れたK氏、H氏や、名古屋朝日ビル地階食堂の杉羽目に日本畫の壁畫を描いて呉れたH氏やの場合、その協働は相當成功したと思つて愉快だ。

協働にそれたが兎に角野球塔は紀念的意義の荒莫たる廣野の中に實用的意義の確固たる一據點が出来て、私としては仕事し易いことになつたのだが、ここに同じく朝日新聞社の企劃の一つで全く紀念的意義のみを持つた塔がある。

それは昭和七年滿洲國承認の議定書調印に關するニュース寫眞空輸の際に起つた酒井片桐機の遭難を紀念する爲めのものである。機は一度は内地の上空に入り得たのだそうであるのに、あんな風に不幸にも山陰沖で遭難し兩氏は殉職してつた。その紀念碑は機體破片漂流地點湯崎の一小丘陵上に建設された。

私はこの紀念碑の考案に苦しみつゝ、一向に會心案を得ず、無目的性の廣野を彷徨しつゝある間に、一日一日と日は経つて設計案提出期限の明日に迫つた某日、私の憂鬱を察した友人T氏は私を誘つて某所に気分轉換を試み、酒盃を舉げつゝ語る機會を作つて呉れた。T氏は軀幹巨肥にして性情明朗といふところ。互に盃と談とを交換し續ける内に、私もいささか先刻の苦惱をケシ飛ばして次第に又極めて自然にメートル

は上つていつた。

しばらくして私の機中の一閃するものがあつた。立ちどころにポケットを探つて新聞社用のザラ紙原稿紙を取り出し、4Bか何かの先端の太くなつた鉛筆をとつて一案をスケッチした。T氏はおもむろにこれを取上げて、酔眼に凝視數刻、この案を口を極めて絶賞した。しかし今になつて見ればT氏果して全的に共鳴して呉れたのか、私を慰め力付ける爲めだつたのか、或ひは酔中無我無中で賞めて呉れたのかその邊は判らない。何んとなればT氏は勿論建築の専門家でもないし、藝術の愛好家でもなさそうだし、それにその時は氏も相當メートル上昇状態にあつたから。

しかし私はすつかり氣をよくして、翌日一寫千里設計圖案を作つて提出した。

ところがこれが再び新聞社の取締役會長M氏の絶讃を得たのだそうさ。「規模は小予算は少だがデザインは世界的だ」といわれるのだそうさ。

M氏は人の案を口に出してけなすことがない。悪ければだまつて黙殺してさふ。その代りよくつても口を極めて賞めることがない。「これは面白い」とか「これはいゝ」とか一言云はれるのが最上級のお賞めなのだ。普段そんな調子のところへこの絶賞である。

不幸にして私はその席にゐなかつたが、その場に居合せて喜んだのはT氏である。T氏は後刻私をつかまへてこの報告をして且つ曰く「いゝヒントを得るには否むのに限るよ」と。それ以後私達の仲間で「メートルを上げにゆく」といふ言葉の同義語として「ヒントを得にゆく」といふのが流行し出した。

T氏は支那事變の初期に應召して、未だに中北に止まつてゐる。筆不性の私は仲々慰問文一通さへ出せずゐるが、始終忘れずにゐて「きつと今頃はヒントを得てゐるんだらう」などゝ獨り懷しく思ひ出す。

勞務者の住宅難解決まづ二萬六千餘戸

深刻化する勞務者の住宅難については厚生省を中心に大蔵、農林、商工各省の間に對策を協議中であつたが、このほどこれが具體的原案を内定した。昭和十六年度までに必要と見られる勞務者の住宅は全國で獨立住宅二十二萬五千戸、共同住宅千六百五十戸におよぶが本年度は取敢ず獨立住宅二萬六千戸、共同住宅二百戸を建設せんとするものである。

このうちまづ二百戸の共同住宅は總動員法第十六條に本づく總動員業務事業設備令により各工場主に建設せしめ、その餘裕なき工場

主には建築資金の半額程度を限つて預金部より低利融資する。さらに二萬六千戸の獨立住宅のうち三割約八千戸は公共團體乃至は同潤會その他の公益法人をして建設せしめ、残りの約一萬八千戸は半分づつ預金部および勸業銀行より建築資金を融通せしめ、これには大體十入内外を一組とする組合を結成せしめ、預金部資金を利用する場合は年四分一厘、勸業銀行資金の場合は同様五分程度の利率でいづれも勸銀を通じて融通せしめる。(大朝7月6日)

病院と『ホテル』の思出

新 名 種 夫

×

ホテルと病院とはアパートメントの延長であり、従つて住宅の特殊な形式である。

唯、ホテルは居住期間の一時性に依つてアパートメントと異り、病院は更にその上に、居住者の健康が常態でないことが加はる。

大阪市に奉職して以來、設計に関係した多数の建築の中から、「建築の思出話」にこの2つを選んだのは一つはその性質の類似に依る。

×

病院の中で設計に関係を持つたものは、既に完成してゐる桃山病院、刀根山病院、及び現在工事中の北市民病院と結核療養所「千石荘」との4つであるが、後の2つは今尚工事中であるから、これは「思出話」の埒外である。

桃山病院の設計を命ぜられて、同病院の古い汚い図書室に一行7名ばかりと陣取ることになつたのは、昭和4年の夏であつた様に思ふ。既に一昔前になる。

その頃の桃山病院と來たら、明治20年に現在の敷地に移轉せられてから、建て増し建て増されて、最も新しい建物でも大正9年に増築せられたといふ木造2階建のものだつたから、建物の亂雑さと不潔さとは、古い「避病院」の名稱の方が餘つ程ふさはしい程のものであつた。

丁度盛夏の傳染病猖獗期で、病院は満員であつた。而も、天然痘まで加つてペストを除く法定傳染病は一通り揃つてゐるといふ盛況であつた。

病院の事業を元通り續けながら、増改築の仕事を進めて行かうといふのだから、新舊建物の聯絡上、その満員の病棟を實測しながら計畫を進めて行かなければならなかつた。

何んな病氣でも餘り恐がらない僕ではあつたが、これにはいささか閉口した。最初の間は、病室から出て來る毎に手を洗ひ、便所に行くとき洗ひ、食事の前に洗ひ、手にクレゾールの臭氣が絶えたことがないといふ有様であつた。

だが、慣れるといふことは恐ろしいもので、1箇月も経つと次第に神経が太くなり食事の前にしか、クレゾール水を使はなくなつた。歸宅前には、必ず入浴することになつてゐたから、その必要はなかつた。

最初は氣持悪がつてゐた病院の食事も、病院の食事なるが故に安全であるといふことを知つた。

法定傳染病中、ペストは別として、最も恐いものは、赤痢でもコレラでもなく、腸チフスであるといふことも教へられた。

丁度、フランスからチブスのビリワクチンが輸入せられ、院長の熊谷博士がその効果を實驗中だつた時で、我々もその試験臺

となつて、今日のチブス服用ワクチン普及の捨石となつたものだ。

所が夏も終り秋風が吹く頃になつてから我々の中のH君が猖紅熱に罹つてしまつた。一同愕然として、最近の消毒の怠慢振りを反省した。それにしても、H君の病氣は當然名譽の公症である。戦場に於ける傷痍軍人にも比すべき性質のものであるとして早速その手続を行つた。

所が悪いことに、それより幾日か前の夜僕は一同を引具して道頓堀や新世界方面を飲み歩いたことがあつたが、その顛末を翌日食事の時に事務長に話したことを覚えてゐて、その夜からH君の發病までの日数が丁度猖紅熱の潜伏期間に相當するといふ理由でH君の病氣は病院からの感染ではなく飲み屋から得て來たものと言ふのだ。

メートルが昇つたのは夜であつたが、その日もH君はメートル尺を持って、1日中各種の病菌の充満した病棟を實測してゐたのに間違はない。その翌日だつて同様だつた。

僕は事務長の牽強附會の説を難詰し、かくの如くば、病菌中に身を挺して仕事をするにしのびず、依つて一同を引具して病院を引揚げる旨を宣言したものである。病院の方が折れたことは勿論であるが、今は退職して閑居中の當時の事務長と顔を合すことがあると、「あんたもあの頃は鼻つ節が強かつたもんだね」と冷かされる。

武智式コンクリート杭など、その頃はまだ賣出して間もない頃で、主人自ら何回か桃山病院まで宣傳に出て來た。

「そんな成績の不明な、會體の知れないものは、よう使はん」と言つて、後年のミ

リオネや武智氏をかんかんに怒らせたのもその頃であつた。

こんなことがある間に、設計は順序よく進み、鉄筋コンクリート造5階建地階附の第1期工事——病棟、本館、寄宿舎等の工費111萬圓は恙なく完成し、後更に84萬圓を以て、病棟、研究室、藥局等を増築してここに舊式の木造建築は一掃せられ、病床數1300餘の新式の傳染病院が出現したわけである。

傳染病院の工事に就いて最も注意を要する點は、その衛生工事であらう。

この工事が萬一不完全で後々修理を要する様な場合には、病院の性質上職人が嫌つて工事が出来ぬ場合が極めて多い様である。特に便所の汚水の處理には、多少の金は喰つても、最初に完全な工事を行つておく必要がある。

結核療養所の便所、略痰處理設備などに就いても略々同様である様に思ふ。

×

桃山病院の第1期工事の設計が終ると間もなく、刀根山病院の計畫が始つた。昭和6年の春だつた。

桃山の例に倣つて、病院側と設計上の細かい打合せが出来る様に、やはり數人のものが螢ヶ池の同病院へ出掛けることとなつた。

所が今度はその人選が非常な難關にぶつかつた。誰も肺病の病院だけは御免を蒙り度いといふのだ。

何でも皆の意見に依れば、結核の微菌は咳と共に空氣中に飛散せられるから、刀根山病院の構内は微菌で充満して風のまにま

に漂つてゐるといふのだ。

そこで、病院から醫者を引張つて來て一場の講演を依頼した。――

刀根山附近の空氣が非常に清澄なこと、市廳の薄暗い埃だらけの事務室の方が、何れだけ呼吸器に有害か知れないといふこと2匹のモルモットに結核菌を注射し、その一方には絶えず塵埃を旋風機で送り込むとその方は2週間を出ずして死滅する。つまり塵埃の方が結核菌よりも恐いといふことそれから又、大阪市には輕症患者まで勘定に入れると20人に1人位の割合で結核患者がある。それ等の人々が何喰はぬ顔して座つてゐる満員電車や映画館などの中が、患者のはつきりと隔離せられた刀根山病院より何れだけ恐いか分らないといふことなど宣傳これ努めた結果、やつと數人の「挺身隊」を得て設計に着手する順序となつた。

「挺身隊」の人々は清淨にして而も閑靜な環境の中で、A—Oの豫防注射を受け、設計が完了して引揚げる頃には、體量が何れも1割方殖えてゐたことであつた。

所が、扱て工事に着手するに當つて問題が起つて來た。病院の建物一切村から見えない様にして貰ひ度いといふ、病院周囲の村からの注文である。

肺病の病院の存在はもう既定の事實で已むを得ないとしても、その認識を新しくする様なことは少くとも避けて貰ひ度いといふのだ。

本館の工事に着手する爲に、看護婦寄宿舎を小高い丘の上に移さねばならないのであつたが、その丘は螢が池の停留所から一望の中にあるので、その2階建の屋根を隠

す爲に丘の縁に高さ2米に達する堤防を築き、その上に高い檜を植えねばならなかつた。

だが、頭隠して尻隠さずとはこのことであらう。工事が進んで、5階建病棟の鐵筋コンクリートが3階位まで打ち上ると南面の松林の間から幅1町に達する病棟のファサードがぼつぼつと姿を現はし始めた。

併し幸にも、村人は最早これに對して抗議を持ち込もうとはしなかつた。尻を現はしながらも懸命に頭を隠した誠意に満足した爲であらうか。否寧ろ、東亞に於ける今日のイギリスと同様、丘の上に嚴然と根を下した鐵筋コンクリート造の動かすべからざる現實を認識した結果であらう。

今では刀根山の丘上に聳え立つ白亜の大建築物は、阪急寶塚線の車窓の1つの點景となつてゐる様だ。

結核に對する一般の認識も、今日は餘程進歩して來た。昨年の春、大阪市の第2療養所の建設用地として、泉南貝塚町に土地の買収を行つた際に、その敷地の一部に傷痍軍人療養所の建設が豫定せられてゐたとは言へ、村民の代表者が刀根山病院の施設を見て安心して買収に應じたことなどは、全く結核といふものの認識が、徒にこれを恐れない程度にまで進歩した結果であると考へる。

×

「ホテルはゴテル」と、當時の業界新聞など、記事が無いとホテルの工事をゴシツブにしたものだ。

私が設計主任として、新大阪ホテルの工事に關係したのは、いろいろないきさつの

あつた後、故武田博士を主幹とし、竹腰さんを副主幹として「臨時ホテル建設事務所」といふものが生れた時であつた。昭和8年の春で、工事は丁度基礎工事を終つた所であつた。

この事務所が出来てから後は、多少の曲折はあつたが、専ら竹腰さんの熱心なそして、周到な指導に依つて、工事は順調に進み、昭和10年の正月には無事竣工を告げた。

この工事に於て、長谷部竹腰建築事務所の池田、河盛の兩氏及び今は故人になられた笹川さん達と一緒に仕事をする事が出来たことは、僕にとって又と得難い収穫であつた。いろいろ教へられ、啓發せられることばかりであつた。

高級な大工事を数多く扱つて来た人々にもみ見られる、材料の正しい選定、間違いない施工、附帯工事の正確な認識、一つとして曖昧不安のない工事の監督指導等に對して、僕は全く畏敬の念を以て、採つて以て我物となすべく努力した。

ホテルの敷地の鬼門の隅に、古くから大きな公孫樹があつて、この公孫樹を動かすものは祟を受けると言ひふらされてゐた。

ホテルの設計には最初公孫樹を避けてプランを立てやうとの説もあつたが、敷地が狭くてこれは到底不可能であつた。

公園課も恐れをなして移植の依頼に應じてくれず、遂々伊藤市會議員の斡旋で、市岡の三社神社の境内に移轉した。

所が、間もなく、新大阪ホテル株式會社の設立者である住友の湯川氏が忽焉として長逝した。幾何もなく引續いて、ホテル關係者のあちらこちらに不幸が起つた。

すはこそ公孫樹の祟りだといふことで、ホテル關係者一同三社神社に参拜し、禮を厚うして、神恕を乞ふたといふこともあつた。

當時の關大阪市長も、ホテル竣工式の當日より發病して遂に長逝せられた。引續いて起つた中毒事件なども、何うも公孫樹のせいらしいなど、悪いことは一應公孫樹のせいといふことになつた。

或新聞記者が僕に言つたことである――

「公孫樹の移植がすつかり片附いてからホテルに關係した君は幸福だよ。最初から居たら今頃は命が危いぜ」と。

だが僕は別な意味で、よい時期にホテルの工事に關係したと考へる。

眞に自信を持つて建築工事に従事することが出来る様になつたのは、ホテル工事に携はつて以來のことであり、竹腰さんをはじめ長谷部竹腰建築事務所の方々から得た貴重な經驗の結果だと思つてゐる。



『あるぜんちな丸』を語る座談會

池田 實氏 (日本建材協會會長)

鶴丸梅太郎氏 (ベニス工房主)

伊藤正文氏 (神戸高工講師)

中西六郎氏 (中西建築事務所主)

河合貞一郎氏 (大林組住宅部長)

松本儀八氏 (内外木材工藝
常務取締役)

小林 清氏 (住宅改良會
編輯主事)

村野藤吾氏 (村野建築事務所主)

清水榮二氏 (清水建築事務所主)

吉村寛造氏 (東洋リノリウム
常務取締役)

玉置豊次郎氏 (大阪府建築課技師)

和辻春樹氏 (工學博士
大阪商船工務課長)

津山達夫氏 (長谷部竹腰建築
事務所)

新名種夫 (編輯常務)

(以上五十音順)

昭和14年7月6日
於・ABC俱樂部

新名——それでは借越でござりますが、協會から出して居ます「建築と社會」の編輯をして居りますので、進行係を私が勤めさせて戴きます。

本夕は暑い所を、殊に時局柄御多忙の際にも隔りませず、皆さんの御出席を得まして、協會として誠に有難く存じます。今回の事變に際して船舶が非常に不足して居ります所へ國策船として「あるぜんちな丸」が竣工致しましたことは、私達として非常に御同慶に感ずる所であります。丁度同船が大阪に寄港したのを機会に、建築協會から船を見學させて戴いたのでありますが、建築家として見ます時に、船は動く住宅、或はアパートメント、或はホテルといふ風にも考へられるのでありまして、特に此の「あるぜんちな丸」は約3箇月を費して赤道を何回か横断し、色々の氣候の間を潜つて旅行をする譯でありますから、さういふ方面から考へましても、我々の設計なり計畫なりの参考になる點が色々あるのではないかと思ひます。アパートメント、或は最小限度住宅の計畫といふものに船のプランニングが非常に参考になるといふことは、以前から若い建築家の間に着目されて居る所でありまして、かういふ點から之を雑誌に載せることに依つて建築家が利益する點が多いのではないかと考へるのであります。

今夕は同船の設計に直接指揮を執られた和辻工務課長を始めと致しまして、船室の設計の方々、並に同船を先日親しく見て戴いた入達に御集りを願つて居りますので、御設計なさつた方々からは御設計に對する色々な御苦心談なり抱負なりを御伺ひ致し、見せて戴いた側の我々からは色々な感想なり何なりを吐露致しまして「建築と社會」に載せたいと考へる次第であります。その順序として誠に御迷惑でございませうが和辻さんから御話を願ひたいと思ひます。和辻さんは船舶の設計に付て非常に大きな抱負を持つて居られるといふことを伺つて居ります。殊に嘗て建築を御志しになつて居られたのが御都合で造船の方に向かはれたと承つて居ります。特に船内に於ける建築的の計畫に付て御意見が多々あると伺つて居りますので最初に和辻さんから御話を伺ひまして、それから座談會を進めて行きたいと考へて居ります。

和辻——只今御話のやうに「あるぜんちな丸」の設計を致しました關係で、今日此の御集りに於て皆さんから本船の公室、或は客の設備に關する

御批判を戴ける機會を御作り下さいまして誠に有難く存じます。

御承知の如く船は非常に高價なものでありまして、室内裝飾、或は目に見える部分の客の設備といふものは、船價の約5%に過ぎない。10,000,000圓として500,000圓位の程度のものでありますが、併し我々と致しましては、最も御客の評判を取り易い、而も色々な方に見て戴く上に於て最も大切な部分であると考へて居りますことは勿論であります。でありますから、私は此の十數年來、船の室内裝飾といふものは、匠上つ建築家に並に室内裝飾の専門の方々御協力を要はしなければならぬといふ自分の一つの主義、モットーを持つて居りまして、嘗て或る造船所の重役と喧嘩をしたことがあるのであります。造船所のマネージャーにはさういふ點に非常に理解がない方がありまして成る程船大工でありますから、裝飾關係は我々の専門ではないのでありますが、併し船を造るといふことゝ船をデザインするといふことは多少趣が違ふ點がありまして、船の設計をする人間は或る程度迄それを勉強し理解をし、或は専門の方々から教へて戴いて（我々もまだまだ勉強が足りないと思つて居りますが）裝飾し易いやうな室を造ることがデザイナーとしては必要なことであると私は考へて居るのであります。でありますから、私の設計した船は70餘隻ありますが、其の中の客船に屬するものは私の考へ通りに悉く陸の方々に裝飾を御願ひして居ります。これは又造船所の方に御願をするには無理であります。それでは賈いものが出来ないといふのが私の昔からの考であります。特に今度の「あるぜんちな丸」及び其の姉妹船の「ぶらじる丸」それから今會社で請へて居る3隻の東亞、南米航路船（これは10500tの船であります）此の5隻は國策船として政府の助成金を頂戴致すことになつて居ります。それから郵船會社が7隻、更に大きいのが2隻ありまして9隻、私の方が5隻、此の合計14隻に對しては非常に手厚い政府の補助金を頂戴して居りますので本船が出来上つて、帝都を初め各地で皆さんに御覽を願ふことは我々の一つの義務でもある譯であります。あるぜんちな丸は幸ひに帝都では高松宮殿下、同妃殿下、北白川宮殿下を首め來り、大臣福府議長、其の他知名の方々及び數萬の學生諸君の御覽を戴きまして、高松宮殿下、妃殿下には、

長いことではありますが、機弱室まで御入りになつて御覧になつたのであります。本船としては非常に光榮に浴した譯であります。此の公室に對して、此處に御出でになる村野さん、長谷部さん、それから直接御關係下さつた津山さん、内外木材の松本さんにも無論色々御盡力を願つて居ります。兎に角各方面の陸上の方の御後援を願つて居る譯でありまして、私の方では唯皆さんの御批判を伺ひたいと思ふ位であります。其の前に陸上の建築に御關係の方々から御覧になれば、船は多少趣が違ふといふ點を御考の上で御批評が願ひたいと思ひますので、其の違ふ點だけを豫め申し上げます。

船はエフィシエンシイ、詰り能率主義で、何時でも文化の一番新しいものを据ゑたり装飾したりするものでありますから、船は常に近代的であり船そのものが非常に最新の機構を持つてゐるのであります。従つて裝飾其他船に附けるものは全部矢張り近代的のものでなければならぬといふのが私の考であります。唯船は陸上建築と違ひまして、20~30年で廢れるものであります。これは船自身の設計者として非常に淋しく感ずるのでありますけれども、兎に角其の短い間にフル・パワーフル・エフィシエンシイで働いて、國家の爲に出来るだけ活躍するといふことになりますから、室内裝飾に於ても自然永久に長く残る贅澤なものを使ふのは、或る程度まで誤りだと思ふのであります。それから船は動きますから、動揺もします。震動もします。それで動揺及び震動に對して總て不自然なものは、我々が見て氣持の好いものではない。換言すれば石で積んだやうなものは總て感じが悪い筈であります。それから氣候が一定して居ない。従つて風の方向、光線の方等、總て船の走る方向に依つて異ります。又光線が非常に強いこと、何時でも大洋の眞中へ出る關係で陽が非常に長いといふこと、横の場が非常に長く當るといふこと。それから潮風の關係で物が非常に早く損み。それから震動の爲に總てのものを取附けなければならぬ。上からぶら下つたやうに見えるものは總て感じが悪いといふことになります。詰り取附けてあるといふことがはつきり見えて居る方が感じが宜い譯であります。まだ其他にもありますが、追々御話が出ると思ひますから、それは其の時致しますが、要するに合理的に纏つて居ると申しますか、數學的といふことが非常に大

切であり、材料の強力化と云つたやうなことに反したものは總て感じが悪いし又無駄は總て感じが悪い。これは陸と大分趣が違ふと思ひますが、船には無駄なものがないのでありますから、無駄な感じを現す裝飾の仕方は總て感じが悪いと自分では考へて居ります。さういふ點を頭に御置き下さつてあの船の裝飾に關する御批判を願へれば非常に結構だと思ひます。我々も是非参考に伺ひたいと豫々思つて居りましたが、丁度好い機會を御席へ下さいましたから、此の機會に皆さんから御批判を願へれば非常に結構だと思ひます。なほ私はデコレーションの専門ではありませんが、船に關する限りは幾らでも御質問に應じますから、どうぞ適宜に御批判、御質問を願ひたいと思ひます。

新名——有難うございました。次に室内裝飾の一部を擔當せられました村野さんに一つ御苦心談でも御願ひしたいと思ひます。

村野——何もないのですけれども、漫然と申し上げませうか。

新名——漫然とで結構でございます。

和辻——餘り固くならず、質問應答の形で結構ですから、皆さんに御無理を申し上げたことですし、何なり伺はせて戴きたいと思ひますが……

新名——どういふ點に御困りでしたか。

村野——一番困りましたのは、和辻さんの御注文の試験に及第するかしないかといふことでした。それは現代日本式といふ問題なんです。私が今まで關係しましたものは是で2隻ですけれども、兩方とも現代日本式といふ御要求だつたのです。建築家としてはそれは極く通俗の名稱のやうに思ふのですけれども、それを洗練された深い考から出た言葉としてもう一度慎重に考へ直す必要があるだらうと思ひまして、色々考へて見たのですが、これを深刻に考へると、なかなかむづかしい問題でありまして、簡単に考へれば、又非常に暢氣に考へられないこともないと思ひますが、併しそれだけに之をどう解釋したらよいかといふことに付て大分苦慮もし困りもし、其の結果が御覧のやうなことで折角御著名の御依頼を戴いて、やるにはやつたのですけれども、誠に恥しい結果になつて申譯がないと考へて居ります。皆さん御覧になつただらうと思ひますが、實に冷汗をかくやうな始末です。

それから最初船に關係して、實際にやる時に何

處を掴むかといふことに非常に困りました。恐らく初めて船に關係なさる方は皆さうぢやないかと思ひます。建物の室内ですと、先づエントランスから入つて部屋に行く迄の印象と言ひますか、さういふものは大體頭の中に想像出来るのでありまして、ストラクチュアであるとか、それから来る重い感じであるとか、又其處を通つて行く迄の明暗など、デザイナーとして考へられる印象的ものが頭の中に相當入つて居る。其處を通つて要求された部屋に入つて、其の部屋でどういふ風に頭が變化するか、或は其の部屋に入つた時にどういふ氣持で居るかといふことは、日常扱つて居る關係上大體の想像が附いて、其の上で其の部屋のデザインをすることになる。ところが船ですと、其の部屋へ行く迄の印象が建物と非常に違ふ。非常に薄い感じの所、明るい所ばかりを通つて、例へば1等の部屋へ行き、其の公室に入る。さうすると、薄い感じの所で而も鐵のやうな丈夫なものばかりぶつ着かつて其の部屋に行くので、色の感じ無論光線の感じ、さういふものゝ部屋に行く迄の印象が建物と非常に違ふ。それで何處を掴んでよいかわつと分らない。どういふ風に頭が變るかといふことが掴めない。それに非常に困りました今でも困つて居ります。

それからもう一つは、部屋の廣さと天井の高さが餘程建物と違ふ。それでなかなか頭の中で之を掴むことがむづかしいやうに考へられる。其の他構造の關係、又色々のフィツティングが非常に多い。それらを巧く取入れて天井を成るべく高くせよと和辻さんが仰しやる。これは御尤な御意見ですが、これは非常にむづかしくて、實際に困ることが多い。これが巧く行つたかどうかといふことを今でも自分ながら非常に懸念して居ります。それらを兎に角一應想像して頭の中で綜合し、其の部屋を要求通りにやるといふことは、陸上と感じが違つて餘程むづかしい。色々直されて多少は頭が馴れて來たのですけれども、まだ一掴みすることがなかなか出来ないやうな感じが致します。此の仕事を、私の困りましたことを申し上げると大體其のやうなものぢやないかと思ひます。

新名——有難うございました。同じく津山さんから御伺ひ致したいと思ひます。

津山——私は今日は長谷部さんの代理でございまして、餘り申し上げることはないのですけれども

和辻さんから御依頼を受けまして、御希望通りに出來て居らぬことを甚だ遺憾に思つて居ります。最初長谷部さんが御考へになつて居つた設計が途中ですつかり變つたものですから、長谷部さんの御氣持が十分出て居りませぬ。變更してから私がすつとやらして戴いたのでございますが、御覽の通り家具なんかも一向色が揃つて居りませぬし、誠に不行届の所が多くて御氣の毒に存じて居ります。それに付て長谷部さんの御希望が少しありましたので、あれだけ申したいと思ひます。

それは設計に付ては大體の方針を御決め願つて細かい所は御任せ願ふと宜しいといふことでした例へば模様の細かいこととか、色合、布地の細かい點などに付ては、遠慮なく申しますと、御一任願ひたいやうに思ひます。それから施工に付て陸上建築と同様に裝飾部分は矢張り仕様書に依つて提出した見積りの査定を設計者に示して戴いて、それに監督もさして戴くやうに行かぬものかと思ふのであります。その上甚だ出しや張つたことでもございますけれども、さうして一つの部屋を取纏めて注文して戴くやうに願ふと甚だ將來の爲に宜いと思ひます。皆さんが御覽になりまして、あの通り大分纏つてないやうな家具が入つて居つたりして、御依頼を受けた和辻さんに對して甚だ相済みぬやうな氣がして残念で仕様がなひのです。

和辻——今津山さんから御話が出ましたが、誠に御尤の御説だと思ひます。處が實際上私の經驗に依りますと、今の布地一つにしても、非常に陽の當る所へ色の褪める布地を駄つて使はれるとか汚れる所へ汚れ易いものを使ふとか、所謂使ふ部屋を見る部屋として設計されるのがデコレーターの從來の弊だと思ひます。それで我々の方で注意しないと、直ぐ損んだり修繕したりしなければならぬものは困る譯であります。細部の點は成るべくデコレーターに御任せしたいのは山々でして、十分御任せ出来る方には御任せたいと思つて居ります。又其の方が本當だと思つて居ります。

それから其の次の見積りに關することは、津山さんの御説の通りだと思ふのですが、これは造船所の關係になりまして、私の方としてはあの船を1千萬圓なら1千萬圓で三菱に注文してあるのですから、其の中の1部のどの部屋が幾らといふことは、實は私の方にも分らない譯であります。實際其の仕事を引受けて、デコレーションのデザイ

ンをされる方にははつきり分る方が好都合だと思ひますが、それを造船所は嫌ふのです。これは三菱の方へ持つて行つて戴いたら宜いと思ひます。

(笑聲)それから3番目のデザインをされた一部屋の中のファーニチュア、其の他總ての材料を成るべく一纏めにしたいといふ御説と、デザインをした人が始終監督が出来るやうにといふ御説ですが、これは御尤で、私も無論その意見であり、始終そのことを造船所に對して極力主張して居るのであります。又其の方が良いものが出来ることは確實に分つて居るのでありますけれども、どういふ譯ですか、其の譯を餘り明ら様に言ふと差支があるかも知れませぬが、造船所が安い物を附ける爲にあつちこつちの家具屋に注文をするといふことは困るので、實は一つの部屋に長崎の家具を入れたり、名古屋の家具を入れたり、或は大阪の家具を入れたりして、ばらばらにするのは、監督する方もデザインする方も御困りだつたと思ひますが、其の點は特に長谷部さん、津山さんの方は御迷惑だつたと思つて居ります。我々はカンカンになつて怒りましたが、造船所が我々の主張を容れないものですから、どうぞ惡からず。將來は成るべくさう云ふ風に仕向ける積りで居ります。

津山——甚だ失禮なことを申し上げまして済みませぬでした。

和辻——いやいや、どんどん明らかに言つて戴いた方が結構です、序にデツキ、ハイトと部屋の高さは我々から見ると非常にむづかしいものでありまして、建築は100尺のリミットが定められて居るだけでありますから、其の間に大きな部屋も出来る譯でありますから、船はさうは行かない。津山さんに拜見させて戴いた京都の銀行のやうに陸では30尺も40尺も取つたあゝいふ結構な部屋が出来ますが、船の方は、強度や復原性等に非常に關係があつて、あれ以上何處を高くしても船が危くなる。例へば村野さんに御頭をしました食堂の3.7m 12尺取つたのは上々の方の積りで居ります。それで折角高く取つたデツキを低くして下さらぬやうにと御頭をする譯です。デツキが高いといふことはデザイナーとして苦心される所で、天井を低くして面白くしようと仰しやるけれども、面白くなくても高い方が宜いと御無理を申上げる譯であります。それからもう一つ、此の點は村野さんにも津山さんにも私の方から賞めて戴きたいと思

ひますのは、甲板に反りのないといふことで、郵船會社のはまだありますが、私の方は全部、前後の反りも左右の反りもありませぬ。壁も天井もフラットです。此の點はデコレーターに取つて非常に宜いことで、お樂だと思ふのです。それだけ御答へ致します。

村野——今津山さんから御話がありましたが、私共最初に設計を致します時に、自分のデザインしたものは非常に可愛いものでありますから、どうかして實現したいと思ひまして、このことを造船所の方へお願いしたことがあります。其の間の事情を申し上げますと、私の方から設計を出して造船所を通じて大阪商船の和辻さんが全部見て居られるので、その承認を経て、實際の仕事に移る譯であります。其の時に造船所側に對して色々圖面を送る譯ですが、なかなか圖面だけで分る筈はない。それで私は設計の説明書を附けて出すことにして、其の説明書には私共の考へて居る豫算の概算書を出して居る譯であります。大體造船からはこれだけの豫算でやれといふことを仰せ付かつて、それに依つて私共は概算書を出して居る。今津山さんの仰しやつたのは誠に御尤なんで、陸上ですとさういふことをやりますから、仕事がやり易いですが、我々の設計に對して見積が取れた場合に、造船所が我々に其の見積を見せて、安い場合は問題はありませんが、高い場合には造船所は其の見積を我々に示して、設計者側の意見を聽いて、此の見積はどうかといふことで相談をして貰へば、これはかうだから非常に高くなつて居るが、これをかうしたら安く出来ると言ふことも出来、それで設計の趣旨も通るといふ工合に相談が出来ると思ふのですけれども、津山さんが仰しやつた通り一向我々には見せて貰へぬ。それから設計通り出来ることでも、高く附くから變へよといふやうな要求が時々あるのです。練つて行ききへすれば必ず出来ることもあると思ふのですけれども、見せて戴けないから、それが分らない其の點はもう少し何とか造船所側も設計者と協力して戴くことが出来ないものか。それから遠隔の地で仕事をして居ることですから、自分の設計したものが其の通り實現するかどうか非常に心配する。自分のデザインしたものは可愛いこともあるし何とかして自分の思ふ通りにやつて見たいと思ひますけれども、現場まで行かれない場合が多い。

私が関係したものは、巧くやつてくれましたので大變幸せ致しましたが、其の他の場合はなかなか巧く行かなかつたらしい、大抵はあつちこつちぐはぐになつたりして、なかなか巧く行かない例が多いのではないかと思います。成るべくならば設計者の手許で、設計者が度々行つて見られる所に御注文を頼ふことが出来れば、同じ値段で良いものが出来るのぢやないかと想像して居ります。これは私だけの意見なんですけれども、昔外國から船室を御買になつた其の習慣が附いて居るのぢやないかと思ふ。圖面、仕様書、それから色々な模型とか見本が揃へば、造船所で出来るやうに御考になつて居るものと想像します。實際建築をやりまして、例へば色を着けるのもなかなか思ふ通り行かないものです。現場へ行つて、あゝでもない、かうでもないと二度も三度もやり變へて色を着けるのが建築家の努力の最高の方法ではないかと思はれるにも拘らず、それを唯見本で決めるといふのですから、實に危険なことですし、自信のないこと夥しい。

和辻——今の村野さんの御説は全く同感です。先程も申し上げましたが、私も造船所に對しては喧しく言つて居ります。唯今御話のありました室内裝飾、飾りの壁も天井も全部イギリスから取寄せたことが長崎では相當あるのでありまして、これはイギリスの船を手本として居たからですが、インナー・デコレーションのデザイナーと同時にそれを工作する所がイギリスにあります。ドイツにもフランスにもありますが、さういふ所は非常に慣れて居りまして、日本へ品物が着いて、船へ持つて行くと、天井も壁もベタベタとくっ附ければそれでぢやんと出来上る。其の代りどうせ碌なものはないと言へば言へる譯ですが、色も何もかも全部送つて來たものを其のまゝベタベタとくっ着ければそれで部屋になるといふことがあるものですから、今の村野さんの御話も其の點が多少影響して居るのではないかと思います。非常にシンプルに考へて居るのでして、造船所にはデザインといふものゝ本質が分らない人間が集つて居るのですよ（笑聲）いや、少しコキ下しても宜いと思ひます。どうも甚だ遺憾だと思つて居るのです。ですから、かうやれと言つても、やらないことが相當あります。其の爲に津山さんなどか怒つて歸られたりして甚だ困つたことがありました。

新名——それでは家具なり施工なりの御關係の松本さんに其の方の御話を伺ひたいと思ひます。

松本——實際施工をする立場から陸上の造作と趣の變つて居る所は、先程船の特異性といふやうなことで和辻博士から一通り御話がありましたので、それを敷衍するやうなことになるのでございますが、私共直接船内の造作をやらして戴く立場からしまして、骨組が全部鐵骨でありますから、造作の取附の方法が陸上の建築よりも少し變つて居りまして、結局面倒であります。先程英國から部分的のものを持つて來て、それをすかつと嵌めることが出来るのだといふ頗る簡単な風な御話がありましたけれども、實際取附ける場合には、裕りといふことが非常にむづかしいのでございますそれから陸上の建築でありますと、地震なんかは殆ど偶にしかないのでございますが、船は御承知のやうに波や風の關係で所謂ローリングがあり、機關其の他のヴァイブレーションがあつて、それが兩方同時に加はつて、絶えず地震のある建物と考へられるのでありまして、取附の關係が非常に堅牢を要するのであります。詰り鐵骨に取附けるのに鐵材を以てするといふことになるのでありまして、而も陸上の建築物でありますと、釘で叩き附けることも出来るのでありますから、船に限つては洋釘は殆ど絶対にと言つてよい位に用をなさない。それで必ず振子釘締めであります。同時に潮風の爲に、化學的變化を受ける金物はこれ又工合が悪いのでありまして、化粧金物にしても鑄物の金物にしても、全部錆止めにするか、或は眞鍮、砲金などを使はなければならぬことになつて居ります。同時に先程も御話にありましたやうに、潮風に當り、赤道直下も通つて行くといふやうな關係から致しまして、濕氣も温度も高くなるので、これに使用する造作材は特に完全に乾燥して居る材料を使はなければ、1航海位したら、ばらばらにならぬ迄も、故障が必ず起るといふ危険性が多分にある。それで私共船の造作を1部にしろ、或は纏めてやる場合にしても、どれ位の乾燥程度の木材を使ふべきかといふことが大切であります。私共の方では乾燥程度を10%にして居ります。これはもう皆さん御承知のことなんですが、木材は生木の時に於てはそれと殆ど同量の水分を含んで居ります。其の水分の中で約70%は遊離水と申しまして、天然乾燥に依つて脱ぎ得る水分でありま

す。あとの30%は細胞水と申しまして、ナチュラル・ドライグではどうしても脱けない水分であります。ですから、其の約30%の水分を含んで居るものを乾燥爐に入れまして、それを10%まで脱き取つてしまふ。さういふ程度の木材を以て造作に當りませぬと、出来上つた當座は、見ての感じは宜いに致しましても1航海でもすると其處に龜裂、故障が必然的に起るのであります。さういふ關係から、陸上の建築では例へば12%位の水分に止めて置けば宜いものでも、船に限つては10%以下の水分にまで之を乾燥して使ふといふ心組に依つて造作上の處理をして居るのであります。それから陸上の建築でございますと、化粧金物なんかでも、まあそこそこの振子釘締めでさう大して故障はないのであります。船になるとローリングとヴァイブレーションとが同等にあります關係上振子釘1本の締め方まで餘程やかましく言はれて居ります。嘗てかういふことを聞かされて、成る程と思つたことがあります。階段の迂り止金物の木捻子の締め付けが悪かつたことがあつたさうであります。すると、船客の婦人のハイヒールの靴が引掛かつて、其の婦人が怪我をされた。其のため船會社は莫大な賠償金を支拂つた。それ程船の造作の金物の取付けは注意して貰はなければならぬと、例を擧げて注意を伺つたこともあるのであります。さういふ工合で、木捻子1本の締め方一つから、相當注意して行かなければならぬことになつて居ります。そこらが陸上の造作とは餘程趣が違ふのではないかと思います。

新名——どうも有難うございました。吉村さんの方ではリノリウムを澤山使はれて、可なり御自慢な點があるやうでございますから、其の點を一つ御預ひ致します。

吉村——決して自慢をする所迄行きませぬけれども、リノリウムはこれ迄軍艦や商船に使つて戴いて居りましたが、それは茶色の無地のリノリウムでやつて来て居つたのであります。今度和辻博士からゴムが使へなくなつたからゴム代用にリノタイルを使つてやらうといふことでございましてこれは私の方としては最初の試みですから、百度を踏みまして、和辻博士の御指導を受けてやつて見たのであります。何分ゴムの代りと言ひましても、ゴムは非常に色が冴えて、足觸りのクッションも宜うございまして、沁らない。それと

同じやうにリノリウムが行くとは自信がないものでございますから、成るべくそれに近いやうにと思つて、色々苦心を致しました。研究の結果、色は兎に角少しは冴くなりましたが、クッションがなかなかゴムと同じやうに行かない。そして少し堅いので、迂りの點もゴムのやうには行かない。それで随分心配しましたが、兎に角使つて戴くことになりましたので、やつて見た譯であります。大きさは約550坪位で、船としては今迄の中一番澤山の坪數でございます。何しろデザインが色々凝つたものばかりでございますから、それを切つて嵌込んで、インレーするやうにして持つて行かなければならぬ。それまで決る日數が随分長く掛りまして、工事の一番最後に決つた譯で、咄差の場合に違ふものでこれは私の方で直接やつた譯ではなく、高島屋が中間に入つてやつたのでありますけれども、随分狭い所で火事騒ぎのやうにしてやりました。私の方では模様を並べて、それを裏打ちして、ブロック、ブロックに依つて向ふで並べたら貼れるやうにした譯であります。何分船はゴムの6mmの厚さで設計してあつたさうでありますけれども私の方のリノタイルは4mmしか厚さがありませぬからそれを補ふ下敷をフェルトでやつた譯であります。大阪で十分裏打をしまして、日數がないので、慌てゝ長崎迄持つて行つた譯であります。それで兎に角敷いた譯であります。敷き工合が心配で、どうかと思つて此の間一寸行つて参りました。まあ私共の方から言ふと、敷込みの工合が十分でないやうに思はれましたが、最後までこつちの職人が敷けば宜うございまして、何分リノリウムに慣れて居られない造船所の方で御やりになつたのでありますし、それも初めてのことでありまして、十分に行つて居なかつたと思ひます。これから長い航海で試験なやつて、果して宜いのやら、どういふ故障が起るのやら一寸心配ですが、次からは相當に研究致しまして、成るべく御期待に近いものを造るべく研究して居る譯であります。

和辻——リノタイルは非常に短い期間で無理を申して大變御迷惑を掛けましたが、色々研究下さつて、皆さん御覽の通り色の點に於てはなかなか冴いものゝやうに思ふのであります。この上はクオリティと厚さの問題で、従來は6mmと云ふことになつてゐますが、これはフェルトを入れました

けれども、フェルトが1mmしかありませんので、5mm位にしかなくてゐませぬ。フェルトを入れても、どうも靴のタッチがよくなりやうで、寧ろリノタイル自身をもう少し御研究になつて呉いものにして戴けば、獨り私共の船が幸するばかりでなく、皆さんが幸なさるのではないかと思ひます。それから施工の方の問題は仰しやる通り私は甚だ遺憾だと思ひます。船の仕事が遅れたのと旁々造船所が言ふことを肯かない爲に、間際になつてからバタクサと荒つぱい仕事をしたので、本船が出ましてから、あれが浮出しはしないかと非常に懸念して居ります。あれが浮いて、また蹴つまづいたり、こつたりして、先の御話のやうに怪我をして、又金を出すといふことが起りはしないか（笑聲）さういふ懸念もありまして、廣間だけはリノタイルの上にカーベツトを敷いたのです。椅子とか机とかがある所は、ローリングしても、摺まる所がありますが、廣間は端から端まで何もありません。こつて文句を言はれては困ると思ひまして、敷いた譯ですが、もつと呉いものを造つて戴きますやうに望んで居ります。

吉村——私共の職人が行つて、最後の施工までやるといふことは出来ないものでせうか。

和辻——さう出来れば宜いのですが、今度は話して見ませう。

新名——吉村さんが處女航海に隨いて行かれると宜いですね（笑聲）

吉村——リノリウムの品質は調合の割合で、もつと柔かいものが出来ると思ひますから、此の次からもう少しクツションの利くリノリウムが出来ると思つてゐます。何分初めてのことでございますから恐る恐るやつた譯でございます。これに懸り一つ御忠實に御指導を願ひます。

新名——どうも有難うございました。これで設計並に實際の仕事に御關係になつた方々の御話を伺つた次第であります。次に此の間見せられた側の方から一つ御遠慮なく御批評なり御質問なりを御願ひしたら如何でございませうか。池田さんから一つ御願ひします。

池田——此の間拜見しまして、非常に結構であつたのでありますが、實は私拜見する人の御世話なんかをちよつとやつて居つたものですから、何だかそつちの方へ氣が取られて、餘り氣持に餘裕がなく、其の上に船の室内装飾に對する豫備知識

も實はなかつた譯ですが、今から想ひ出すと古いことで、私が大學に居つた時分に、美術學校を出て助手をして居られた人が、其の後罷めて、長崎の造船所に入り、船の室内装飾をやつて居られるといふことを聞いて、如何にも室内装飾に付ては矢張り建築家が干渉すべき範圍のものであるといふ位の知識は持つて居りましたが、其の後果してどういふ方が之に關係して居られたか何等の消息も得ず、何も聞いて居りませぬ。今度は現代建築界の有名な方々が御關係になり、而もこれ迄は多くの場合に東京の方が多く御關係になつたのですが、今度は東京の方は一人で、大阪の方が多く御關係になつたといふことは、特に土地品價の私としては大変結構なことだと考へまして、拜見して色々得る所があつたのでありますが、只今申上げたやうなことで、折角見ましても、何等の豫備知識を持たなかつた爲に、内容自體に付ては實は御話するやうな材料を何も持つて居りませぬ。寧ろ唯漠とした船全體に付て教へられたやうなことでありまして、私としては結構なことだと思つて居りますが、それは今日の話題の範圍外になると思ひますから省略致します。

新名——では伊藤さんに一つ。

伊藤——私も池田さんと同じやうな立場でして元々船のデザインに付て餘り考へて見たことがなかつたのでありまして、先に和辻さんから色々御話がありました船のデザインの特異性といふものも初めて伺つたやうな譯でありますから「あるぜんちな丸」を拜見した感想とか何とかいふものがちよつとまだ廻らないのですが、船のデザイン其のものに就いてかうしたら宜い、あゝしたら宜いといふことでなく、こんなものだなといふぼんやりした感じだけは頭の中に出て來ましたので、直接「あるぜんちな丸」に關係がないかも知れませぬけれども、それを少し申上げて、御勘辯を願ひたいと思ひます。

先づ第1に感じたことは、船のデザインと近代建築のデザインが段々接近しつゝあるのだといふことを熱々感じたのです。先程の御話のやうに、所謂合理主義に従つてデザインをすると云ふことは、近代建築の數年來の動向でありまして、當然今後の建築は船と同じ方向に向つて行かなければならぬだらう、又行きつゝあるものだと思ひます。現に最新式の建築を業入に見せると、まるで船の

やうな家が出来たと言ふのですが、これは無理もない話で、建築が船に接近しつゝあるといふのは外形だけではなく、意義が接近しつゝあるのではないか。意義といふのは經濟の問題とか空間の利用とかの點であつて、先程新名さんから御話のあつた最小限住居なども設計のデーターとして船のチャンバーの取り方が相當参考になるだらう。建築が船までに切詰められるか否かは別問題として建築は船と同じ方向に向つてどんどん進んで居るのでないかと思ひます。さうすると、其の形、意匠の問題に就いても、先程御話のやうな組立式の施工方法とかさう云ふデザインが甚だ無意味になつて來る譯で、ルイ何世式とか、ヤレ何式といふ昔の建築様式に従つたものでは儼然なくなり、さういふものでは間に合はなくなつて來たと思ふのです。これは全然私の想像ですが、最近ノルマンディにしても、クエン・メリーにしても、國或は造船所に依つて競争意識もあるのでせうが、合理主義の方向に向つてどれだけ巧くやつて行くか、又其の技術の精練と云ふことに付て競争が行はれて居るやうに思ひます。さういふことになると、益々室内の意匠も昔の様式を其の儘踏襲したのでは駄目で、環境に相應したものに行かなければならぬと思ひます。そこで或國の船を造る時には、どういふ客に最もアツピールするかを、先づ第1に考へなければならぬと思ひますし、勿論さう云ふことを御考になつてやつて居られると思ひますが、さういふ點から言ふと、先程村野さんから御話があつた純日本式といふのは、要するに日本のものだといふ氣持を入れたデザインといふことになつて、さういふ點に特に御苦心なさつたのだらうといふことは想像に餘りある譯であります。尚どつちみち日本で出来た船でありまして、お客は日本の客が主か西洋の客が主か、客の好みを狙つて行くといふことになると、結局今の日本式といふ所に落着くのではないかと思ひます。それを陸の建築のデザインと比較して見ると、陸のものだと日本の地面の上に建てるのだから、日本のローカリティを條件として考へて行けば、それ程むづかしいことはない。併し船の日本式はもつと趣味的な問題で、氣持の上だけで擱んで行かなければならぬ。日本の土地の上にあるのなら、日本の氣候風土を條件に考へて、庇を餘計出すとか入口を大きくするとかといふスタイルが自然に生れる譯

ですが、限られた船のインナーをどういふ風に日本式にするかといふことは非常にむづかしいことだらうと思ひます。そこにも特に御苦心のあつたことだらうと熱々感ぜられるのであります。先程も御話がありましたやうに、赤道を何遍も通るといふことになると、氣候の上から云つて、日本式の形を持つた部屋の中の感覚が南洋の海の上を通る時に狭く感じるかどうか、それをうまく合して行かなければならぬといふ所にも大きな苦勞があるといふやうなこともばんやりと考へられます。もう一つは天井の高さの取り方が非常にむづかしいといふ御話を伺つたのですが、從來の日本の建築家は特に天井の高さに神経質で、割合に氣が附かれないお寺の庫裡なんかでも、部屋に依つて少し差が附けてあると云ふやうなことを見聞したことがあります。さう云ふやうな譯で、天井の高さに對する感覚、殊にそれが純日本式となると尙むづかしいのではないか。そして船には誤覺化しを利かせるやうなものは何もないのですから、成るべく簡単に日本的にして行かねばならぬ。さういふことから考へると天井の高さも非常にむづかしくなつて來る。そこで感覺的に其處に立つて見たり、色々な椅子を持つて來て腰掛けて見たり前に出來て居るものでそれを試して見たりして決めて行かなければ本當の寸法が出ないのぢやないか。勿論その高さが非常に制限されて縮まつて居りますから、それを活して行く點に於て大きな苦勞があるのではないかといふことも御察し出来る譯です。要するにこれからのものはデザインとしては段々シンプリファイされて行く。其の代り其の簡單化される省略方法に非常に苦勞が要るのではないか、それをやり損つたら、大變妙なものが出來上つてしまふ。さういふ點の御苦勞も御察しする譯です。

以上は船を中から見ただけの話でありますから、最後にこれを外から見た場合、詰り船のエレヴェーションですが、海の上を走つて居る船の姿を遠くから見た場合どういふ感じがするか、これは建築家では全然分らないことであつて、そこに動的の一つの美しさを作り出すと云ふことは非常に面白いことであるけれども、非常に又むづかしい事柄であると考えられます。此の間「あるぜんちな丸」を拜見した時は、岸壁に着いて居つたので、遠くから走つて居るのを見るのが出來なかつた

から、想像が附かないのでありますが、ポスターの繪を見ると、非常に好い恰好をして居る。ノルマンデイの寫眞に似て居るやうであります。今迄の船の中で一番好い恰好をして居る。これはお世辭ではない。それで一つ伺ひたいのですが、あゝいふものを御決めになるのには、先に或一つの形を考へて、斯ういふ形にしたいといふことで、デザインなさるのですか、それとも色々な船の機構から割出されて、或る程度の骨組が出来て、其の骨組を活す爲には此の形が宜いといふことになるのですか、其の邊の所が分らないのですが、合理主義的な考へ方に一つの根據を持たせる意味でさういふことも知つて置く必要があるので参考の爲に一應伺ひたいと思ひます。

中西——私も伊藤さんと同じやうな内容に觸れなければならぬのでありますから、引續いて述べさせて戴きます。實は「あるぜんちな丸」を拜見させて頂きましたが、私も池田さんと同じやうな立場で、甚だ短時間に見たい所も、實は率直に申し上げれば、見せて戴けない所もありまして、十分な感想を申し上げることは出来ないでありますけれども、自分が申し上げようと思つたことが今までの御話の中に多分にありましたので、序でに申し上げますと、自分の淺い経験と致しまして、アメリカから歸る時には淺間丸の處女航海に、ヨーロッパから歸る時には照國丸の處女航海に乘りました此の二つの日本の優秀船には建築家も關係されたといふことを聞いたのですが、此の二つから受けた感じは、甚だ残念ながら非常にチミツドに物を扱つて居られるやうに思ひました。今、村野さん・津山さんから御話を伺つたと同様に、陸上の建築家が海のものを買つたと云ふことに、何だか非常に引け目を感じられたと言ふか、新しい分野に行くので、勝手が違つたと言ひますか、何だか勇氣を缺いて居られるやうな所感がありました。又先程も御話にありましたやうに、デザインが外國の會社で出来て來る部分が多いので、別して淺間丸に至つては甚だ残念に思つた。何故あゝいふものを未だに固執しなければならぬか、これは船客としてアメリカ人が多から、アメリカ人の趣味にアツピールするやうに造られたのか知らぬが、現代優秀船を保證されて居るN、Y、Kの船として言ふことゝされることが違ふ。是では營利主義にのみ事を運んで居られるやうに思はれる、もう少

し日本を示す爲に勇氣を出されたらどうかといふことを難談して居りましたが、今伊藤さんが仰しやるやうに集合の船客に對して、國際的な層を狙はれることが一つの眼目であつたと思ひます。併し今度の「あるぜんちな丸」のやうに世界を一周されることを目的にされて居ると、色々な國の人が乗込むのではないか、さうすると、何處をデザインの基調とされて居るか、太平洋を横断して居る船を見ると、アメリカ人はアメリカの船に乗りたがり、イギリス人はイギリスの船に乗りたがりフランス人はフランスの船に乗りたがるといふ所があり、乗つて見て船の裝飾が矢張りそれぞれの國の趣を出して居るといふことを見ますと「あるぜんちな丸」は日本人を主にして船客の層を狙はれたのではないかと思ふのですが、先日拜見に参りますと、これは小さな問題ですが、社交室を拜見して居りますと、横に居られた人が、どうも硝子と電氣の照明が多いのは暑苦しくていかぬではないかと言つて居られました。これは別して暑い時に拜見したので、餘計にさう感じたのかも知れませぬが、日本人としてさう感ずるのも無理はないとして、私は反對に南米航路の暑い所を廻られるのにはあゝいふものが宜いのではないかといふ所感を持つて居つたのでありまして、さういふことを笑ひ話にして居りましたが、其の點に於て陸上に建つ建築と比較して、船のデザインといふものは非常にむづかしいことも氣が附いたのであります。併し建築家が此の方面に出られるのなら、もつと勇氣を出されたらどうかといふ感じを持つて居ります。其の勇氣を持つといふことに付ては、今伊藤さんの言はれた點に多々觸れなければならぬと思ひますが、重複は避けなければならぬと思ひますから、これで止めて置きます。

和辻——合せて御答を致したいと思ひます。御二人の御説は至極御尤で、甚だ面白く伺ひましたが、順序として先に伊藤さんの御話に御答申し上げます。

仰しやる通り船の氣持と陸上の建築の氣持は似て行くのが本當だらうと私は思ふのです。所謂文化主義、科學主義になりつゝある世界でありますから、さうなるのが當然であります。併し使用材料、或は能率主義、エフィシエンシー主義と申しますか、それに於ては陸上の建築が明かに後れて居ると思つて居ります。私は建築は素人でありま

すから、つい失禮なことを申すかも知れませぬが大阪市を見渡して、我々の感心する建物が何處にあるか、何百年前の外國建築の片事を眞似したやうなものでばかり並べて、何か都市の美觀であるか甚だ失禮な申分ですが、陸上建築に對しては私は非常に不善を持つて居る。無論それは建てる方の御希望もありませうし、建築家の思ふ通りに行かぬと云ふ所もありませうが、建築家に勇氣が欲しいと言はれるならば、寧ろ其の方に勇氣を出されるべきだと思ひます。それから船のアツビアランスの問題は御尋ねのやうに非常に苦勞をします。殊に客船に於て苦勞をします。何故かと申しますと船は經濟的効率、詰りエコノミツク・エフィシエンシイの最も高いことを目標とするものですから建築のやうに形が佳ければあの建築は巧いと言はれるやうな簡単なものではないと私は思つて居ります。それでリクワイアメントと申しますか、營業上の要求事項、其の船が寄る港、海の状態、風や潮の状態、港の深さ、客の種類と數、併せて荷物の關係等凡らゆることを考慮して、其の様式を活し、而も各國に於てそれぞれの港の規則があつて、其の規則の通りに出来て居ないと、港に入れてくれませぬから、其の規則に合致するやうにして、其のリクワイアメントを満たさなければならぬかうした自然的、人爲的の凡らゆる條件を考慮致しまして、それぞれのリクワイアメントを満たした最小限度の船最も安い船で、運行も安く出来、而もそれが便利であり、形から言つても、自然に客が引附けられるやうな船といふことを考へながらあゝいふ形に持つて行くことに苦勞をするのですが、何分にも非常に相反した要求條項が多いので其の要求の輕重に應じてバランスを取ることが一番むづかしいのであります。でありますから、まあ「あるぜんちな丸」を御覧になりまして、無駄なスペースや無駄な部屋があれば、何時でも指摘して戴きたいと思ひます。私はさういふ無駄は一つもないと思つて居ります。併し船には寧ろ全體の均衡と言ひますか、バランスと言ひますか、それが非常に大事でありまして、それを上手にデザインし、而もアツビアランスに於て合理的、合理的な形態美といふものを考慮しながら、やつとあそこまで出す譯でありますから、自分としてもまだ不満足な點は多々あります。何故かと言ふと、あの位の船にする爲に無理な要求が入つて居ります

併し其の無理な要求を斥ける譯に行かない。例へば政府の助成金を頂戴する以上は政府御當局の要求が色々採り入れられて居ります。即ち陸海軍の要求もあの中に入つて居ります。さういふことは何でもないやうですが、我々に取つてはなかなかむづかしいこともあります。又あの位のスピードの船は荷物を澤山積むことが事實上非常にむづかしい。而も航線距離が非常に長くて、28000海里といふ世界1周航路に就く爲に非常に澤山の燃料が要るといふことで、荷物が非常に積み悪いのですけれども、之れが要求案項の中にある爲に無理をして積荷の設備や場所が取つてある譯であります。さういふことで形としても随分苦しんであそこまで纏めた積りで居ります。ですから、先の御話でしたが、ノルマンディを手本にした譯でも何でもありません。寧ろあゝいふものは純客船として形を纏め易いのですから、もつと樂だと思ひます。

それからもう一つは、私先に申し上げませぬでしたけれども、陸上建築御専門の方に裝飾を御覧にする時に、實は甚だ勝手なんですけれども、現代日本式といふ名前を附けて御覧をして居る譯ですが、其の日本式といふことに關する御説が色々出まして、面白く伺つたのですけれども、結局船は領土の一つの延長であると私は考へて居ります。船そのものも其の國の文化或はテクノロジー、科學又は工學の進歩の程度を可なり現して居るものだと思います。其の中、インストルメント及び仕上げ關係、裝飾關係といふものは、科學、工學以外に其の國の美術とか工藝とかの領域の一部を現すべきものだと思つて居ります。それで先程も淺間丸の裝飾に對して中西さんから大分攻撃があつたやうですが、私はあの船が出来た時に或雑誌に意見を發表して攻撃したことがあります。あれは日本人がデザインをして、お客は實は日本人を相手にして居ない。日本人を相手にして居ないから、日本式を要求して居るのでなくて、外國式を眞似て居る。日本人が外國式を眞似てデザインして、外國以上に来ることはむづかしいことです。我々が幾ら氣張つて、外國に於けるロマネスクやルネッサンスのものを眞似して見ても、其の二分の一、三分の一も出来ない。結局日本人が外國のものを眞似したのでは外國以上のものは絶対に出来ないと思ひます。我々が外國人以上のデコレ-

ジョンを設計し得るものは日本趣味のものでないかと考へます。日本趣味といふ言葉が響けば、何と言ひますか、我々日本人が設計し得るもの、而して外國人に出来ないもの、さういふものが出来なければならぬと思ひます。併し申す迄もなく現在は世界の文化の程度が非常に相近附いて來て居りますから、生活様式に於ても我々と白人と大した變りがない。其の點に於て船のみならず、陸上でもマテリアルが非常に共通性を帯びて來まして、必然的にエフィシエンシーの好いものを使ふやうになつて居ります。鐵骨が便利なら鐵骨を使ふといふことになる。さういふ點に於ては殆ど共通性がある。其の點から言ふと、素人議論になるかも知れませぬが、デコレーションでも矢張り共通性があつて然るべきものと私は考へます。ですから、俗に言ふモダン、これは何處のモダンでも構ひませぬ。日本人の性格から言へばフレンチ・モダンが一番近いモダンであるかも知れませぬ。兎に角モダンであつて而も日本人でなければ出来ないもの、そして外國人が其の部屋に入れば、日本人ほど分らぬにしても外國人にも分るもの、さういふデコレーションを設計して戴きたい、斯ういふ風に考へて居るのであります。ですから、横濱のニュー・グランド・ホテルのやうな部屋の中に寺の柱を持つて來たやうな馬鹿氣たものを造つて置くことは更に要求して居りませぬ。眼に見える所に日本の物が何もなくても宜い。唯部屋に入つたら、壁の裏に日本の流れが感じられるといふことで結構です。あとは現代式でよいのです。又船そのものが現代式ですから。最初中村順平君に頼んだ時に、これでもか、これでも日本式が分らぬかといふやうな設計でした。それで私は部屋しかやらなかつた。あとは皆ルネッサンスとか何とか昔のスタイルを部屋に依つてやつて置いた譯です。12年前に中村君に日本式を初めて御頼みしたのですが、どうも怖くて、どんなものが出来るか分らない。事實出來て見ると、我々日本人から見ても別段感じは悪くないが、如何にも日本の部屋を其の儘持つて來たやうなもので、これでは船の中へ惡趣味を持つて來たやうなものである。大體船の中でゴシックが欲しいとかジャコビアンが欲しいとかいふのは間違ひで、現代はプレーンでよい譯です。唯何處かに日本趣味が流れて居るといふものを建築家に御頼を致して居ります

それから社交室が暑いといふ先程の御話は事實非常に暑く感じます。實はあんなに澤山光を點けて貰ふ譯ではなかつたのでありまして、私も出來たのを見て吃驚したのです。それであれば御覽に入れる爲に點けましたが、實際は大部分消して置く積りです。中村順平君に、あれはステージの着く部屋だから、ステージが出來ると何か皆が寄つて賑やかな催し物をすることもあるだらうから、其の場合に賑やかにして貰ひたいといふ私の希望が入つたのであります。一寸無理が勝ち過ぎて、聊か賑やか過ぎて居るやうな氣がしました。あゝしなくても宜かつたと思つて居ります。それからまだ御尋ねが殘つて居つたやうに思ひますが

伊藤——いや結構でございます。能く分りました。我々が言はうとする所を皆言つて下さつたやうで（笑聲）

和辻——先程私は建築を止めて造船をやつたやうに仰しやつたがさうではない。どつちをやるか迷つた譯です。建築のデコレーションの方は素人ですから、其の御積りで聽いて戴けば結構です。

松本——中西さんから御批評を戴いた淺間丸は實は私の方の工場で一等食堂の一部とステアークースなどをやつたのですが、今御話を聽いて居つて冷汗をかきました。

中西——N, Y, K, の御注文であゝいふものになつたのでないか、さうした時に建築家が勇氣がなかつたのだらうといふ所感を持つたものですか、

和辻——N, Y, K, は由來英國流なんです。デコレーションに限らず、船に附ける補助機械、例へば舵を取る機械にしても荷揚をする機械にしても、イギリスのものを使はなければ氣が濟まなかつたものです。N, Y, K, 關係の方も居られるかも知れませぬが、兎に角我々から見ると、をかしいと思ふ位でありましたが、今度といふ今度は現代日本式といふことで、我々にすつかり追隨して來た様です。

村野——要求は現代日本式といふことになつて居りますね。

中西——私は今度拜見して、あそこまで設計者が御進み下さつた御苦心に非常に敬意を拂つて居る次第であります。これは造船の方も裝飾の方も双方くるめて申し上げます。

和辻——ところが、陸上の建築はどうしてかう

變らぬのでせうか。

伊藤——これは慨嘆に堪へませんね。

和辻——私は日本の土地は建物に庇の要る土地だと思ひますが、まるで牢屋のやうな、イギリス式とでも言ひますか、あゝいふ大阪俱樂部式のことを能く建てるものだと思ひます。

伊藤——事變でも済んで建物が建つやうになれば、もう少し良くなるでせう。大分自覺が出来た様ですから。

和辻——私は建築家を悪く申す譯ではないが、大正、昭和を通じて建築に数億といふ無駄のが寝て居ると思ひます。私は建築家が變な形のことを抱へるのに浮身を篋して、エフシェンシーと云ふことを餘り顧みなかつた結果だと思ふのですが、耻しいやうなものばかりと思ひます。

伊藤——是は老大家に對して言葉が悪いかと思ひますが、今迄は大建築家がなかつたからで、これからは大建築家が出て来て活躍すると思ひます。

池田——謂はば自主外交に立つて、初めて日本人が日本人の價値を認めた。今迄は日本人が卑屈心といふか、總てが外國人に及ばないといふやうな考を有つて居りましたが、矢張り自主外交といふことになつて是から本當に日本化したものが出て来るのではないかと思ひます。今日の御話は室内裝飾といふ御話でしたから、何も申上げる餘地はなかつたのですが、船全體といふものに對しては多少言ふ所がありますが、是も船に對して全く素人の私が言ふのですから、變ですが、私が拜見して感じたことは、我々は昔から汽車の三等に乗つても、船の三等には乗るなど言ふて居る。あれ程三等と一等と區別をしなければならぬか、これは外國から來た習慣でせうか、あの思想は何處から來たのかと云へば、白色入種が黄色入種を侮蔑的差別待遇をした其の儘が現れたもので、所謂「ダヤ思想」の表現のやうな氣がする。例へば三等へ下りて見ると、如何にもベースメントへ下りて行くやうな氣がする。一等は料金も高いから、良いのは無理はないが、三等は唯ちやんとして寝るだけの餘地しかない。寢惚けて下手に手を伸すと隣りの客に觸る。若しそれが婦人ででもあつたらどうなるかと考へましたが、後で男の客と女の客とは別だといふことを聽いて安心しましたけれども、これはどうかと思ひます。上の方へ行つて見ると

夫婦のベッドが並んで居る所などは餘裕綽々たるもので、如何に差別をするにしても實に激しいといふ感じを起しましたが、かういふ所はもう少し何とかならぬものでせうか。船のことを些つとも知らないのですが。

和辻——仰しやることは御尤で、其の爲に既に現在ワン・クラス・ボートといふ一つのクラスしかない船が大西洋にはあります。それは大西洋を渡つて、アメリカとヨーロッパを往復する人は、大體文化の程度、教養の程度、富の程度が割合に差がないと思ふのですが、併し「あるぜんちな丸」は本當を申し上げますと、3等は移民を運ぶ設備にして居る。と言つて移民は侮蔑する譯ではありませんが、移民は日本の政府の補助金で渡航する人ばかりです。家族移民は250圓の金を政府から丸々貰つて自分の金は50圓で南米まで渡る人です。これに反して1等は海峡植民地から東アフリカ南阿、南米、北米間に於て主として外國人の客を取らうといふ爲の設備なんです。そこに非常な差異があります。例へば賃金から言まひすと、200乃至250圓に對して特別室富士の料金は世界一周一人でも二人でも一萬二千圓、片道は7000圓位になります。約20倍近い賃銀の相違がある譯です。それでも根津さんのやうに家族連れて世界を一周して來ようといふ客もありますが、あの3等の金を倍にしたら非常に困るといふのでありまして、それだけの差があるのであります。

池田——さういふことを知らないものですから。

和辻——併しあの差を成るべく近寄らせたいと思つて居りますが、御承知の通り今度鐵道省は神戸と京都の間は急行以外の2等を廢しましたね。それで困つて居る人が澤山あると思ひます。神戸と大阪の間は急行以外二等がない爲に、須磨や芦屋邊の人は困つて居る。相當大きな仕事をされて居る方が魚屋のおつさんと一緒に揉まれなくても宜い譯であります。一方差別はない方が宜いのがまだ、差別がなければ工合が悪いやうな國民の程度だと思ひますね。汽車は料金が二倍ですけれども船は二十倍ですから、そこは大分違ひますが

村野——その所は外貨吸収、外貨獲得といふ風に考へたら宜いでせう。

和辻——實は帝都で大臣各位に本船を御覽願つた時に荒木さんと板垣さんを御案内して能く説明

して置きました。實は日本工業新聞に素ツ破抜かれて弱つたのですが、ダンス・ホールを造り、美容室を造るといふことに付き先に荒木さんに説明して、外客を乗せることであるから、さういふ眼で見て戴きたい、此の當局に賢澤なことをしてダンス・ホールなどを造るのは以ての外だと御叱りを蒙ると困りますから、さういふ眼で見て戴くやうに説明はして置きました。

新名——それでは鶴丸さんどうぞ。

鶴丸——私も池田さんと同じく見學の方の世話をして居りまして急いで廻つたので、詳しく拜見して居りませぬが、3等のライブラリーですか、ライティング・ルームですか、外の船にはあれだけスペースを取つてないと思ひますが、あれは宜いと思ひますね。

和辻——移民と言ふと、言葉が悪いですが、渡航移住者を運びますと、總てが家族移民である爲に、子供が非常に多い。あそこには食堂にピアノが置いてありますが、あの部屋を子供の爲に學校にする譯です。神戸を出ますと、尋常1年から6年まで編成しまして、船のクラークが主になつて日本の讀本には限りませぬが、小學校の課程を出來だけ教へながら南米へ連れて行きます。其の外スペイン語の講習をやつたり、色々の設備を中に拵へ、又渡航者が上陸して、婦人も働くことを望んで居りますから、料理の講習をしたり、向ふの事情を知る爲に本を讀んだり、書き物をするのに便利だらうといふので、あゝいふものを造つて見たのです。

鶴丸——非常に宜いと思ひます。それからこれは或る入の話ですが、船のインサイドの廊下の壁はホワイト・ラツカーですな。あれを全部本目を現してやれば、非常にアツトホームの温い感じがしないか。これは光線の關係があるかも知れませぬが……

和辻——高くなりませう。

鶴丸——外國船にはあるやうですな。

和辻——昔の船にはありますけれども、新しいものはブレンな白い明るいものを使ひます。昔のものには陰氣臭いのがありますが。

鶴丸——あれを餘り白くて親しみが無いといふことを言はれた人がありましたものですから。

新名——それでは小林さんに

小林——此の間は慌しい見學をしまして、裕つ

くり落ちていて拜見出來なかつたのを残念に思つて居ります。それで間違つた觀察をして居るかも知れませぬが、氣附いた點を申し上げます。

先程御話がありましたやうに舷の反りとか、梁の反りとか、縦横の反りを御除けになつて、水平甲板になさつたので、陸上の建築と少しも變りのないやうに感じました。バブリック・ルームはそれぞれの大家に御依頼になつて非常に工合が好く出來上つて、陸上建物を見るやうな感じが致します。ところが、一方プライベートなキャビンの方を拜見しますと、昔からある外國船のキャビンそのまゝでベッドが置いてあり、或はドレッサーとか或は特別室のソファ、さう云ふ家具類に少しも進歩と言ふか改良が加へられて居なかつたのを非常に残念に思つて居ります。私は航海した経験もありませぬし、船の上の生活も能く分りませぬし、又あの船に日本人が澤山乗るか外國人が澤山乗るか、それも分りませぬが、裝飾の方に現代日本様式を取入れておやりになつたのですから、キャビンの設置の方にも日本様式を取入れる意味から何處かに疊敷の部屋でも拵えて、浴衣でも着て寢轉がられるやうな部屋があれば、長い航海生活をする人にいゝのぢやないかと思ひます。長い間狭い船室に閉籠められて、見るものは海ばかりですからさういふ寛いだ氣持のする設備を御取りになつたら、どうかと思ひました。それから先程も御話になつた3等の船室の方ですが、まあ移民なさる方は向ふへ行けば、何れ椅子式の生活を餘儀なくされるが、それ迄の過渡期としてあゝいふ閉籠められた生活も無理はありませんが、もう少しスペースを割いて、疊敷の部屋でも拵へて、其處で寛いだ氣持になれるやうになさつたらどうでせうか。

和辻——浴衣がけで寛ぐやうにといふ御話であります。先に申し上げましたやうに1等は主として外人から金を取ることを目標にして居ると、此の船の航路の性質上、比較的海が靜かであり、南大西洋も靜かだし、印度洋も靜かで、太平洋が一番悪いのですが、大體に於て海が靜かであります爲に、キャビンに居ることは少く、バブリック・ルームに出ることが多い。殊に暑い航路でありますから、コンファインされた所の狭い部屋に居るよりも廣いプロムナードに居ることが多い。それでキャビンよりもバブリック・ルームに主眼を

置いたのです。キャビンの大きさは勿論船幅の関係がありますが、あれでぎりぎり一杯の大きさになつて居ります。それからキャビンの室内裝飾が古いといふ御話であります、ベッドとしてはシモンのスプリングマツトレスを着けて居りますし狭い部屋で30吋の幅にして居りますが、船としては其の位の幅のベッドで十分ぢやないかと考へて居ります。新しい設備としてどういふものをあれに加へたら宜いか、何か御意見がありましたら、どうか御諒かせ願ひます。

小林——先程の御話のやうに、スペース・エフィシエンシーといふ意味から、キャビンの色んな家具類を造附になさつたら、どうでせうか。又先刻申しました特別室ですが、ドレッサーと申しますか、下へ衣袋類を入れて置くものなんかも古い恰好のものですし、それにツアーにしても同様の古いものでしたが、バブリックルーム同様、キャビンにも建築家にも參與して相當新しい意匠のものを取入れて頂きたくつたと思ひました。

和辻——それは改めて申し上げますが、私自身不満の點があります。施工に付ては最も不満な點がありますが、皆さんから伺へれば伺ふだけで、私から申し上げぬことにして居りました。只今御話が出ました部屋は最も出来が悪い。殊にあの家具は試運轉當時に全部取換へるといふオーダーを出したのですが、到頭造船所が私の言ふことを肯かず甚だ遺憾に思つて居ります。事實あの部屋は壁と周囲から言つても船の中で一番拙いので、痛い所の漏星を指されたやうな恰好ですが、あの部屋に關する限りはお説の通りフアチエアも極めて拙いことを遺憾に思つて居ります。それから浴衣がけでといふ御話ですが、これはインターナショナルと言ふか、萬國人が乗りますから、どうもね

小林——疊敷の問題は殊に御婦人方もおのりになる事でせうから、勿論其の中の二つか三つ位の部屋に、試みられたらどうかと思つたわけです。

和辻——疊では無論定員も取れませぬし、又疊の上に寝かすことは規則が許さない。どうしてもベッドを置かなければなりません。假にどれかのベッドを外して疊の部屋にしましても、穴の中へ入つて行くか、下へ沈んで行くやうな氣のするものでありまして、窓をうんと下に下さぬと駄目です。疊を置いて棹が附くと、床ごと全部上げれば宜いのですが、外が見えない。實は別府航路にも

疊の茶室を二部屋拵へたことが、ありますけれども、デツキから二寸や三寸床を上げた所へ寝る感じは餘り好くないやうです。併し別府航路は大阪から別府へ遊びに行く人を狙つて縁側の附いた四疊半の茶室を造つて見た譯です。また御乗りにならぬのでしたらば一度試みて戴くと宜かつたのですが、本當の所を申上げると、どうも御婦人連にも餘り評判は好くありません。矢張りベッドの附いて居る部屋が好いやうであります。最近になつて止めたが元の別府航路の墓丸クラスには日本間があります。御話のやうな趣旨ですと、淺間丸には、すき焼部屋といふのがありますけれども日本の部屋を見せると言ふのなら兎も角、我々としてはそれ程の犠牲を拂つて浴衣がけの部屋を造る勇氣がない。かう申した方が宜いと思ひます。それから3等の客も今申上げたやうに疊だけでは定員が取れない。それでも近海航路以下の船だけは疊を許されて居りますが、遠洋航海では許されて居りませぬ。ブラジル・アルゼンチン等外國の規則がありますから日本だけ許されても無論駄目です。3等の設備としてもつと廣い部屋があればといふ御説ですが出来れば結構で私もあれで廣々して居るとは考へて居りませぬ。唯運賃相當で、無暗に損をせぬやうにしなければね(笑聲)どうせこの船は損です。

小林——あの荷物を卸す所に頑丈な椅子と卓子置いてありましたが、あゝいふ所を利用なさつて假の疊敷のものでも御座へになつたらどうでせうか。

和辻——それは出来ないことはありませんが、私をして言はしむれば、此の時代の要求に従つて往きは御客を乗せて歸りは荷物を積む。あのベッドは疊んでしまふことになつて居りますが、移民は片道だけ乗るのですから、移民を南米に掲げると、四隅にあるコンパートメントにベッドを入れてしまつて、あそこは荷物を一ぱいにし、歸つて來る譯であります。それで客室の設備として綺麗にならない、綺麗にするやうな荷物で壊れてしまふ實に無理なんです。移民が片道であるといふこと更に國家國民が出す金で移民を渡航させて居るのですし、成るべく安く向ふへ運んで、歸りは向ふの荷物を積んで來ようといふので、思ふやうな設備が出来ませぬ。それからトウウキン・デツキがあれだけ高くなつたのは、最近出來た安全法の規

則に依つたのでありますが、ルーミーな點ではあの船としては上々ではないかと思つて居ります。それは1等と3等と比べたら、池田さんの御話のやうに随分差があると思はれるかも知れませぬが。

新名——玉置さん、一つ御願ひ致します。

玉置——大分皆さんが御話になつたから別にありませぬが、實は詳しく見せて戴きたいと思つたのに、到る處繩が張つてあつたり、橋が卸してあつたりして、見たい所は皆見られないで、見せて貰つて文句を言つてはいかぬのですが掌の鹽から天を覗いて來たやうな氣がします。が併し立派に裝飾されて居つたのには感心しました。流石に自慢されるだけあると思ひます。最近大きな建物が禁止されて出來なくなつたせいもあるかも知れませぬが、建物以上の裝飾が澤山附いて居りましたから、それを面白く見せて戴きました。先刻裝飾に使ふ金額は船全體の5%であるといふ御話ですが、其の5%を有効に使ふ爲に専門家にデコレーションを依頼するのだといふ御話を聞いて想ひ出したのですが工學博士の伊東忠太さんが東京の大學の土木科で橋梁美術といふ講義を1年間掛かつてされてゐた。其の1年間の講義で何を言はれたかといふと、結局橋の裝飾は土木屋さんがやつてはいかぬ建築屋に任せろ、唯それだけのことだ、といふことを聞いたのです。それとこれがどういふ關聯があるのか分らないが、さういふことをばやつと想ひ出しました。これはクライアントに対する注文としてかういふ言葉が勿論出て來たと思ひます。それから先程建築家が何億圓といふ金を裝飾の爲に無駄に死なして居るといふ御話でありましたが、あれは私はどうか知らと思ひます。こゝ數年來、私は好きで日本の古い寺や神社を閑にまかせて見て歩いて居りますが、歴史的に見て今日の日本の建築界裝飾の少い時代はないと思つて居ります。昔の建物を見ると、彫刻が澤山附いて居つて、繪はふんだんに書いてある。例へば藤原時代の建物は建物に裝飾するだけではなくて、佛像などが澤山置いてある。ところが、此の頃の建築物の裝飾は材料の裝飾で、良い材料を使つて建物を良く見せようとして居る。村野さんみたくやうに、ちよいちよい繪を畫いたり、彫刻を使つて居られるのがありますが、本當にちよいちよいなんでありまして、大體建築物には無駄な彫刻はない

のですが、今度見せて戴いた船の中には随分思ひ切つて裝飾を御使ひになつて居つたやうです。建築家が陸で建築する時にはあんなに澤山附けて居ないのに、あれは又非常に澤山附けてあつた。これはクライアントの御注文が非常に利いた爲ではないかと思ひます。何だか私の日頃の考へ方とビツタリ合つたやうな氣がしまして、もう少し詳しく見せて戴いたら、もつと宜かつたらうといふ感じをして出て來たやうな譯です。

和辻——折角御覽に御出で下さつたのに、どうも繩を張つてあつたりして定めし御迷惑だつたらうと思ひますが、決して皆さんを敬遠して御見せしないやうにした譯ではなく、勝手にあつちへ行つた、こつちへ入つたりされると、始末が附きませぬので、整理の關係で致しましたことですが、偶々御覽に御出でになつた所に張つてあつたのだらうと思ひます。どうか其の點は悪しからず、私から改めて御諒承を御願ひ致します。それから伊東忠太さんの御話が出ましたが、私は橋梁と雖も飛行機の格納庫と雖も、機械と雖も、數理的に出來て居るものは美しいと思つて居ります。それは昔の古い飾りを附けたものよりも遙かに綺麗な。又其の新しい藝術的の價値を鑑賞出來ないやうでは現代人ではない。伊東さんの橋梁の裝飾は建築家がやらなくちやいかぬと言はれたのは極端であります。其の頭でやる必要はありません、本當に數理に據つた合理的な寸分の隙間なくデザインされた橋梁ならば、必ずや立派なものと思ひます。其の意味で伊東さんの建築家が橋梁をやらなければならぬといふのは少し賛成致し兼ねます。尙昔の建築と今の建築との御話ですが、昔の建築は信仰の建築が多く、其のモニュメント以外に出ないと思ひます。今の建築は働かんが爲の建築でありそこから何物かを得ようといふ建築です。例へば大阪には、市廳は10も20も要らぬ。美術館も澤山要らぬ。寧ろオフィス・ビルディングを建て、其の中で仕事をしようといふのが本當だらうと思ひます。其の仕事をしようと思ふ者に餘計なものは要らぬといふ私の意見です。もう一つは死んだ場所が非常に多い。要らぬ材料が澤山使ひ過ぎてある。例へば鐵骨とコンクリートと硝子で建築するのに、何故あれだけ壁を澤山附けるか、あれは何の爲だと言ふのです。鐵骨は鐵骨、フロアはコンクリートで固めて、あとは硝子でやつて、東

京や大阪の中央郵便局のやうな建築にした方が現代の建築としては遙かに合理的であり、それだけ私にはあゝいふ建築の方が美しく見えます。鉄骨をやつて置いて、フロアの間に重い壁を附けたりする必要は更にはないと思ひます。若し光が入つて困るといふことがないならば、あの間を全部硝子にしたら宜いと思へて居ります。これは素人考ではありますが、さういふ意味で、何の爲に建築をするのか本當に理解もせず、唯昔學校で習つたものや方々で見た昔のものを眞似て部屋中紙を擴げてデザインして見ても、それでは無駄だらけだ。さういふことの爲に多くの金が寝て居る。そんなことは要らぬことぢやないかと言ふのです。よく言ふのですが、私共のビルディングにしても前の方に變なものが附いて居りますね。

村野——これはどうも弱つたね。あれは私がやつたのだから。

玉置——時代が違ひますね。

和辻——時代が過ぎたから言へるのだが、あそこから今日我々自動車に乗らうとしても、雨の中を走つて雨に濡れながら自動車に乗らなければならぬ。それならあれに雨に濡れないやうなものを附けて下さつた方が遙かに有效だつたと思ひます。あれは村野さんがやられたのとは知らなかつた、渡邊さんがやられたのだと思つてゐた。

玉置——村野さんの御設計になつた部屋ですが京都の畫家を書いたといふ畫のあつたのは、あれは佳いですね。

和辻——其の點は私からももう少し強調して置きます。あれは勿論村野さんが指導されたのですが、京都の宮崎が非常に協力されたのです。造船所が張込んでくれたのではなくて宮崎さんが張込んでくれたのです。實は私もあれ程のものは考へて居なかつたのですが、宮崎さんの御主人がさういふ船なら一肌脱がうといふことで、皆を平安神宮に連れて行つて、神様を拜んで身體を清めてから仕事を始めたといふ位で、さういふ意氣で盡力して下さつたことを非常に感謝して居ります。これは特に此の際申上げて置きます。

玉置——天井に書いてあつたのは誰ですか。

和辻——あれもさうです。

村野——私もさう感じてゐたのですが、和辻さんが先に言つてしまはれたので、全部オーケーですが建築家が知つて居るかどうかと思つて居つた

のに和辻さんに指摘された譯で建築家の痛い所を突かれた形ですが、合理的のことは別して、工藝的な方面に付て申し上げますと、仕事を始めて非常な深刻な態度で物を運ぼうとすると、例へば遠く離れた造船所で仕事をするのですから、自分のデザインを空想して、それがどういふものになるか心の中で描いて見て、其の描いたものを自分の子供のやうに可愛がつて細かい所まで考へて行くと、段々行詰つて、どうしても建築家だけではいかぬ、どうしても工藝家の協力を要するといふことを非常に痛感して來た。これは一面から言ふと私が京都といふ非常に幸せな所に接近してゐる關係もあるだらうと思ふが、今度程工藝家の協力を有難く感じたことはない。殊に繒物の味とか漆とかは、私も口では繒物屋さんに喧しく言つて居たけれども、なかなか思ふやうに行かない。ところが工藝家を通じて仕事をして行くと頭がスツとした。これで思ふ通りのものが出来るといふことを今度こそ痛感した。それは自分のデザインを非常に可愛いく考へて、それが其の儘育つことを望む心から、それを押し進めて行くと、結局どうしても自分だけではいかぬ。各方面の工藝家の協力を得なければ出来ないといふことを今度程痛感したことはない。其の點で今度各方面の工藝家が協力されたことに付て實に有難く感じたのであります。定めて皆さんも御考へだらうと思ひますけれども、今後とも此の方面の入を能く活して戴くことが必要だと思ひます。工藝家は長い間唯室内の鑑賞的のものばかり造るやうに馴らされて、數百年來本來の目的から遠ざかつて來たのでありますから、今一足飛びに建築に入ることは可なりむづかしいやうな工合になつて居りますが、それを指導——と言つては語弊がありますけれども、能く自分の考を言へば、性質上敏感な教養が出来て居りますから、割合に早く吞込んで貰へるので、さう初から完全には行かないにしても、回を重ねて行く中には、立派な工藝家が建築に協力して居るといふ外國のやうな状態が遠からず日本にも必ず來るのではないかと最近非常に痛感して居ります。特に此の際建築協會などが率先して是等の工藝家が其の本來の目的に立歸るやうに御指導或は御協力下さつたら、大變宜いのではないかと思ひます。今度私の誠に恥しい仕事に協力下さつた工藝家の熱情といふものは、自分が分擔したものに

對する私の熱情よりも更に數等勝れた洗練された熱心さであつたのをまざまざ見まして、將來は必ず良いものが出来るたらうと痛感しました。私共は一面工藝家諸氏の努力に感謝しますと同時に、今後とも何等かの方法で建築家と工藝家との完全な協力といふことが實現されるならば、建築そのものも本質的に良くなるのではないかと考へてゐるのであります。此の機會に其のことを一言申し上げて置きます。

玉置——今村野さんが言はれたやうなことを私も日頃から感じて居りましたが、從來の工藝家は非常に小さいものを拵へて200圓も300圓すると、畫家や工藝家に拂ふ金が建築費の大部分になつて問題にならぬといふことで、皆が能う寄附かない。だから、これは餘り著名の人に頼まずに、無名で優秀な人に頼むとか、何とかもう少し安く出来る方法はないものでせうか。

村野——實際は安くやつて呉れる人があります。我々の考では大家には御願をしない方が宜い。大家は自分の言ふことを背かないのでなかなか調子が出ない。大家でなく埋もれた人が澤山ある。さういふ人の方が我々の要求を非常に熱心に深刻に考へて下さる譯です。

玉置——それは唯かに今御話のやうに建築家がさういふ人を拾ひ出さなければならませぬね。これは相當皆が考へる必要のある問題ですな。私は熟考へますが桃山時代のあの立派な彫刻は恐らくあの時代の大家が彫つたのではないと思ひます。

村野——それはさうでせうね、建築家だけでは高度の建築は出来るものでないといふことを痛感致しますね。

玉置——和辻さんは私の話を誤解して聽かれたやうに思ふのですが、私が橋梁の裝飾は建築家に全部を任せと言つたやうに聽かれたやうであります。さういふ意味でなく、各部分各々専門家に任す方がいと云ふ意味であります。

和辻——私が今迄感じた所では、建築を専門にされてスタートされた方に御願をすると非常に形を氣にされる。圖案家から出られた室内裝飾家に御願をすると、實に模様が好きで、模様で以てデコレーションを解決しようといふ傾向があります。善い悪いは申し上げませぬが、それを巧くコンバインされれば宜いと思ひます。室内裝飾も今後

は材料の關係からでも、特別のもの以外はプレーンな形をした部屋が追々多くなるだらうと思ひますが、其の室内をどう上手に飾るか問題であると思ひます。從來のやうに材料で形が出て來れば宜いですが……

中西——さういふ點から言ふと、「あるぜんちな丸」は結構ですが、ヴァラエイティが少ないのではないでせうか。

和辻——それは一つ一つ別々に御願をした關係もありますが、スタイルが同じですから他の釣合上此の部屋はかういふ色にしたら宜い、此の部屋はかうしたら宜いといふことはなかなか申上げにくいのです。これは昔のやうにスタイルを變へれば、宜いですが、同じ方にお願ひすると矢張り何處かに癖がありましてね。

村野——和辻さんの御話はお聞きの通建築家跣足ですが、僕は「あるぜんちな丸」はあれでまだ統一が取れて居る方だと思ふ。他の會社であれで出来るかどうか疑問ですね。大體これは舞臺と同じで、舞臺では演出家がどうしても居なければならぬ、我々はまあ役者だが、役者を纏める演出家が居ないとばらばらになると思ふ。

伊藤——ノルマンディと「あるぜんちな丸」を比較すると、「あるぜんちな丸」が良いやうですね。

和辻——ノルマンディは良いと思ひます、兎に角あれはデザイン料だけでも大したものですよ。

村野——「あるぜんちな丸」もう少しデザイン料を出したら、もつと良くなる。(笑聲)

和辻——デザインが皆違ふのですが、フレンチ・モダーンの裝飾は、フランス人の手になると大體似た感じのものが出来るやうですが、全體を通じて非常に良いやうに思ひます。イギリスの船なんかは比較にならぬですね。併しイギリスも最近に出来る船はモダーンになりましたよ。

池田——イギリスのは大きいだけですか。

和辻——先づ大きくても新らしい味が少い保守的なものが多いやうです、それから私の方では稍々小さいのを合せて今4隻造つて居ますけれども室内裝飾は全部變つたものをするに於て居ります。無論村野さんにも長谷部さんにも御願をして居りますし、大林さんにもお願ひして居りますが、今度は繩を張らぬ所でゆつくり御覽を願ひします(笑聲)

村野——建築家は別ですから、今度は日を別に
して戴くと宜いですね。

和辻——實はさうする積りだつたのですが、日
がなくなつたものですから。

新名——それでは清水さんに御預ひします。

清水——私は矢張り先程來の皆さんと同じ立場
で、殆ど素通り同様に、かういふことがあると思
へば、もう少し細かく拜見して置くのでしたから、
十分拜見もしなかつたやうな次第です。今迄大分
御話を聴きまして稍々輪廓が分つて來たやうです
が、和辻さんが御出でになりますから、序でに馬
鹿氣た質問かも知れませぬが、一寸御伺ひ致しま
す。船室、殊に公室の窓の附け方ですが、あれに
は船には船の特別の制限があるのですか、如何で
すか。

和辻——あれは位置に依つて違ひますが、無論
あの邊の位置では何等規則はありません。併しあ
の公室の周圍を成して居る壁は、コンストラクシ
ョン上或程度のストレングスを必要として居る部
分が澤山あります。窓と窓との間に入れてゐる防
撓材、あの真中にある取ることの出来ない柱あ
中には鐵骨が入つて居る譯ですが、それと同じや
うに壁の一部も柱の代りを成して居りますから、
あの程度の大きさより開けられないのです。總て
船の割合に機械が大きく、殊にディーゼルといふ
關係で非常な震動も免れない。それで震動に對し
てはかなりの注意を拂つて居る積りですから其の
爲に窓の大きさはスモークルームのは思ひ切
つて開けて見た譯であります、從來はあれまで
は行つてゐないので今度初めて床まで開けてしま
つたのであります。

清水——それは建築でも同じことですが、窓の
下場が高いやうに思ひますが。

和辻——全體に船は高いですが、それはスライ
ディングで下へ下す窓が多いからであります、
あれで下り切れない窓があります。水止めから申
しますと、外へ開けられない窓はどうしても下さ
なければならぬ。丸窓は内開きで行きますけれど
も、あれ程上の頑丈なものになりますと、大きな
ものは邪魔になつて、それも出来ませぬ。それで
外へ開いて差支ない所は窓の大きさに依つて一部
を外へ開き。それが出来ない所は成るべくスライ
ディング・ダウンにして居りますが、一部開けたり
すると、却て邪魔になつて困ると云ふやうなこ

ともあります。大體が一つは金の關係がありまし
て、窓を思ひ切つて大きく開けると金が掛る。そ
れから窓の隅からクラックが來ることが多いので
す。それで窓のコーナーが丸い方が宜いから、それ
でも窓やドアのエントランスに早くクラックが來
ることがあります。陸上と違つて非常に歪みが來
ますから。兎に角500尺の船で3~4in 撓みます。
甚しい時には6in も撓んだ例があります。鐵は強
いものですから、それだけベンディングすると、
其のストレスが何處かへ現れて、歪みが來る譯で
必ず弱い所へ出て來ますので、さういふ點から丸
窓の犬きいのは厭がります。

窓は餘程丁寧に氣を附けて止めて置きませぬと
船がローリングします時にあれがよく割れるので
す。普通の生易しい止め方では駄目です。それか
ら水止めが困るといふ意味で兎角窓が小さくなり
勝ちです。あれで私としましては出来るだけ大き
くした積りで居ります。

清水——それと關聯がある譯ですが、近頃の船
は餘程それがなくなりましたが、船室へ降りて行
くと一種の臭ひがしまして、それが船酔の原因に
なつて居るやうに考へられます。あれは船に付き
物のやうになつて居りますが、臭ひのしない方法
はないものでせうか。

和辻——或る程度は仕方ありませんが、さ程臭
くはないやうに思つて居ります。

清水——最近の船は冷房裝置があるやうです
ね。

和辻——私の所の船は冷房をやつて居りませぬ
が、フレッシュ・エアーを吹込んで居ります。私
は船は冷房をする必要がないといふ意見です。シ
イアターとかデパートのやうに極く短時間の中に
多數の人が集る所で而も空氣の悪い所では其の必
要もありませうが、船のやうに非常にフレッシュ
な良い空氣の中を走るものを態々汚い空氣の中へ
入り込ませるやうなことは極めて詰らぬことと思
ひます。併し窓が一つもない部屋には冷房は要る
かも知れませぬし、又郵船會社は今度冷房をする
さうですが私は船の冷房は非常に詰らぬことでな
いかと思ひます。尤も御客さんの評判は好いかも
知れませぬが、趣旨が通らぬと思ひます。寧ろフ
レッシュな空氣を部屋の中へ入れる方が宜いと思
ひますから、あの船はフレッシュ・エアーを送り
込むやうにして居ります。勿論便所のやうに臭氣

のする所からはどんどん抜いて居ります。バンカー・ルーブルといふのがありますが、あれからフレッシユ・エヤーをどんどん注ぎ込む。

冬はホット・エヤーを入れる譯です。

中西——窓の話ですが、カーテンを下すだけで燈火管制は出来ませうか。特別の装置でもありませんか。

和辻——部屋には錠戸がありますけれども、光の出る所は灯を消してしまひます。一部分の部屋は戸の閉つて居る間は點いて開けると消えるといふ仕掛になつて居ります。勿論防空司令部の要求規則がありますからそれを體してやつて居ります。

中西——先程別府航路の御話が出ましたが自分の経験では船室に寝て居ると朝デツキを歩かれましてその音の爲に直ぐ眼を醒まされましたがあれを何とかして貰へば非常にコンフォタブルだと思います。朝あれで眼が醒まされて、それから眠れない。

小林——それからデツキがあると、日本人はよく船室の中を覗きますね。

和辻——それは御客さんが悪いです。

清水——煙突の扱ひ方に付て色々説を聞くのですが最近の煙突の扱ひ方はどう云ふことになつて居りますか、あれは何か決まりがあるのですか。

和辻——以前は自然通風で煙を焚いたものですが、陸上の煙突と同じく成るべく脊の高い方が石炭が能く燃えるといふことでありましたが、もう30年位前から思ひますが、強壓通風でやるやうになりましてから、煙突の高さは煙を焚く上に於て或る程度迄低く出来ることになりましたが、併し石炭を焚きますと、煤が煙の方へ流れて、ペイントを汚したり、白い服を着て居ると直ぐ黒くなるといふやうなことで、炭を焚くステイマーでは或程度高さがないと困りました。ところが、ディーゼル・ボートが出来ましてからは排氣ガスが出るだけであとは副機関ドンキー・ボイラーを油で焚くだけですから、煙がうんと少くなりましたので、煙突は低く出来る譯です。従つてディーゼル・ボートの最近の傾向は、煙突を低くして如何にも動かす力の大きさを現すやうになつて來ました。一つはスピードが早くなつた譯ですが、さうでなければ、昔の古い貧弱な船に見えるやうになつて來ました。それで「あるぜんちな丸」はこ

れを丸くして見ましたが、あれは初めてやつたもので多くの船にはないのであります。アメリカのシッピング・ボートのデザインに一つあゝいふものがありますけれども、私の方が先に試みたことになります。あの煙突は煙突に相違ありませんが煙の出る所は極く少しで、あとは消音器とか即ちサイレンサーとか排氣管の大きなパイプが何本も入つて中は騒物で一ぱいです。

清水——さうすると、一種の船の形に調和することを考へられた譯ですな。

和辻——それは形から來て居りますが、あの船に最も好い恰好にして而も物が一ぱい入つて居ります。

清水——煙突ではない譯ですな。

和辻——小さい煙突が中に入つて居る譯ですな。フランスのM, M, の船なんかは煙突の上に部屋があり、外から見ると煙突ですけども、實際は黒く塗つてあるだけで、部屋になつて居りまして、我々の方では飾煙突と言つて居りますが船の形を佳くする爲に一本のものを二本、三本にすることもあります。

清水——先の和辻さんの仰しやつた伊東さんの話ですが、少し取り様に依つて誤解を受けるので釋明して置きたいと思ひますが、建築屋が橋をやれといふのは土木屋さんが橋をやると、却つて技巧に囚はれて而も生の儘捨て置く所がある。建築屋さんは其の捨てた所をやる事が出来る。さういふ意味に取つて貰ひたいのです。例へば淺間丸でも外は可なりスマートで、立派な近代的のものになつて居りますが、中へ入るとさうではない。伊東さんが一年間講義して橋梁は建築家に任せろと言はれたのは、囚はれた技巧を捨てるといふ意味ではないかと思ひます。

新名——それでは一番最後になつて甚だ恐縮ですが、河合さんに御願ひ致します。

河合——實は私船には餘り経験がないのでして20何年も前に出来た古船で而も3,4日の航海したわけで、新しい船に付て云々する資格もありませぬし分らぬなりに御尋ねしようと思つた點もありましたが、先程來の御話で盡されて、大分判つて参り、これ以上啓蒙的な御話を願ふ場合でもないと思ひます。唯あれだけのものが出来たといふことは、矢張り和辻博士の非常に透徹した大きな理想の下に東西の權威ある建築家が腕を揮はれたの

で、あゝいふ渾然としたものが出来たと思ふのでありますが、以下少し揚足取のやうになつて悪いと思ひますが、述べさして戴きます。

これは船に色々条件があるといふことを離れてのことですが、陸上の建築、殊に多少有閑じみた住宅を扱つて居る私共の立場から申しますと、何か少し間の抜けたナンセンスといふやうなことに、所謂味といふものが現れる場合もあり得るのぢやないか。例へば日本人の寛ぎといふ點から言ふと小林さんからあゝいふ御要求が出たのではないかと思ひますが、色々承つて居りますと、エフィシエンシイ本位のマセマテツクな船ではスペース或はホルムの上での無駄な空間は許されないものだといふことはハツキリ分りましたから、何も申上げることはありませんが、先程來デザインの問題に付て色々御話がありまして、それに對して甚だ失禮な批評に當るかも知れませぬが、少し調子が強過ぎて居るといふ感じが不圖浮びましたが、間違つて居りましたら御許しを願ひます。例へば小さな例を取りますと、社交室でございしますが、照明器具或は壁面の裝飾などに、觸つたら手の切れさうな新しい紙幣のやうな感覚のある角の立つた裝飾を盛に使はれて居ります。又あの部屋のファニチュアの色取にしましてもピンクとブラツクといふ對照の強い華美なものがありますが、あゝいふ點は、先程來ちよいちよい御話がありましたやうに、長い航海に於て乗客が少し調子がきつ過ぎるやうに感ずることではないか、或は又キャビンなんかでもリノタイルに非常に精緻な模様があつたやうですが、あゝいふ點も果して長い間の航海に鑑賞の意味になるものであらうか。又兒童室にしましても非常に行届いたものでありまして壁面に子供の喜びさうな面白い動物の繪などが書いてありましたが、あれらも甚だ失禮な言ひ様ですけれども、大人の頭から見た子供室といふ感じが現れ過ぎて居はしないか、痒い所に餘り手が届き過ぎて居はしないかといふやうな感じが致しましたが、さういふことはどういふ御考でせうか、御意見を御聽かせ願ひたい存じます。それからもう一つは、船室のヴェンティレーションの問題ですがスペースの利用は至れり盡せり、住宅建築などをやる者に取つては頭の下る程度まで極度に能率化されて居るやうであります。あれだけの所に相當な換氣機能を發揮しますの付ては相當強力な機械が、なければならぬと思ひますが

それはどういふ仕掛になつて居るものですか。

和辻——後の御尋から先に御答へ致します。ヴェンティレーションは17室のサーモ・タンクを使ひ、上のデツキに澤山置いてあるオードランス・ファンといふモーター・ファンから空氣を注ぎ込んで居ります。各部屋に小さな孔が開いて居りますね。あれから吹き出して居る譯ですが、これを自由にアジャストすることに依つて、シャツにもフル・オープンにも出来ます。回数は一時間にも十回位やることになつて居りますが、それだけフレツシユ・エヤーを送ることになつて居ります。實は多少トランスダクトのフリクションが出来ても、それ位は行けるデザインになつて居ります。さうしませぬと塵が掛かつてサーフェースが汚れてまして、フリクションが増えるものでありますから、今迄の實驗の結果では50~60%もエフィシエンシイが落ちるものですから、其の積りでモーターやファンの大きさを決めて居ります。御覽の通り、上から下まで一つといふ譯には行きませぬから、オードテニスファンの數を増やしてトランクの距離長さを減らす方針でやつて居ります。冬はスチームを通してサーモ・タンクの空氣を温めて送ることにして居ります。

それから全體的に各室の裝飾が餘り行届き過ぎて居はしないかといふ非常に綺麗な御言葉で、明らかに申上げると少し執拗くないかといふ御意見でないかと思ひますが、御意見のやうな點も部屋に依つてあるのではないかといふ風に私も考へて居ります。これは長く乗られる客がどういふ風に感じられるか多少は懸念も致して居ります。例へば今一例を御舉げになりました子供の部屋なんかにしても從來の外國の小供の部屋を眞似したやうな點があることはあります。寧ろ我々から見ると執拗過ぎると思ふ次第です。漸して建築家に御頭をしないで造船所に任した所は良くありませぬ。さう言ふと、造船所は怒るかも知れませぬがこれは初めから承知して居るのです。

池田——浴室は日本人が入るやうになつて居るのですか。

和辻——1等は全部西洋人向きで、3等は普通の風呂場です。だから日本の客は3等の風呂へ入ると言はれるかも知れませぬ。これは西洋人の爲にして居るといふ譯ではありませぬが、是も經費の關係でさう云ふやうにして居ります。

新名——色々有益な御話を承りまして有難うございました。時間も大分遅いことでございましてからこれで終ることに致します。



『時局と建築』放談

中野吉禰

I 緒言

昭和十四年度の新物動計画を中心として、實施せられつゝある高度の物資統制に依つて、今後の建築界と建築行政界がどう變化するか又その目標を何處に定めて此の非常時局を乗り越えて行くべきかをテーマとして、過去の足跡と現在の社會狀勢とから推察して、深く之を認識し且つ觀察して見る事は、吾々の時局認識上缺く可からざる要素であり、時代から取り残されない爲の最適な問題たるは申す迄もない。而し建築行政の對照たる建築界の現状が如何とも手の出し得ない不振の狀態に置かれてゐる際に於て、建築界に於ける種々なる障害を排除し、建築行政の遂行に支障なからしめざる事を企圖する事は、痴人の夢に等しく、聲を大にしてつじつまの合はない論述を繰返し叫んで見た處で、今更どうにもならない事である。寧ろ此の際吾々は潔く國力の飛躍的大發展と東亞の新秩序建設の爲に、生活上の不便を甘受し、目的貫徹の爲に協力しなければならない性質のものである。而し乍ら聖戰の目的貫徹の爲に樹立された國策の前に、建築事業に従事するあらゆる種類の入々は、單に盲從し、萎縮してはならない。此の非常時建築界の苦況打開の爲に、堅忍不拔の研鑽を遂げ、それが對策を樹立し、建築界と建築行政界の將來の發展の爲に、少しでも多く寄與し、此の

難關を突破しなければならない。その爲には、かつての自由主義華やかなりし建築界を夢想することなく、又如何なる方向にも取捨選擇することなく飛び込んで、現在の苦況を少しでも打開出來得る方法と、自覺とを持つて、吾々の生きる道と、進む可き方向とを確立し、確固不動のものたらしめなければならない。その觀念から出發した筆者をして悩みどころのない大きな問題にもかゝらざる之を粗上に論述を試みさせた所以であつて、之は凝つとしてゐる事の嫌ひな筆者の學校時代からの變らざる持論であり、信念からである。嘗て筆者の學生時代、心ある學友に呼び掛け『技術の文化的使命は文化の最尖端に立つ建築事業への深奥なる知識と眞摯なる技術の探求にある。だが單なる技術のみの修業に依つて、學窓を出た多くの技術者達が果して社會の文化發展の指導者としての地位を與へられてゐるや否や、彼等の與へられてゐる現在の地位は、文化的事業に貢獻し、文化發展を指導する身でありながら社會から冷視され、そして悲慘な境遇に置かれてゐる。之に對し何等の反駁も何等の追究をも講ぜず、現實に甘んじてゐる姿を、坐視するに忍びない。吾等技術家はペンを以て立たねばならない。そのペンの力に依つてこれ迄の技術家の多くが忘却してゐる文化的使命の根本原則を考証し、社會人への認識は云ふ迄もなく、技術の向上と技術家の社會的地位の獲得へ向つて勇往邁進し、よりよき目標に向つて、社會に、技術界に自己の主張を披瀝し、表徴しなければ、吾々の地位の向上と技術の向上は到底爲し遂げ得られない』といふ餘りに單純且つ抽象的な言葉ではあるが、想ひ出すまゝに書き綴ることに依つて首肯されるであらう。其後社會の第一線に立ち茨の道を辿りつゝも此の信念は棄て難く、未熟ながら、あらゆる機會を捕えて主張し、實行して來たのである。

筆者の論旨は或は一貫してゐないかも知れない而し筆者の叫びと實行は不純な動機からでもなけ

れば賣名的なものでは決してない。

之を不純とし賣名的であると罵倒し嘲笑する者あるとしても、筆者の信念は少しも變らないであらう。兎に角建築行政の一小部門を振當てられ、全力を集中して奮闘努力を續けてゐる筆者が淺學乍ら建築界と建築行政界に呼び掛け、彼等の持つ現實と將來の不安を一掃したい一念に燃えて此の小文を繼め上げたもので、他意なきものなるを御了承下されば、筆者の光榮之に過ぎるものはない。物動計畫と建築界、物動計畫と建築行政とに分類して下記の如く論述する事に多少の疑念を持つのであるが、文の構成上より、よぎなく區別して記載した。その關係上多少重複した處もあり且つ了解し得られない點もないではないが、それ等の點は御寛大に御見捨て下されば幸甚に存する次第である。

II 物資動員計畫と建築界

日支事變下に於ける日本の戰時經濟の基礎と、その動きは2年に渉る聖戰を通じて、全く此の物動計畫に依つて確立され、あらゆる部門に此の經濟統制が實施せられて今日に至つてゐる。殊に吾が建築界と最も密接な關係を有し、且つ今尙甚大なる打撃を與へてゐる經濟統制法令の主要なるものは、輸出入臨時措置法に基く鐵鋼工作物築造取締規則と臨時資金調整法とである。之等は直接間接に建築界に甚大な影響を與へてゐるもので、御承知の如く、事變勃發と共に戰時資材への物資補給を目的として、立案實施せられた臨時法令である。而しその後、於て鐵鋼配給統制規則、薄鐵板使用許可規則、米松販賣取締規則、セメント製造統制、釘及び鐵線の配給統制規則及び建築税の制定等の諸法令の連續的な發令を見、事變と共に不急用途と見做された不幸な建築界は、之等法令の亂撃を浴び、攻撃目標となつて殆んど前進不可能な狀態を呈して萎縮し、行政官廳に提出される出願書類の大部分も軍需關係のものや生産力擴充計

畫に依るものばかりであつて、大體に於て或る特殊の用途に供す可き建築物の範圍内に限られてゐる傾向を示して居る、従つて建築界も大資本の形式を整へた幾つかのグループと大資本をバックにした幾組かのグループのみが、背負ひきれない程の設計と工事を持たされ、多忙な生活を繰返して居り、且つ軍需景氣の恩恵を多量に受け、吾が世の春を謳歌し、鼻息の荒いのが目に付き出して來てゐるのであるが、建築界全般に付て考察するなれば、正直な處その殆んどが、やつと生きながらへてゐるもので、大樹でいふ枯渴の狀態のものばかりである。建築界は斯の如く不健全な跛行的珍現象を呈して曲りなりにも生きながらへてゐるのである。

建築界が物動計畫と如何なる關係によつて、今日迄生きながらへて來たかと云ふと、第一段階（昭和13年6月の池田物動計畫の出現迄の時期）に於ては建築界は多少の不自由を感じつつも、手持のストックに依つて、充分な餘裕を示して賄はられた。第2段階（昭和13年6月池田物動計畫實施以後12月迄の期間）及び第3段階（昭和14年1月～3月迄の時機）に於ては、残されたストックと新しき生産の範圍内に於て辛うじて消化され來つた譯で、鐵鋼の不足は壓延鋼材と見做されざるう、4mm以下の鐵線を使用して或る程度の補給をなし事業化されて來たのであるが、最近、釘及鐵線のストックの皆無と配給統制に依る入手困難に依つて、行詰りの狀態を示して來て居り、鐵筋コンクリート造及無筋コンクリート造の假枠を締める鐵線さへ容易に入手出來ず、工事に支障を來す現状に立いたり、鐵線の補給に依る事業化は思ひも依らなくなり、今後の建築界の多事多端なるを痛感せしめてゐるのである。

而らば、昭和14年4月以降より實施せられた所謂新物動計畫は4月以前の物動計畫とどう變つてゐるか云ふと、それは、昭和14年度の臨時軍事費豫算の決定を待つて、企畫院に於て立案樹立せら

れたもので、軍需と生産力擴充計畫に重點を置き過去の所謂池田物動計畫實施の矛盾を克服し、突破することを目標に根幹が構成され、而もそれが純經濟的に立案した特異性を持つてゐるもので、日本の戰時經濟の劃期的な計畫とも云ふ可き重大な内容を持ち、且つ意義ある計畫である。そして其適用目標が支那事變の目的を達成し、東亞新秩序建設を行ふと共に、國際新情勢に對處し國運の發展を計ることを主眼とした尅大な計畫で、その内容に於ては一般民需を昨年度より以上の強度の物資統制（配給、消費、價格）をなし節減を加へて抑制し、軍需及生産力擴充に要する資材を優先的に配給する事と統制配給の整備が本計畫の特徴となつてゐる。

統制配給の整備に於て、未統制物資であり建築に最も關係の深い木材及セメント等は今後統制強化される事が必至にして、之が需給は戰時資材、大陸開發資材、生産力擴充資材にふり向けられ、一般民需に對して、今後益々壓縮節減が加へられる事が必然である以上、吾々は大いに刮目してその動向を注視し對策を講じなければならない。なぜならば建築界の大多數は此等民需からの仕事に依つて生活し得られ、現在もそれに依つて辛うじて生活を支へられてゐるからである。來れる處まで來てしまつた建築界の非常時局の打開策としては、建築界を構成する各方面のエキスパートが臣民徵用令の發動を待たず大陸進出を企圖するか、活況を呈し寧日なき大資本のグループへ、自らの組織と地盤とを放棄して合流するか、來る可き昭和18年度に於て完成されると云はれる生産力擴充計畫の完了迄、徒食するか、好景氣時代を現出してゐる軍需方面へ轉業するか、幾つかの對策が残されてゐるのみである。此の時、此の際建築界の方々に、用意は、その對策は、既に出來てゐるかと呼び呼びかけて見たい衝動に驅られるのは木造制限令を豫期しての、筆者のいらざる取越苦勞からであるが果して無意味であるだらうか。

III 物資動員計畫と建築行政

市街地建築物法のみを以て、唯一の武器として長年取締を勵行して來た建築行政機關に日支事變の勃發と共に、鐵鋼工作物築造許可規則と薄鐵板使用許可規則の臨時法令が加はり、更に昭和14年度に於ては市街地建築物法の改正に基く法12條より發令された防空建築規則が追加せられ、責任の重大なるを憶え、吾々をして益々緊張せしめてゐるものである。之が法令に依る取締は、急速な實施を必要とする丈に、復雜多岐を極め、それが遂行の不足と相俟つて、建築行政上の運用に多大の困難を來してゐる状態であるが、建築界の癌とも云ふ可き、鐵鋼工作物築造許可規則の如きは、發令以來前後6回に渉り改正強化せられ、最近は保安上危險なる構造物に限り鐵鋼の使用噸數3噸を限度に許可をなし居る状態にて、それも鋼材の割當關係より殆んど不許可の方針となつてゐる、従つて行政官廳に提出される建築認可の出願書類及び出張件數は、事變前より可なりの減少を示されてゐる。之等の減少は建築界に於て、直接間接影響のある臨時資金調整法、建築税、建築材料（鐵鋼釘、鐵線）の配給統制規則、米松販賣取締規則、セメント製造統制、鋼製品（建築金物）の製造制限令、銅使用制限規則等の諸法令に束縛されてゐる事は云ふ迄もなく、其の外的原因としては材料の不足に依る入手困難とストック品の絶無とに依り出願數の減少となつたと云ふ見方が此の際至當であつて、前述せる如き未統制物資たる木材、セメント等の今後に於ける統制配給の再整備如何に依つては、建築界は勿論、建築行政に於ても全く動きのとれないものとなつて終ふであらう。

例へば法12條に依つて發令された防空建築規則の出現と生産擴充への資材の供給が優先的に、圓滑に配給され、それ等の事業が増加したとしても、大都市に關する限り一民的需の數とでは比較になり得ないものであつて、従つて今後に於ける建築行政の目標は必然的にその主力を防空建築規則と

生産力擴充の諸工事と物資入手難に依る不正工事防止へ向けざるを得ないだらうが、建築行政の今後の動向と去就が或る程度幾重にも監視されるのは當然といふ可く防空上及び國策的な見地より又不正工事防止機關として重要な機關である事を深く認識して今後共慎重に乘出して行かねばならない事は云ふ迄もない。

新物動計畫の目的が昭和16年度完成より更に二年延長せられた生産力擴充計畫の完成遂行とソ支二面作戰に依る軍需品及資材の迅速充足の増大と大陸開發に要する資材の激増を圓滑に補充する爲であつて、如何なる犠牲を忍んでも爲し遂げなければならない國家的な大事業であるのである。新聞の報導に依れば、商工省に於ては八田商工大臣の下に於て、新物動計畫の樹立に對應して從來の物資調整局を廢止し、省の機構を物資調整局式の物資別の行政組織に編成替をなし、總務局を新設し物動計畫を統轄する爲の大改革を斷行し、6月8日付の新聞に、商工機構大改革の全貌が發表され、6月10日より實施せられた事は、既に御承知の通りである。之に依る迄もなく政府の新物動計畫の完全遂行の決心の程が如實に窺はれ、慶賀に堪えない。昭和18年度完成の生産力擴充計畫の遂行と戰時資材の迅速充足の増大化より、物資統制の強化に萬全を期して立上つて居る際、建築行政機關も之に對應する意味より、國策に順應し且つ合理的な指導と取締を以て實施しなければならぬのは勿論であらう。

要するに、昭和14年度は日本に於ける最も最大な戰時經濟力を決定する峠であると云はれ、その去就如何を世界各國は注目してゐる譯で、昭和18年度完成の日滿支を打つて一丸とせる新生産力擴充計畫の完了する日の一日も早からん事を鶴首する者である。なぜなれば、計畫完成の曉に於ては日滿支の自給自足は云ふ迄もなく軍需民需の需要は完全に滿されるといふ事については、日本の經濟的國防力の充實は勿論、平和産業の復興も豫期

し得られ、日本の戰時經濟は、世界的進出さへ可能な劃期的な躍進が期待され得るからである。

新物動計畫に基く、物資統制の強化は今後相當長い期間（昭和14年～昭和18年）中、間違なく實施せられ、最後の切札たる國家總動員法の發動さへ全面的に實施せられる事が確認され、約束せられてゐる時機に於て、出來得れば建築界が現在爲し得られる仕事だけでも今後とも繼續してやる事が出来る事を（餘りに消極的ではあるか）切望してゐる際に於て、構造主要材料たる鐵と木材とセメントに代る可き代用品を速かに考究し、その對策を講ずる事を考へ出さねば建築界と建築行政界の現状維持は絶望であつて、代用品の考研が目下の急務である譯である。

例へば木材が戰時資材に多量に要求され、大陸經營に供給せられる場合の對策として、從來の煉瓦、竹の利用價值を増大せしめ、その爲の新しい施工法を研究し、鐵の代用としては、電極棒の如く細い心線に相當厚の被覆をなし、強度と伸率を有する材料を發明？して鐵筋の代用となさしめ、セメントに對しては、セメント補強材として、市場に販賣せる種々なる材料を改良強化し、わづかなセメント量に之等補充材料を混合せしめ、相當なる強度を有する材料の改善に努力するか、或はコンクリートに代る新しい構造材料の發明に各方面の權威者を動員して考究せしめ、迅速に實現せしむる方法を採らしめること等が残された對策といへば云へるものである。建築、土木に永年使用し來つた混凝土の水セメント比及收縮龜裂を今更事新しく問題にし、混凝土は危險なりと叫ぶ學者のあるを耳にする時、筆者は混凝土に代る新しい構造材料を造り出せと叫んで見たくなる事は、非常時局に於ける大學研究室の積極的な活躍を期待する者として當然であるだらう。保守的な、因習にとらわれた觀念は何事によらず現在の日本では通用しなくなつてゐるのである。例へば從來の強度計算方法の改善強化と構造用使用材料の許容強度

に對する再吟味等は先づ第一に改善されなければならぬものである。之は國家經濟上の立場から資源愛護の建前から當然なさねばならぬ任務である譯である。

建築行政上の取締に於ても、新しき材料の使用奨励と新しき構造用材の採用により理解者となり指導的な立場から誘導しつゝ指導取締をなす方針を採用強化す可きであらうと信ずる。なぜなれば例へ軍需品工場であり、優先的に鐵鋼が配給され多數使用出来るからといつて、無駄な設計をなしたり、許容引張強度を $1200\text{kg}/\text{cm}^2$ の法規改正前の強度を以て強度計算を爲し來れる場合、當然建築行政上の指導取締の對照となさねばならぬであらう。

斯くの如く從來の單なる取締から一步積極的指導へと方針を強化し、自由主義時代に見られたか

たくなイデオロギーを振廻す事なく自ら反省し道義的精神を以て聖戰の目的達成と生産力擴充計畫の遂行と大陸經營の建設事業へ積極的に協力する事は將來に於ける建築行政機關の飛躍を期待し得る最大要素であり、残された一つの道である譯で、東亞の文化建設に必要な特務機關たり得る事も不可能ではないと確信するものである。

III 結 語

吾々は今後に残された問題を豫想する事は出来ない。殊に國家總動員法の發動を前にして尙更然りである。此の問題の解決は各年毎に計畫實施せられる物動計畫下に於ける建築全體の團結に依る總視和、總努力、總協力に依つて對策を講じ得られ、總自重によつて問題を一時的に解決し得られる事を附記して筆を置く。(13.7.5)

本 號 執 筆 者 紹 介

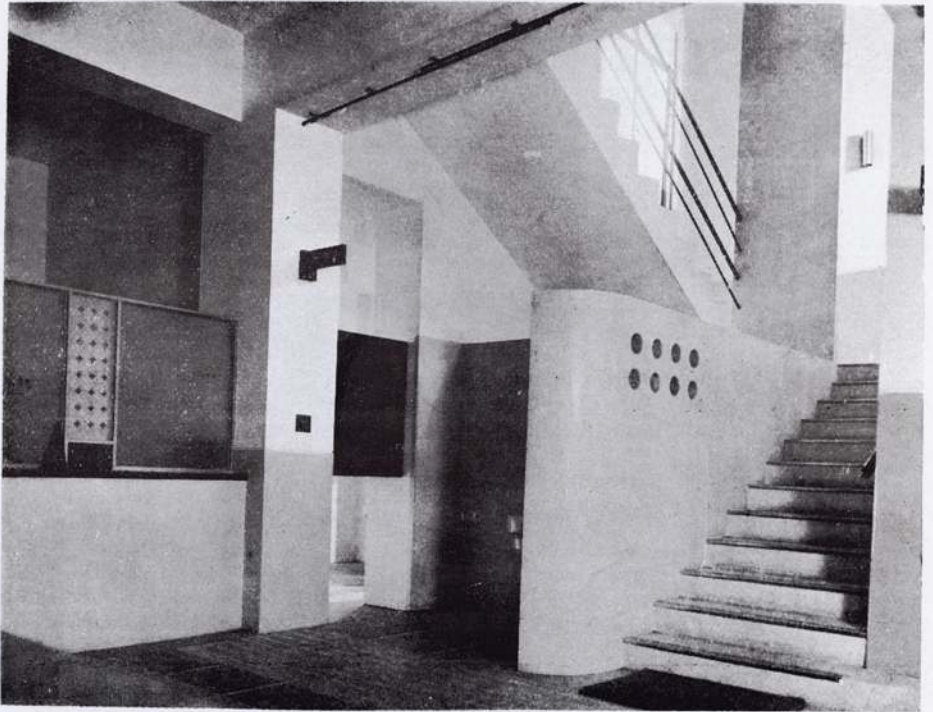
(五十音順)

石 川 純 一 郎	株式會社竹中工務店
後 藤 典 夫	大阪府警察部建築課
中 野 吉 禰	大阪府警察部建築課
松 田 軍 平	松田建築事務所主
松 本 儀 八	内外木材工藝株式會社常務取締役・本協會監事
前 原 大 二 郎	大阪市教育部建設課
向 井 寛 三 郎	京都高等工藝學校教授

8 月 號



外 観



玄 關 廣 間



貴賓室

大集會室

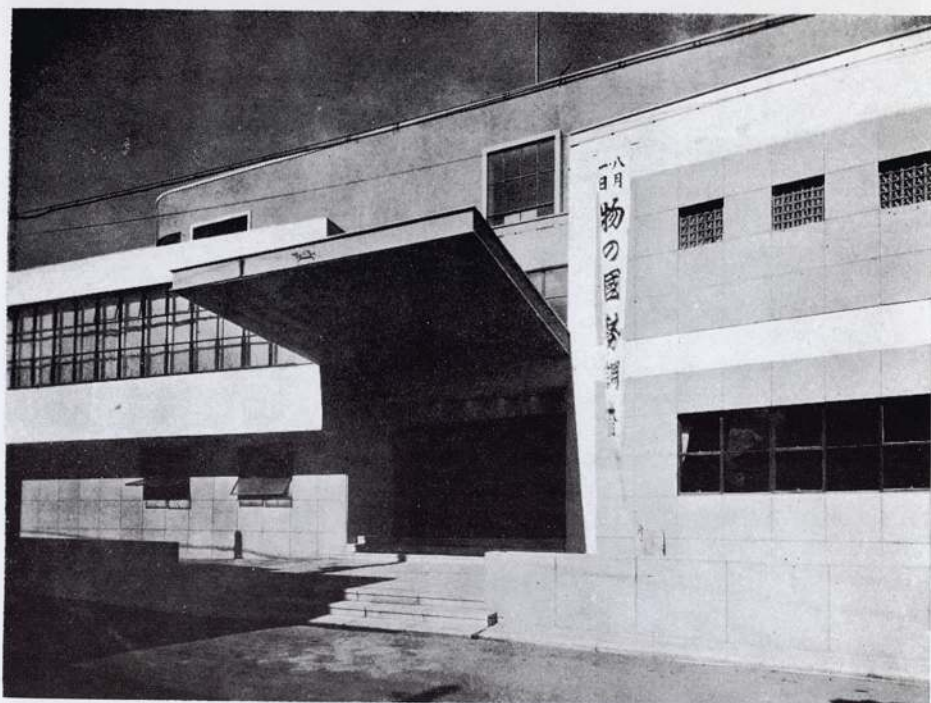


大集會室照明



位 置 大阪市浪速區新川3丁目655ノ1
敷 地 面 積 1,588.89平方米(480坪640)
建 坪 874.81平方米(264坪631)
建 築 面 積 延坪 2,208.28平方米(668坪005)
建 物 高 軒高 15米40
棟高 16米60
構 造
本館 鐵筋コンクリート造3階建塔屋地階付
車庫 木造平屋建
(外=舊倉庫木造2階建1棟)
起 工 昭和13年4月23日
竣 工 昭和14年5月22日
建築總工費 24萬5千8百圓
工事關係者

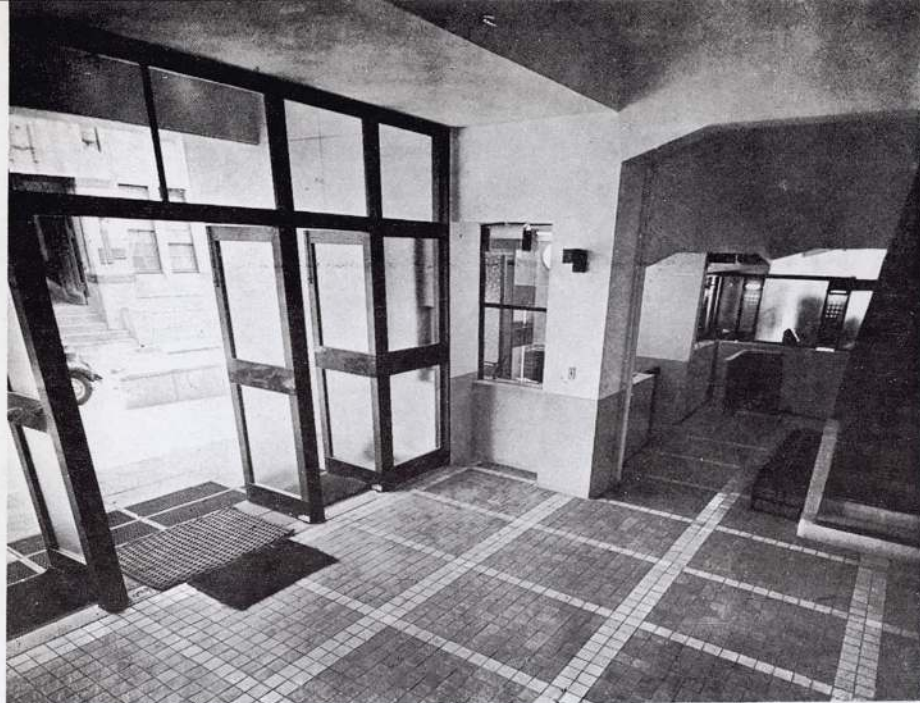
設計並監督 大阪市役所經理部營繕課
建築工事 中 村 組



外 観

玄関正面

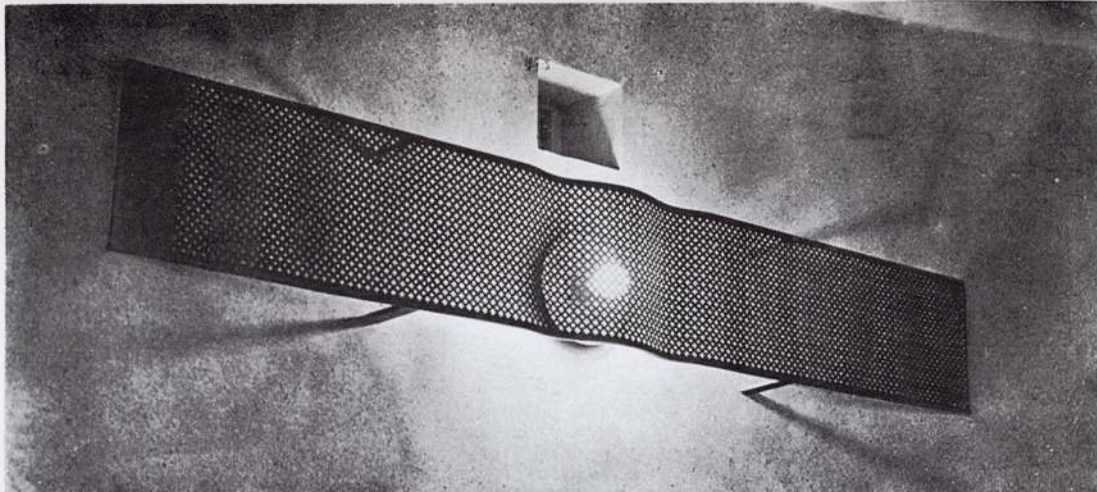




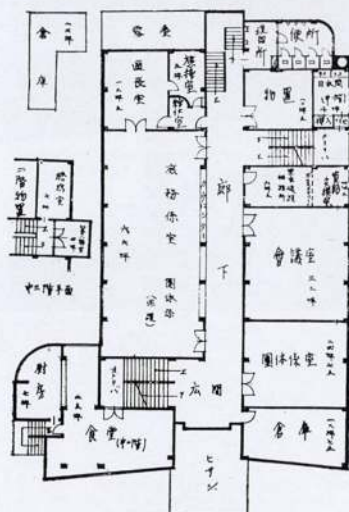
玄関廣間



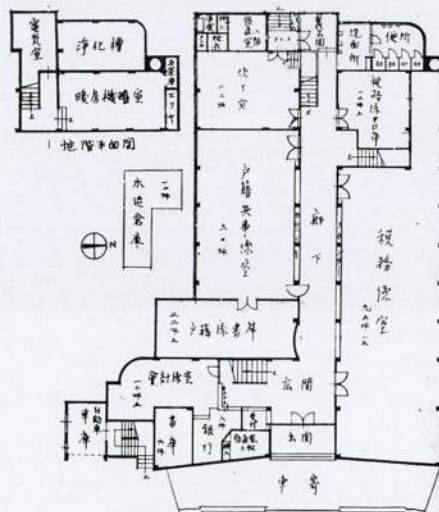
區長室



0 階 照 明



2 階 平 面 圖



1 階 平 面 圖

所 在 地 大阪市北区曾根崎上1丁目37

敷 地 坪数 637坪2勺

總工事費 325416圓也

工 程 起工 昭和13年3月26日

竣工 昭和14年5月27日

1. 工事概要

本 館 鐵筋コンクリート3階建塔屋地
下室付

建坪 312坪6合4勺

延坪 900坪2合8勺

(所要鐵筋 254吨799)

物 置 木造2階建

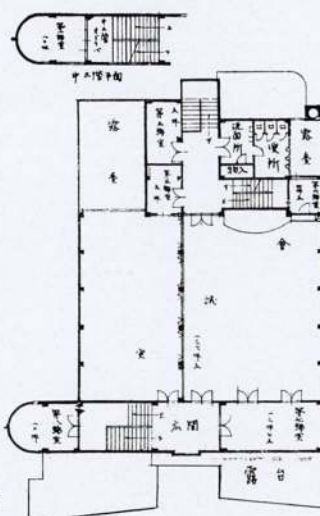
建坪10坪2合9勺

延坪20坪5合8勺

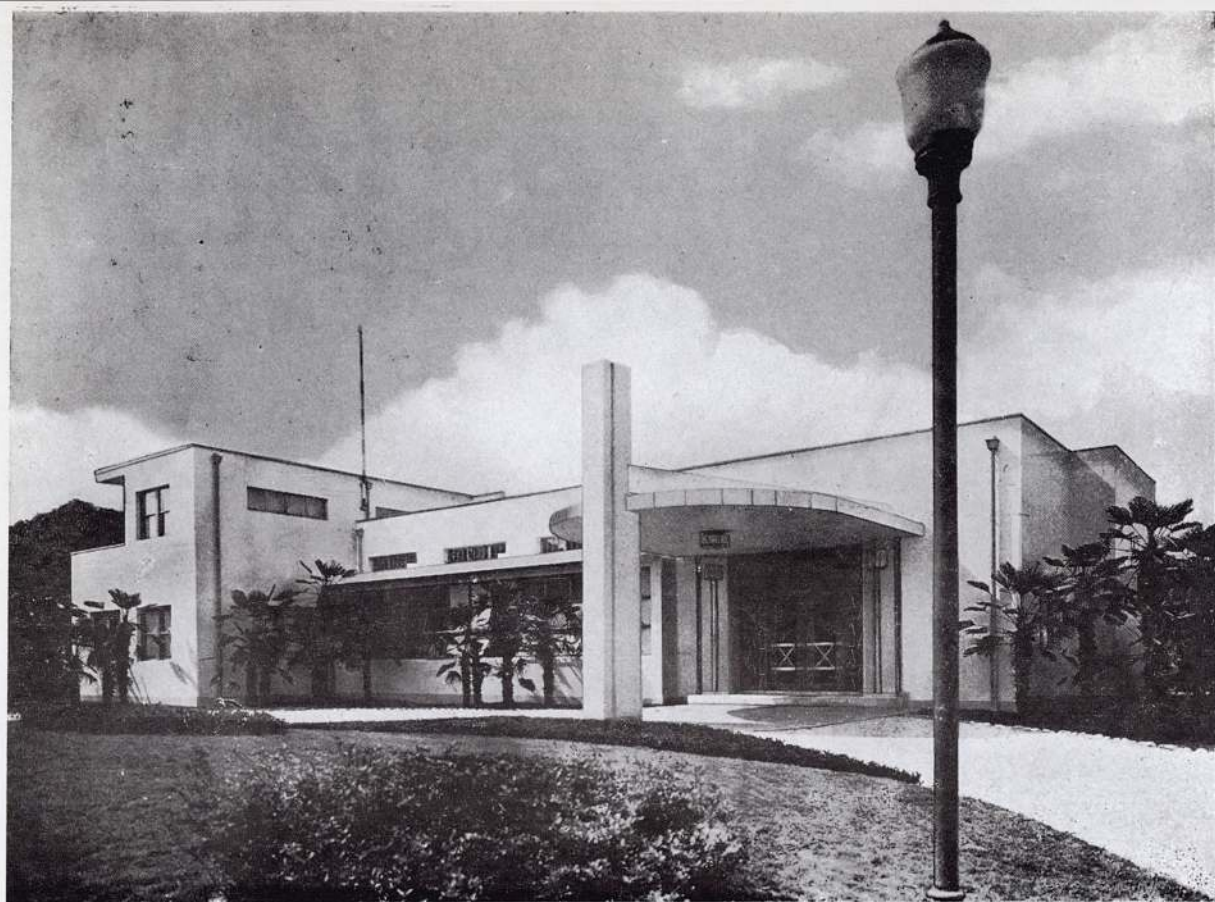
附帶設備 給水衛生、電氣、瓦斯、門扉、
舗装、植樹

設 計 大阪市經理部營繕課

施 工 合名會社 小坂井組



3 階 平 面 圖



外 觀

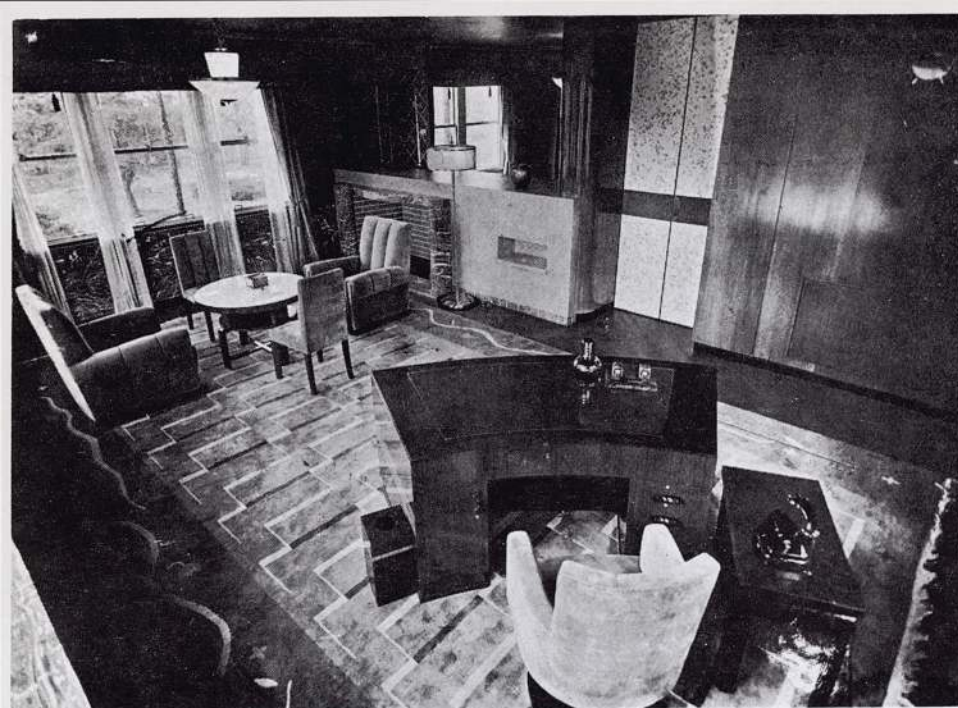
位 置	奈良縣南葛城郡葛城村大字戸毛六〇番地
建築主	株式會社大和鐵工所
設 計	石川建築事務所
施 工	島藤
構 造	鐵筋混凝土造、平屋建一部二階建
坪 數	建坪 99.5坪
	二階 12坪
	延坪 111.5坪
	車寄 10.5坪

貴賓室



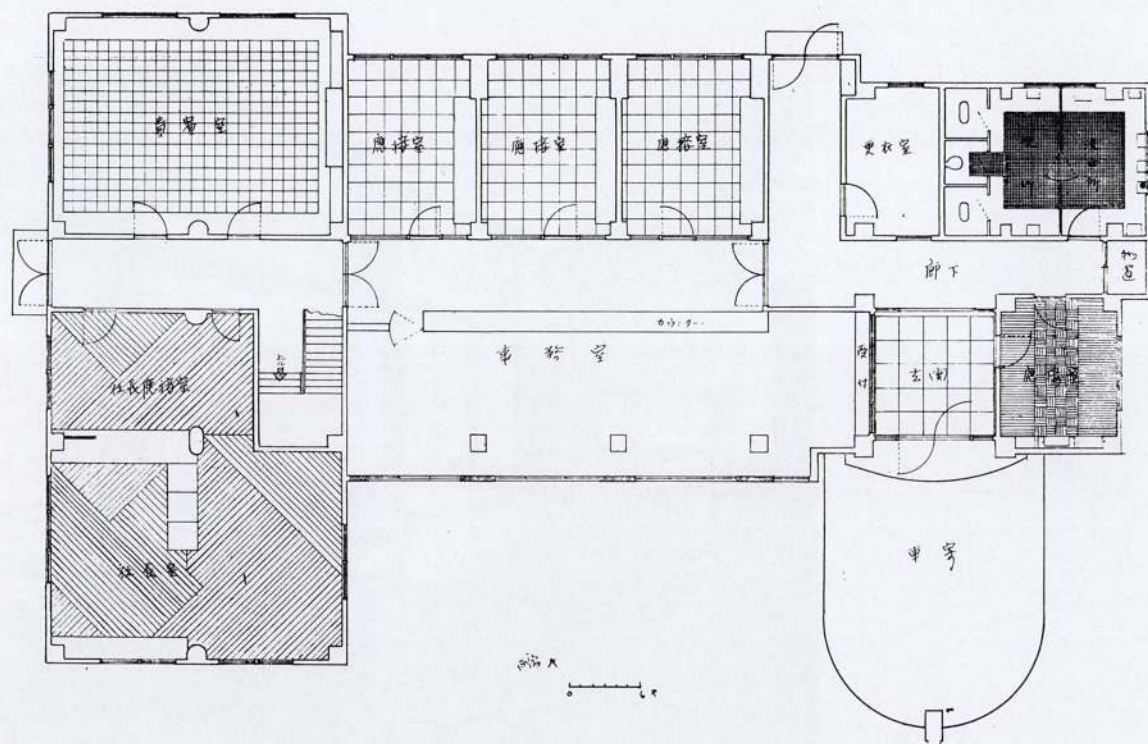
事務室

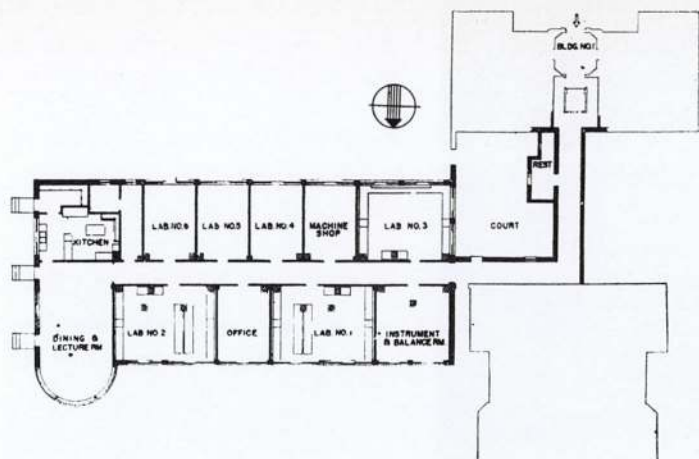




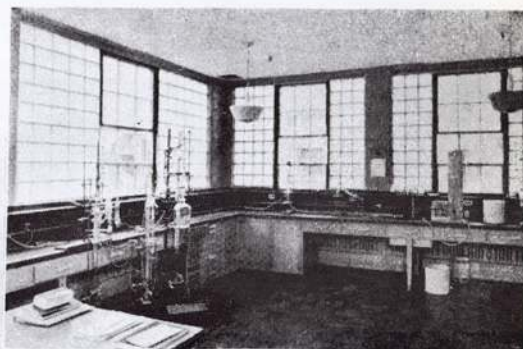
社 長 室

1 階 平 面 圖

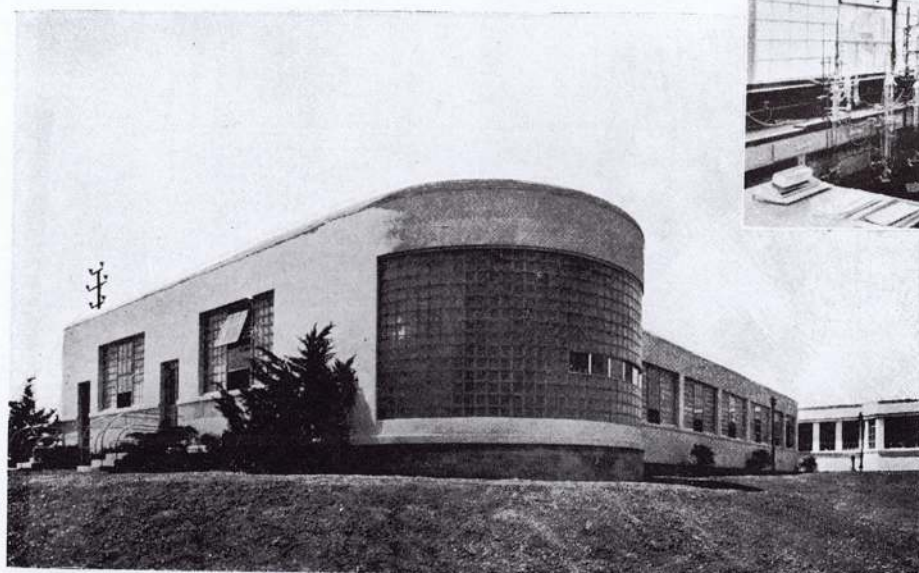




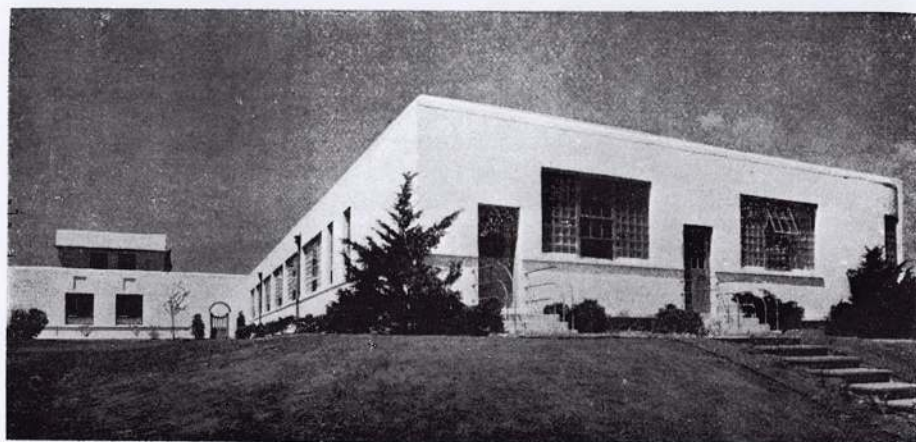
平 面 圖



實 験 室 内 部



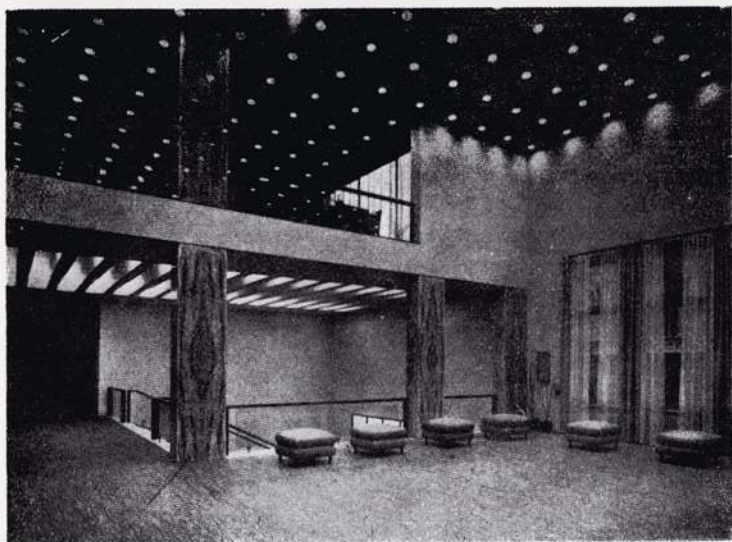
正 面 外 觀



側 面 外 觀

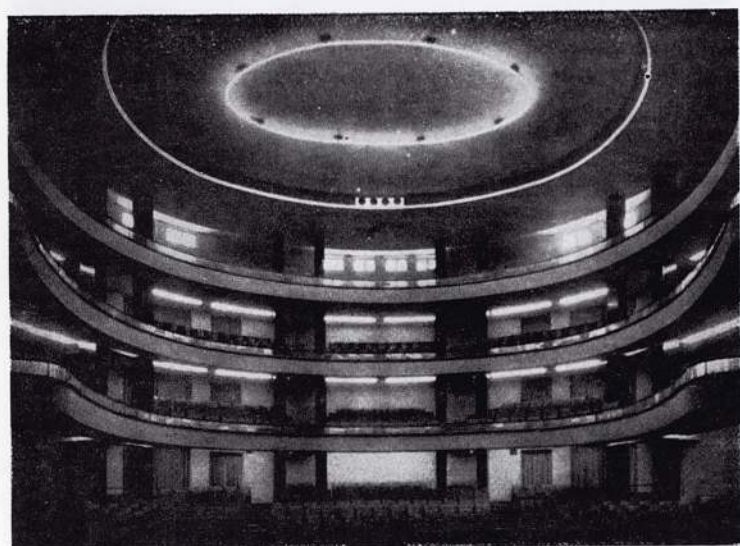
これはオハイオ州にある一化学會社の研究所の建物であつて、その數多い實驗室の外壁はすつかりガラスブリックを積み上げて作りその窓の大きさに相當する部分を普通の窓にしてゐる。これで各實驗室は大變明るくなり、外を見たり、又換氣などの必要があれば窓をあければよいのである。

尚、爆發の危險を防ぐ意味から1階建にしてある。
(Architectural Record, May, 1939より)



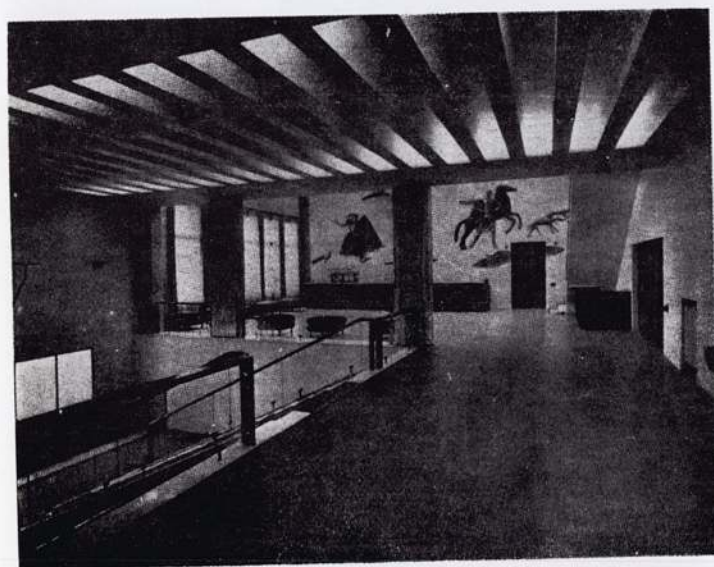
バー・休憩室（上部カフェ・レストラン）

壁・灰色大理石，柱・模倣入り大理石，
階段・白色大理石，手摺・ブロンズ，棒・安全
ガラス入り



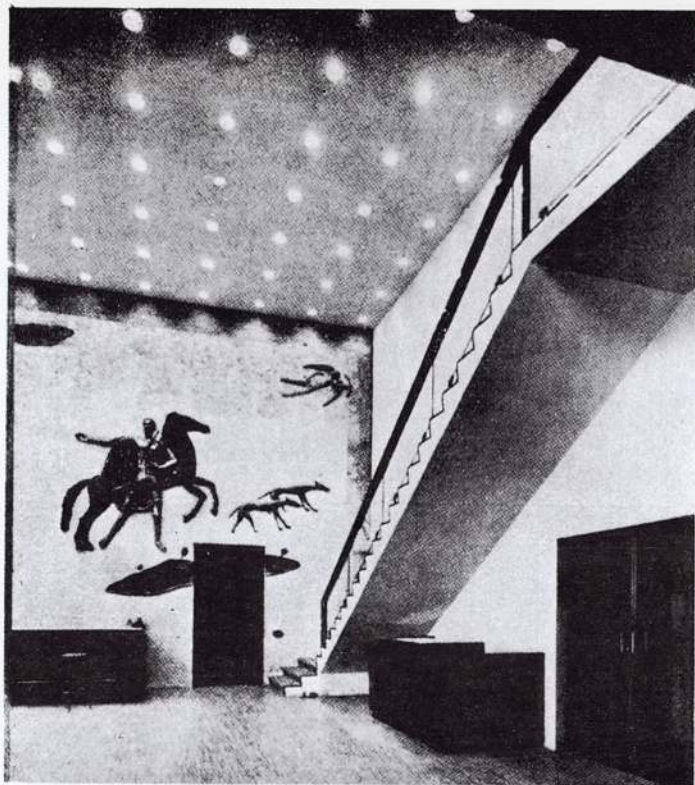
劇場内部

天井・白色スタッコ，壁・淡灰色塗り物，床・
灰色敷物，柱・黒大理石，座席・珊瑚色

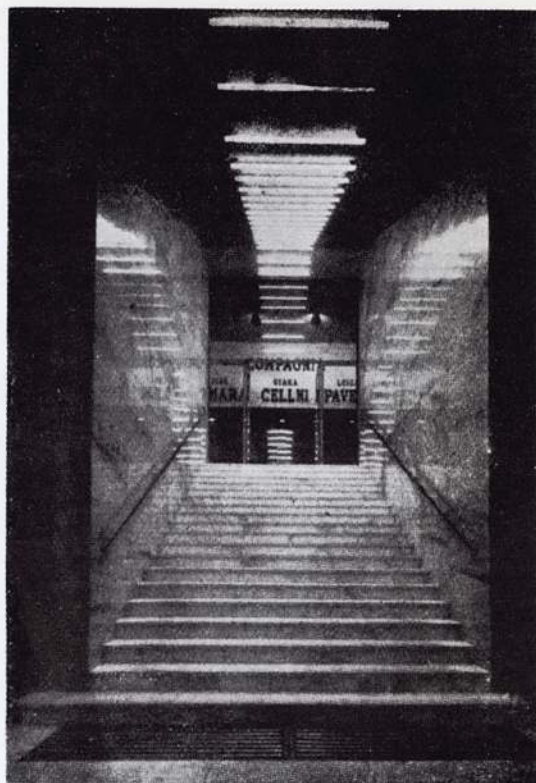


パ

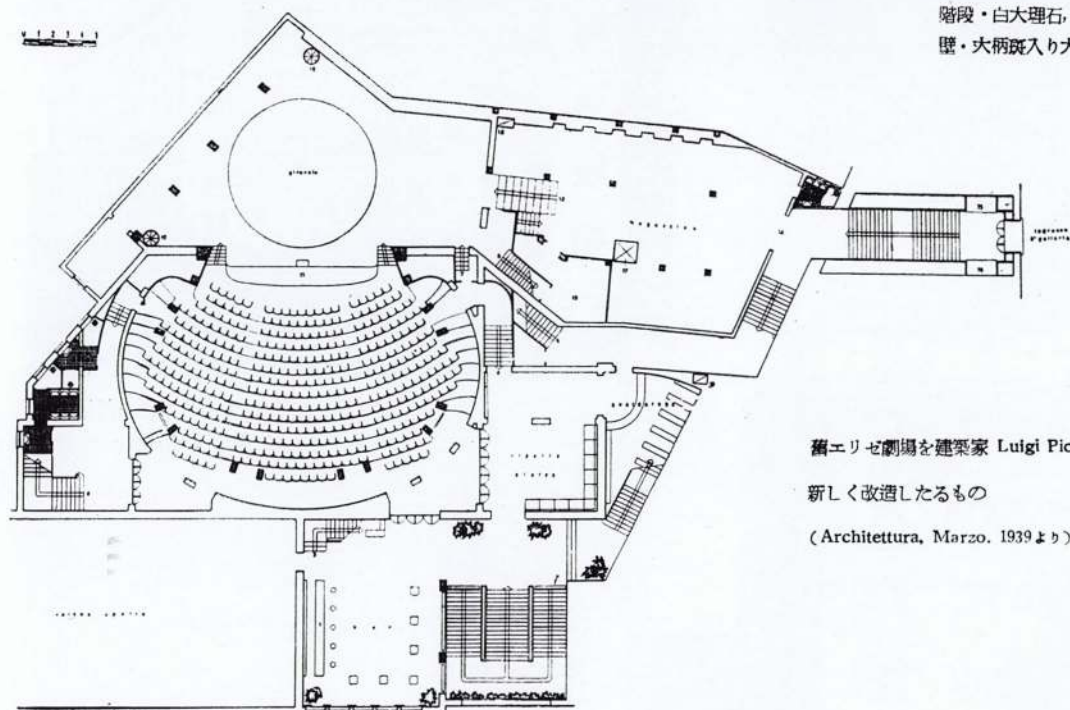
壁面には陶器のインレイ装飾あり



バーの壁面装飾



入口階段



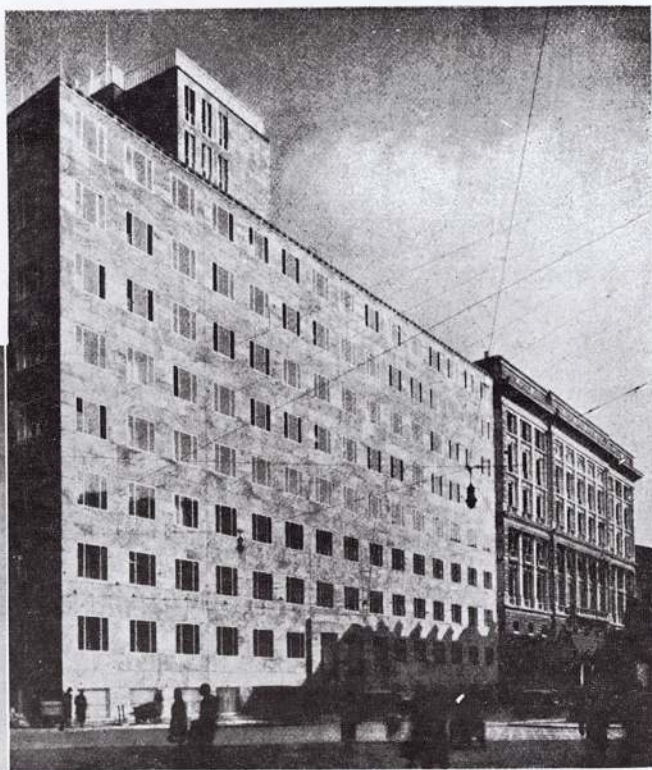
1 階 平 面 図

階段・白大理石、天井・白スタッコ
壁・大柄斑入り大理石

舊エリゼ劇場を建築家 Luigi Piccinato の手に依って
新しく改造したるもの
(Architettura, Marzo, 1939より)



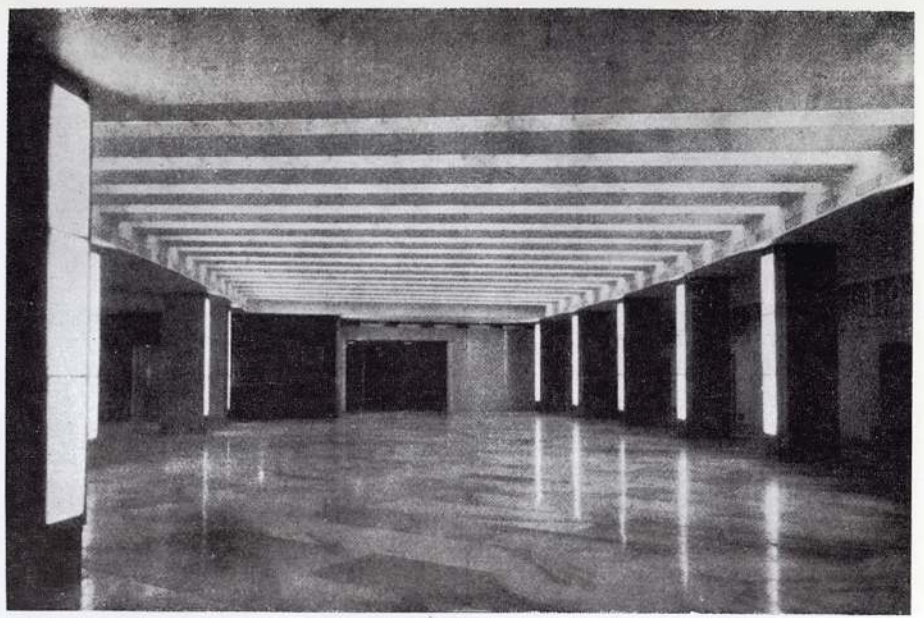
中央館の背面



ウンヴェルト通の舊館に
接續せる新館の外観



モスコバ通より見たる外観



「ドボラボノ」會衆室
床・壁・大理石張り



支配人室・聴取室と來客の爲の
餘地を持つてゐる。半間接照明

組合設立50周年記念として1938年10月に竣工。ミラノ地方に於けるモンテカッチニ組合の監理事務所であり、總ての技術を総合的に動員して完全な設備を施せるものとして現代イタリアに於ける最新最大の事務所建築である。

工場、實驗室と同様に事務所建築も亦、其事務をして優雅迅速且綿密ならしむ可く計畫せねばならぬ。之が爲に本建築物に於ては電話、氣送郵便、信號、消火、監視其他の各設備が贅澤と思はれる程に完備されて居る。

イタリアに於ては甚だしき暑熱と絶へざるシロッコ風に悩まされる。之が爲に空氣調節を行ふと共に各室を二重窓とする。其窓台下は書類其他の整理箱となり、是が爲には室内を單純明瞭ならしめて居る。

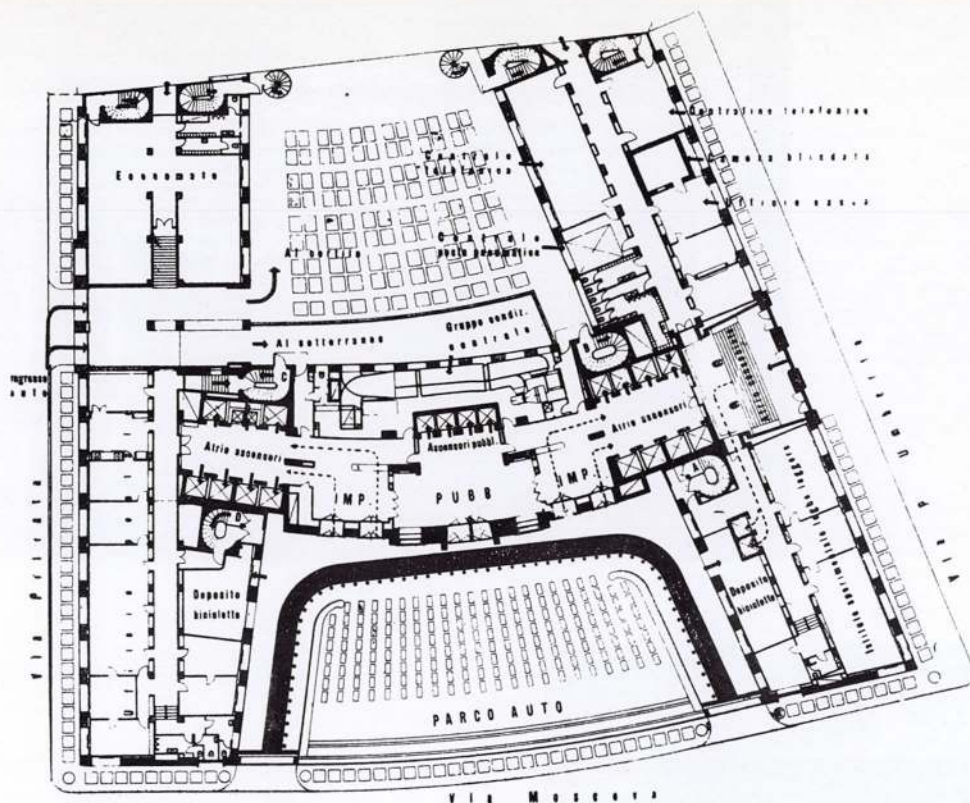
平面計畫は中央館(13階)に支配人室、課長室等を、其側翼には中央廊下を挟んで事務室が採られてゐる。

外形は至極扁平且單一であり帯灰綠色のチボリノ大理石板貼りは、より清純且優雅な表現となつて居る。

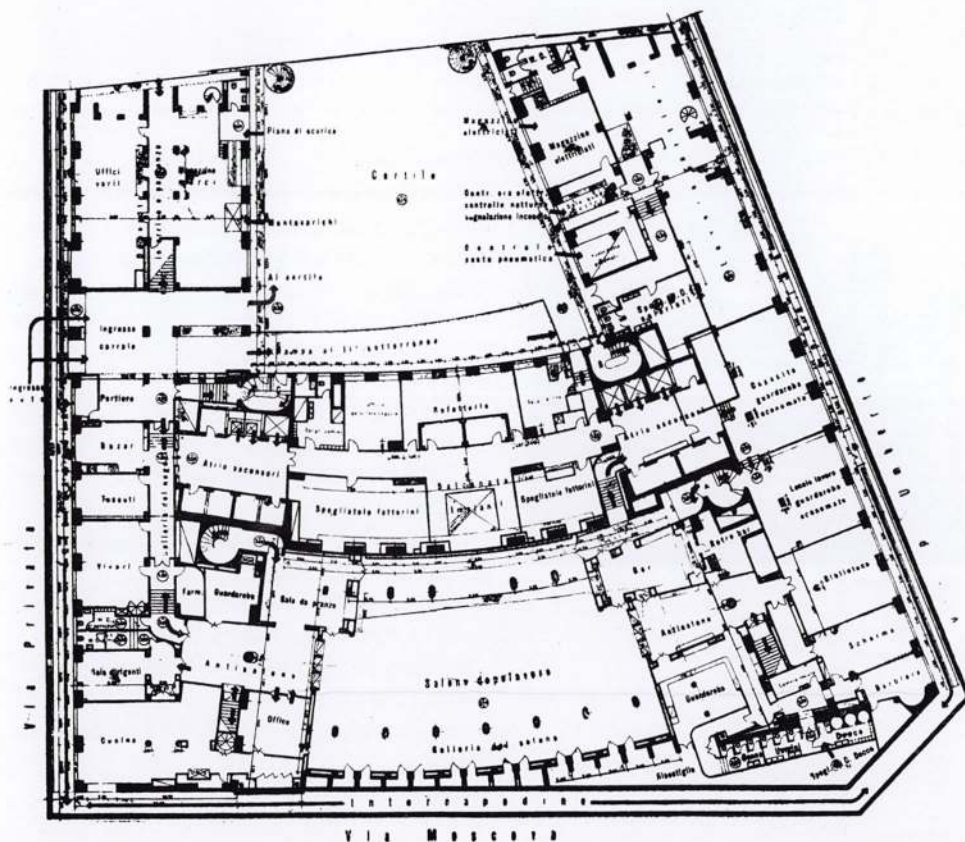
頂上蛇腹には吊足場の裝置があり外部窓硝子面を常に清掃し得る如く設備されて居る。

尙地下3階に接續してブリパタ通私道下には別圖の如き避難室がある。

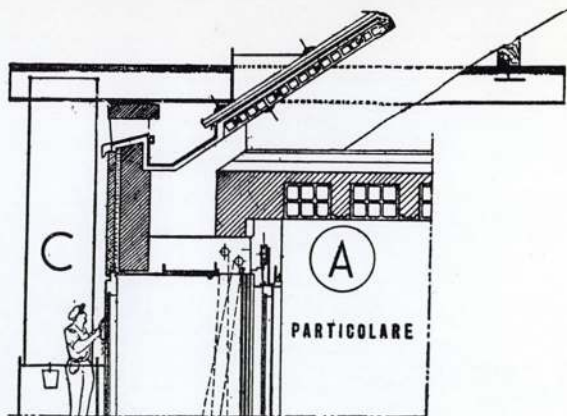
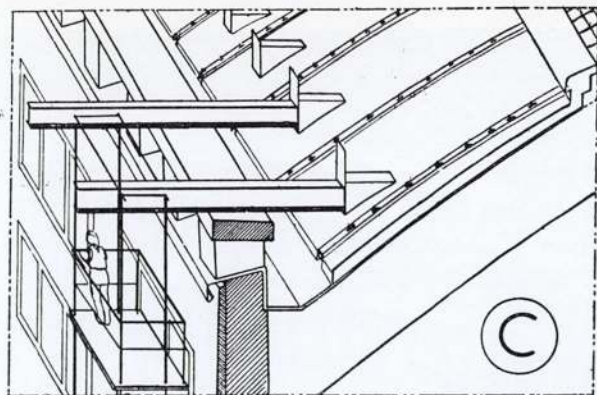
(Baumeister, Juni, 1939より)



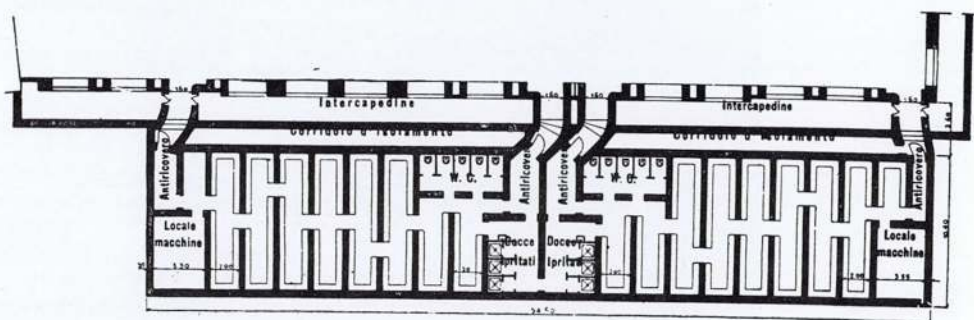
第1階平面圖



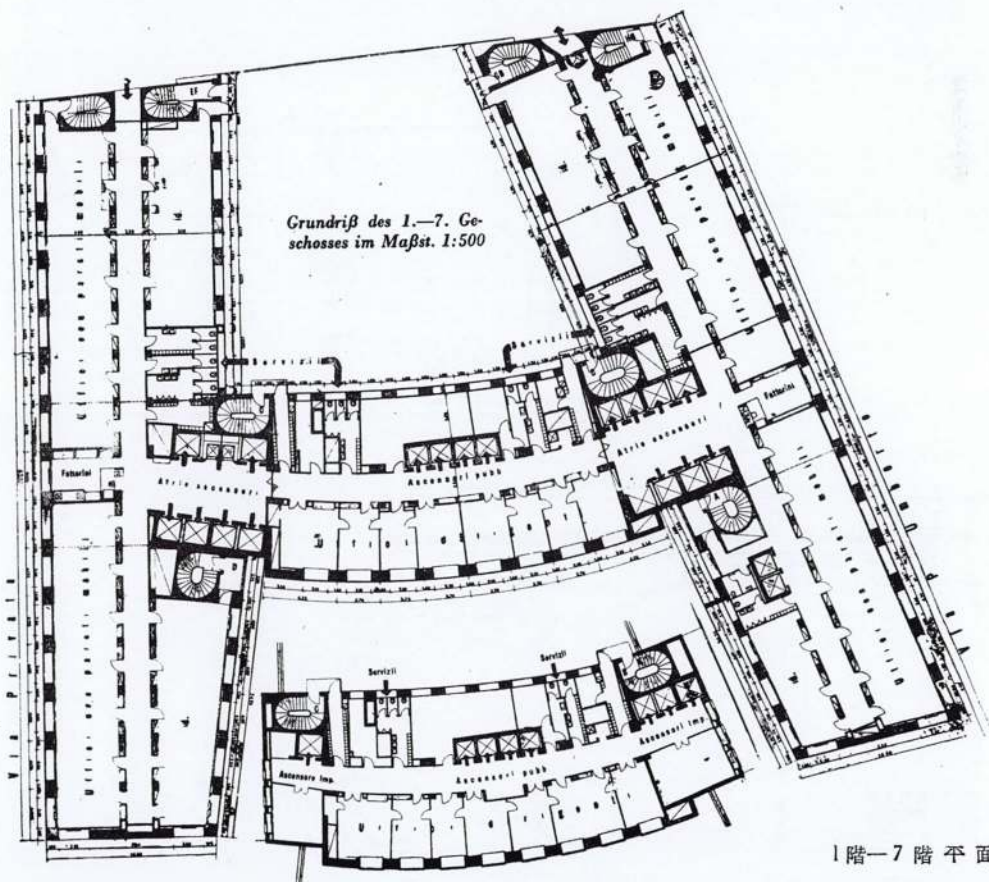
第1地階平面圖



吊足場設備詳細圖



防護室平面圖



1階—7階平面圖

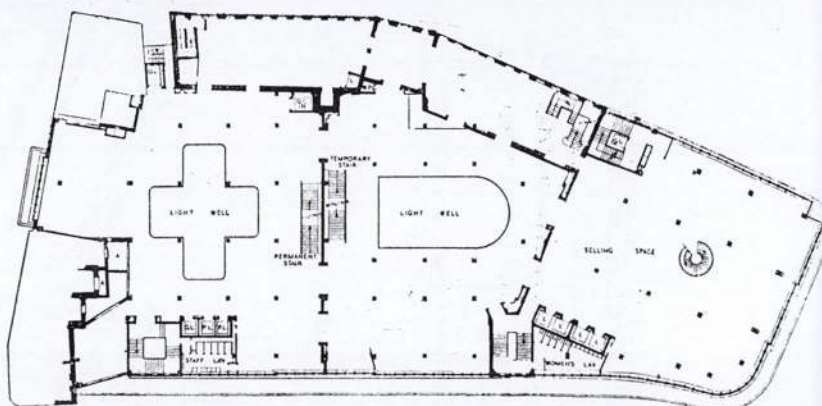


配景圖

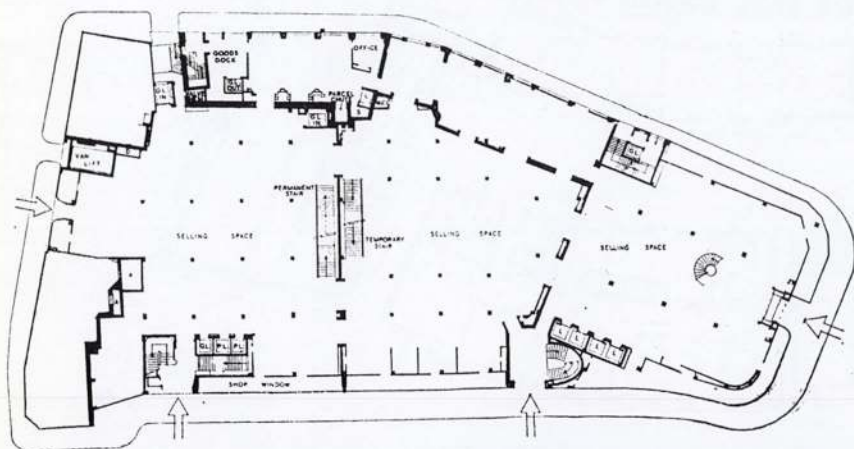


外觀

(Architectural Review, June, 1939 より)



2 階 平 面 圖

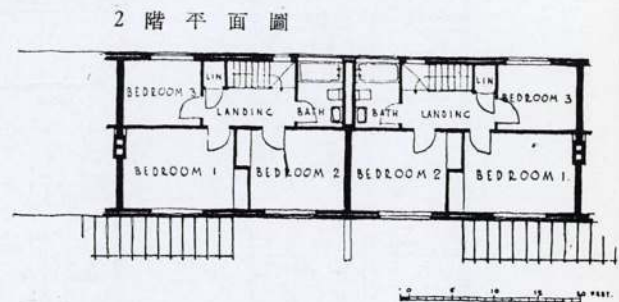
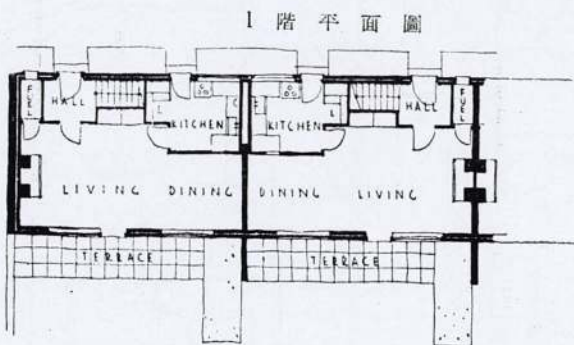
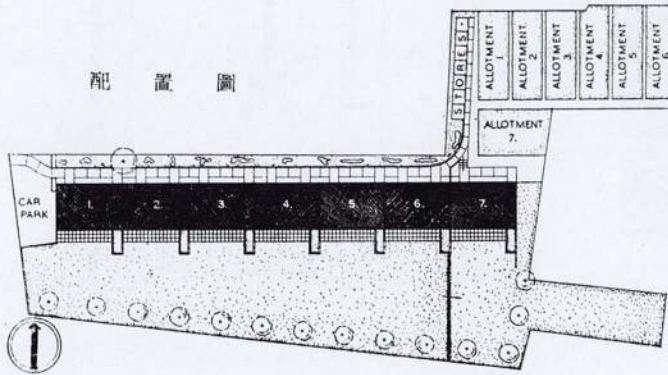


1 階 平 面 圖

(Architectural Review June, 1939より)

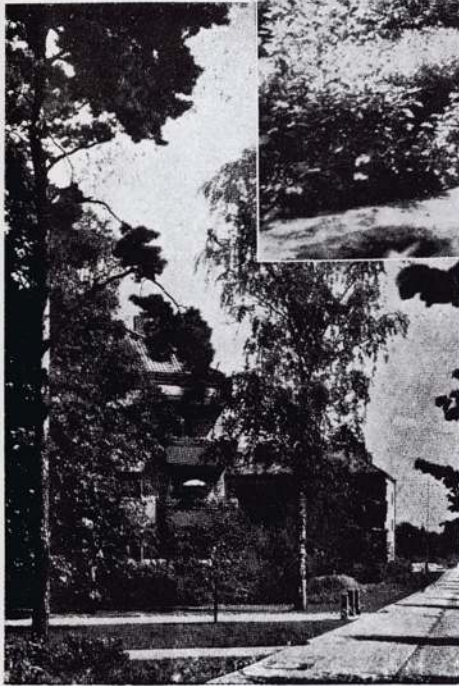


背面外観

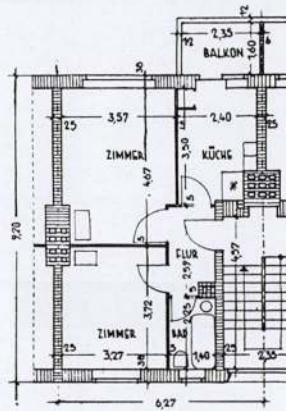




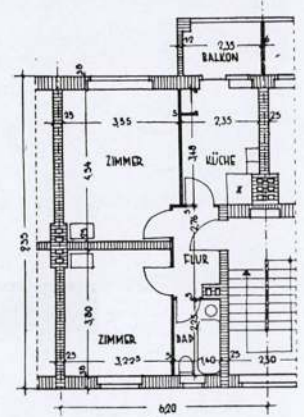
ベルリン・ツェレンドルフの集合住宅



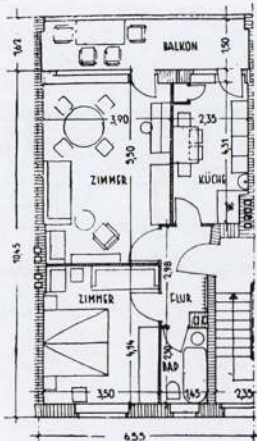
ベルリン・ツェレンドルフの集合住宅



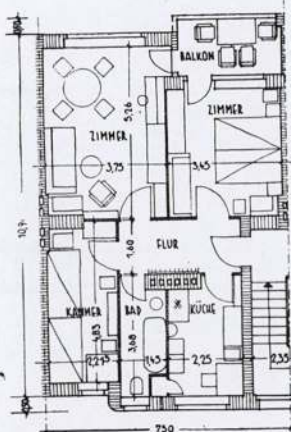
2



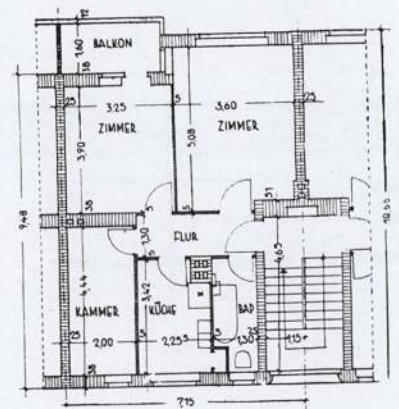
3



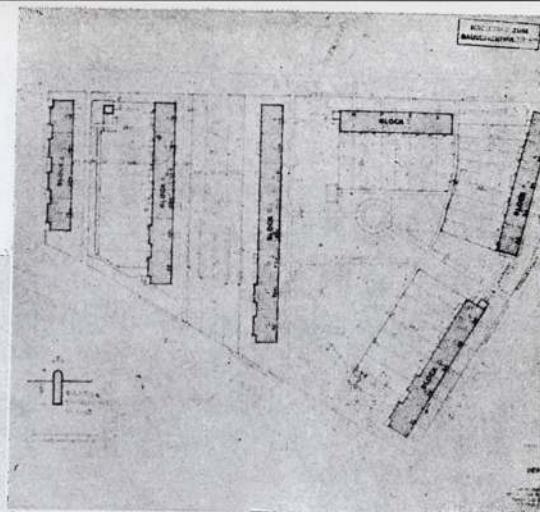
1



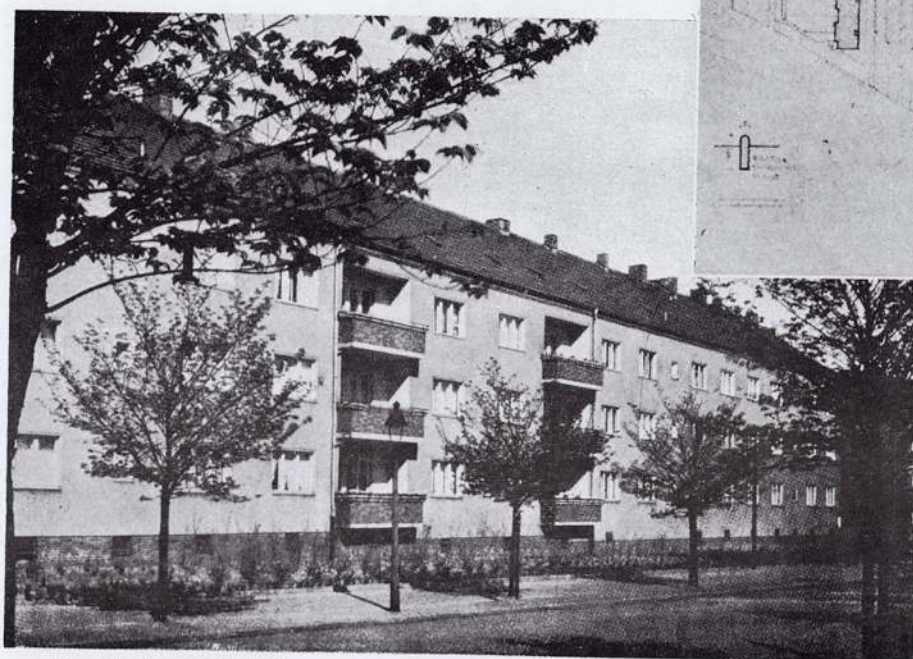
4



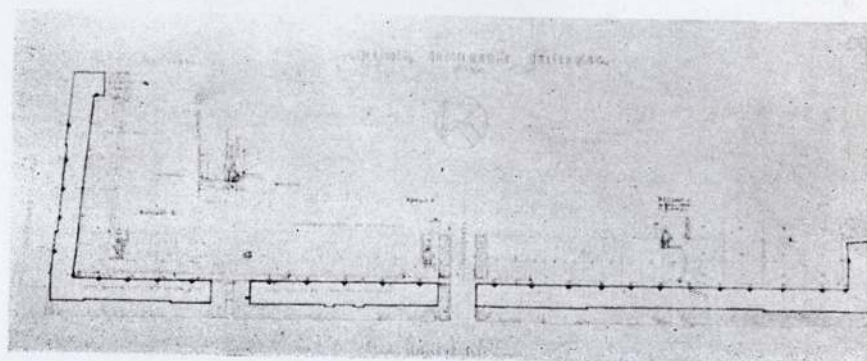
5



ベルリン・ツェレンドルフ
集合住宅配置圖



グライヴィッツの集合住宅



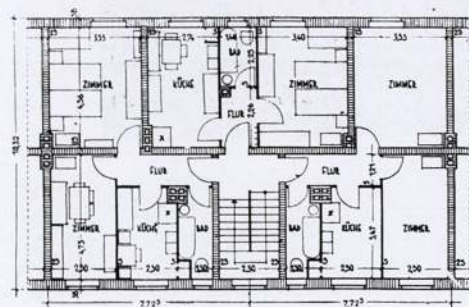
グライヴィッツの集合住宅配置圖



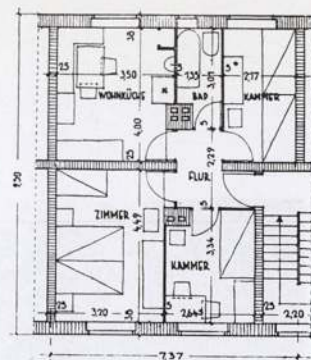
グライヴィッツの集合住宅



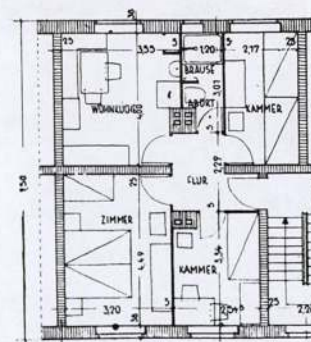
ベルリン・ライニツェンドルフの集合住宅



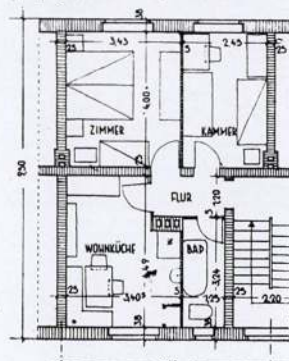
6



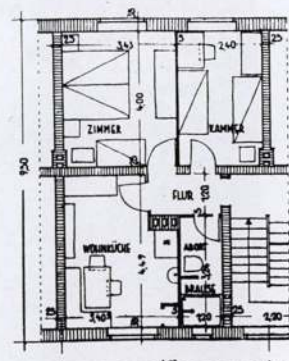
7



8



9



10

D.A.F 建築組合 Gehag の最近の集合住宅である。分戸化、低層化もさることながら経済と住宅要求、そして技術の上から長屋型が合理的なりとし、且つ中層集合住宅の様式平面に若干の改変を實施してゐる。

住宅平面型 1 は居室 (21.5m²) 寢室 (14.36m²) をもつ以前の貸家平面。1932年にこの型は 2 に示す様なものに制限された。材料の節約のためであるこの型は更に後年 3 の如く鐵鋼節約の爲に部厚い中間壁に置きかへられた。ツェレンドルフに於ては、この 2 室型のものが主として建築された。

4, 5 は豊かな家賃の支拂が可能であつた。早期の形態から、今日の見苦しからぬそして今日の建築材料に忠實な實施の變化を示すもの。居室の面積を廣くするため尙輕量間仕切を持ち鐵鋼梁をもつて計算されてゐるとは言へ、より節約的な態度を示すもの。

6 はグライヴィッツの集合住宅の基本平面型。

こゝでは兩側の 2 戸は各々 2 つの居間、炊事場、浴室、中央の 1 戸は大きな居間、食堂 (炊事場付) 浴室を有し、中間壁は厚い煉瓦造となつて居る。

7, 8, 9, 10 はベルリン、ライニツェンドルフの集合住宅のもの。

7 — 4 室住居 (兩親寢室, 2 の小室, 食堂兼炊事場, 浴室, 玄関)

8 — 4 室住居に對する變化 (浴室の幅がこゝでは 1.35m から 1.20m に縮まり, シャワーが設けられる。この型は 1 戸の巾が 10cm 節約される)

9 — 3 室住居 (兩親寢室, 小室, 食堂兼炊事場, 浴室を爲し, 新しい型の如く中間壁がある)

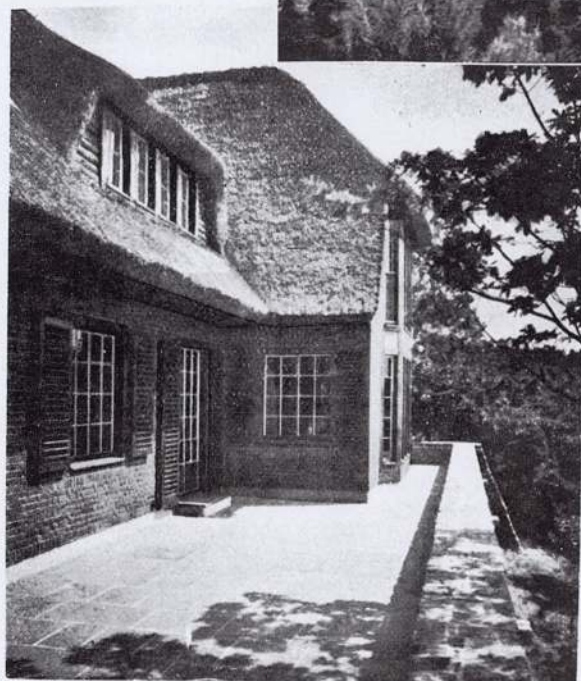
10 — 3 室住居に對する變化。

(前同様シャワーが設けられ, 1 戸の巾が 5cm 節約される)

(Baukunst, Juni, 1939 より)



南 面 外 観



テ ラ ス

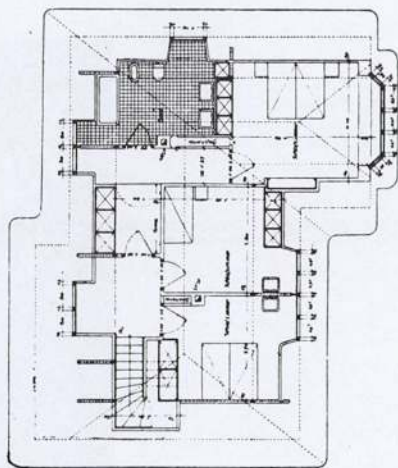


ホ ー ル

前面は石敷、小割の石垣
の上に建つ。屋根は稗菱
の藁で葺かれて居り、柳
材の窓枠にスチールサツ
シュが使用してある。

1937年の建築。

(Baumeister, Juni, 1939
より)



1 階 平 面 圖

古建築新抄 (6) 藤原義一

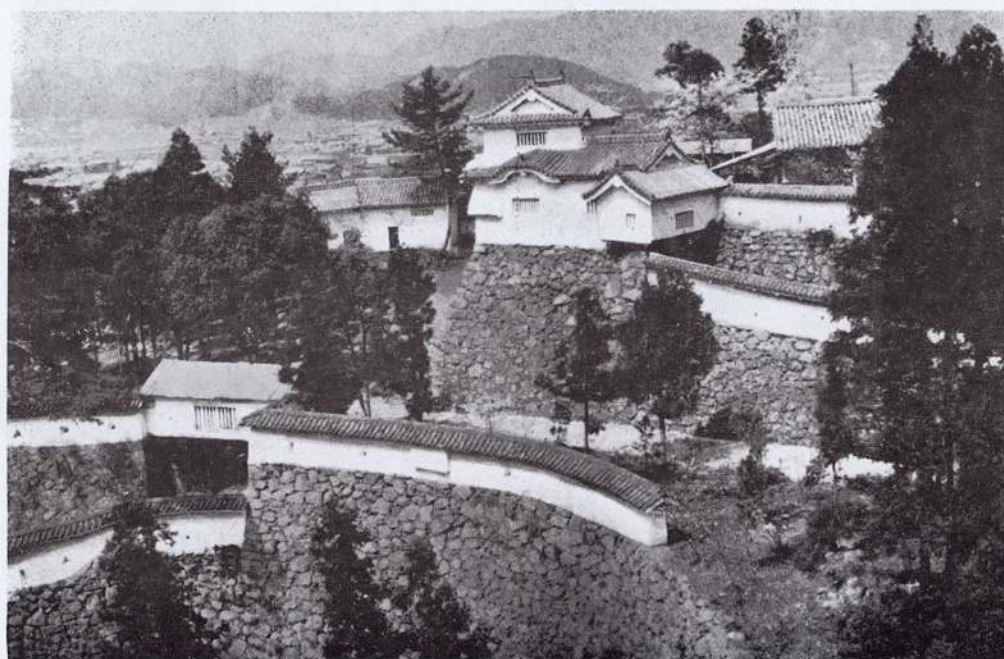
姫路城



慶長年雷田輝政の築造にかゝるが、羽柴秀吉もその前にこゝに三層の天守閣を築いたと傳へられてゐる。現在の姫路城は内堀以内の山の部分にのみ昔の跡が残つてゐる。當時は戦國時代のあとを受けて、築城術は極度に發達し、而も此時は既に戦争に對する城の價値の消失しつつある時であつた。同時に城郭は、四方近隣に對して外觀の偉容を示威する目的を加へて來た。姫路城は此の代表的な城で、戰術的には實に巧妙に構築せられ、而も實戰的には意味を失つたところも多くあり、而してその外觀は此の四葉の寫眞に示す如く壯麗を極めてゐる。

1. 菱の門を入り、三國臺を距てて老松の間に望んだ天守閣。
2. 東方より望む天守閣
姫路城の天守は東からの姿が殊に美しい。高い石垣の上にそゞり立つ五層樓閣は支那五重塔を想はすものがある。
3. 備前丸より見た天守閣群 大天守を中心に東、西、西北の三方に小天守がありこれが渡櫓で連ねられてゐる。かゝる構成の天守閣は現在では姫路城のみである。
4. 二の丸より本丸へ上る屈折路の要害。
上方中央の櫓は「この門」
左下の門は「はの門」





美素 新築住宅にお手入のいらぬ！ 古い住宅も新築同様となる！

【カタログ贈呈】



新築 家屋美素加工

新築落成と同時に本所獨特のビソ液にて洗
浄し木材変色の原因となる樹液を取り、其
の上をビソにて仕上の加工をすると完全な
る變色防止加工となり、優美な艶を有しフ
キコミの弊を省きうる經濟的です。

古家屋新装美素加工

古家もビソ液で洗浄すると新築同様となり
其の上を新築美素加工と同様の加工をする
と前者同様の結果となる。
(特種技術を要しますから弊所
の請負加工と致して居ります)

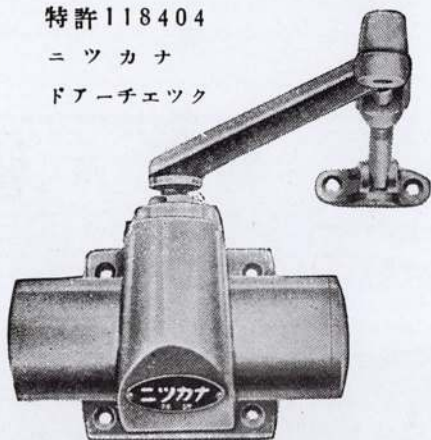
美素工業所

大阪市天王寺區東平野町四丁目二
電話天王寺⑦四〇〇三番

特許118404

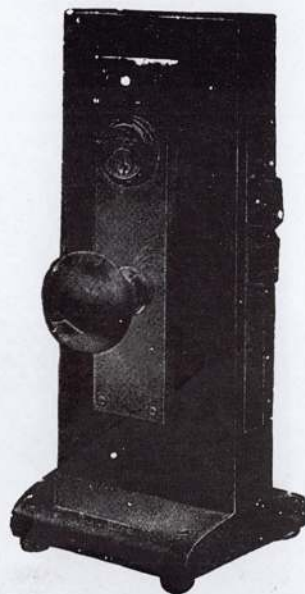
ニツカナ

ドアーチェツク



日 金

シ
リ
ン
ダ
ー
錠



營業種目 シリンダー錠各種・ピーアレッツス蝶番
家具用特殊錠前・建築用金具一式

日 本 金 具 株 式 會 社

本 社 大阪市西淀川區大仁東二丁目

出張所 東京市日本橋區本町二丁目

電話福島④ 2051・2052・2053
④ 2055・④ 2056

電話日本橋④ 2993

Aedford の「調温、換氣の最新原理」抄録(3)

目 次

第6章 刺戟的環境

- 1 氣 動
- 2 輻 射 熱
- 3 空 中 電 氣

第7章 高温作業

- 1 制限温度
- 2 熱 瘧 撃
- 3 馴 化 作 用
- 4 温度条件と作業能
- 5 炭坑夫に就いての調査
- 6 劇勞作業に於ける生産高の季節的變化
- 7 綿紡作業に於ける作業能

第8章 災害頻度、病氣に及ぼす環境条件

- 1 軍需工業に於ける災害
- 2 炭坑夫に於ける災害
- 3 年齢と災害頻度
- 4 綿工業作者の病
- 5 製鐵、製鋼工の病
- 6 炭坑夫の病
- 7 其の他の研究
- 8 結 論

(前號より續く) 給氣孔の入口を全く適當な個所に設けるといふ事は非常に難しい事である。

寒冷の候にはたとへ窓を閉じておいても、その窓の附近には賊風が感じられる。室内の暖い空氣でも冷たい窓硝子との接觸に依つて冷却され、床面に向つて速やかに降下するからである。我々は先般評議室内の賊風の不快について調査したが、その室は高窓がつき、然も床部より流入し天井より排出する溫氣によつて上方へ向つて換氣されてゐるにも拘らず、賊風の不快は窓から下方への氣流の爲に起つてゐるのである。煙草の實驗に依りこの冷却された空氣は上方への多量の氣流と合致する前に床部へと卞下してゆく事が分つた。

窓下のすぐ近くに管狀の小暖房器を設置したな

ら、多少これらの賊風を防ぐ事が出来よう。

第6章 刺戟的環境

換氣を充分になす爲には、空氣を清純に保つ事、不快なる臭を除去すること、適當なる温度を保つ事等が必要であるが、尙もう一つ重要な要因がある。室といふものは、適當に加溫せられ換氣されれば快適となり空氣も清淨になる、然しそこにも不満の原因は存するのである。新鮮なる空氣、等氣溫、同じ等値温度を持つた二室に於ても、全く異なる感覺、即ち一は鬱感と壓迫を、他は爽感と刺戟を感じるかもしれない。この相違の原因は一體何であらうか。

1 氣動

その主要なる原因の一は氣動である。氣動は脱溫、溫感に影響を與へる、それは別として兎に角非常に觸感に對し鋭敏なものである。即ち新鮮感或は鬱感は環境による皮膚の刺戟に依つて惹起され、且その刺戟は氣動により、又温度の效果に依るのである。我々はカタ寒暖計が氣流に對して非常に敏感なる事を學んで來た故に、この新鮮感を計る爲には有効な器具である事が分る。

數年前、室溫、氣動及びカタ冷却力により新鮮感と鬱感との印象とを比較する觀察がなされ、それに依ると、新鮮感は冷却力に最も緊密なる關係の存することが確證された。他の學者達もこの結論を承認し、そこで同等の快感を感じる二室に於いては氣動の大なる方が刺戟的なりと決せられた。

氣流の效果は單に平均速度によるのみでなく、速度の變化に依る。戶外に於いて感ずる緊張感は風速の變化によるものであるから、室内にあつても適切なる換氣法に基く氣動の變化は、在室者の感覺に良好なる影響を與へるものである。實驗上では氣流速度を25sec.の間隔に測定し、その動搖の激しい方が新鮮感を増加すると報告されてゐる。

2 輻射熱

輻射熱は環境の快適度に影響を有する更に一つ

の要因である。人は外氣中では冷氣と直射日光との綜合を最大の刺激として感受し、室内に於いては氣温と輻射熱との均衡によつて温感を左右される。80年前イギリス衛生局の委員會では、住居の快適なる爲には室壁の温度が氣温よりも高い必要がある、そしてもし壁温が氣温より低くければ不快を免れないであらうとした。

後の多くの研究も此結論を支持し、冷壁と温氣との結合は屢々鬱感の原因となることが明になった。

輻射暖房法を用ひると、壁温は減して氣温より高くなり、温氣暖房を以てすると低くなる。此の理由から快適度の保持増大の爲には、温氣法のみによらず、之を輻射暖房法に依つて補助する必要があると認められる。

Sir Leonard Hill に依れば、輻射熱の量のみでなく質も亦重要な所以を擧げてゐる。過去數年間 Hill は輻射熱の皮膚に及ぼす作用に就き觀察した處、輻射熱のあるものは通氣すべき皮膚に充血せしめ、鼻腔による呼吸困難を覺えしめ、又或ものはこの充血を軽減せしめたといふ事である。即ち鼻腔閉鎖は蒸氣パイプ又は電熱の如く暗く鈍い温源の照射で、鼻腔開放は電弧、ガスの新様式のもの等の如く明輝の温源に依つて作用せられる。

他の研究者も輻射線は鼻腔充血を起す可能性のある事を確め、特に敏感な人々に對し顯著であることを知つたのである。

3 空中電氣

我々を圍繞してゐる空氣は常にイオンといふ電氣の媒體を含んでゐる。このイオンは空中のガスの分子、或は固形物體の微粒子より成つており、正又は負に帶電される。帶電大氣中ではこの正負イオンの數は略々等しい。

空氣のイオン成分は著るしく變化をなし、戶外空氣中では 50~800個/cc を含んでゐるが、居室内部ではその數は著るしく減少してゐる。

此等イオンの心的効果に對し最近いくつかの實驗がなされたが、ある研究者は正又は負イオン何れかの非常に高い集中より成る人工的に帶電せられたる空氣を用ひ、あるものは通常空中に生ずるところの變化の影響について研究し、又更に再びイオン化せられたる空氣の効果にまで進んだ實驗が行はれた。

人工的イオン化の實驗に於ては、負イオンは新

鮮感を起し、正イオンは不快感を惹起する事が發見された。

戶外に於ける快感は空中のイオンの量分に關係があり、一説ではイオン數の低い日は極めて快感を感ずる。他の説では室内空氣中のイオン量増減は何ら快感に對して確定的な結果は得られなかつた。むしろイオンを除去した空氣の方が普通の空氣より呼吸するに快いといふ事が發見された。

確實なる證據によると、居室内の空氣の電氣狀態中に一般に在するところの相逢は我々の感覺の上には大なる影響を及ぼさないものであり、それに依つて一般の換氣に於いては人工イオンの使用を要しないといふ結論に達する。

適當に加温せられ充分に換氣されたる室の狀態を約言すれば

- (a) 適當なる温度が支持されるべきである。
- (b) 頭高位の氣温は床面附近のそれより高くはならず、在室者の頭は過度の輻射熱に曝されてはならぬ。
- (c) 空氣は静止狀態より氣動あるを好しとしその氣動率は單調なるより變化ある事、然し局部的な賊風があつてはならない事。
- (d) 空氣は臭氣なきこと。
- (e) 壁温は氣温より高かるべきこと。

等である。

第7章 高温作業

普通着衣者が輕作業をなす場合はイギリスでは至適温度を 60°-68°F とし、高温作業 75°F に於ては完全に不快を訴へるとされる。

70°-75°F にも昇ると氣温は體温に僅少の効果しか持たなくなる、然るに高温に於いて汗をかき出す場合は湿度が非常に關係するものである。即ち高温中では汗の蒸發量を減じ、身體からの放熱が妨げられる故に、高温高湿の空氣中では、同温度の乾燥せる空氣中に於けるより不快感を覺えしめるものである。

高温高湿中の大氣中で劇勞を營む時は、汗の蒸發不充分の原因から體温上昇し病的狀態に陥り、それが極度に達すると日射病になる。カルカッタの牢獄の犠牲者は多くは日射病で死亡したのである。斯様な徴候を發生せしめず、耐へ得られる最高温度は濕球温度に密接に關係し、汗の蒸發は靜穩空氣中よりも風の中で速やかに起る故に、氣動

も亦重要である。

1 制限温度

故 J. S. Haldane 博士は高温の心的影響に關し多くの研究を積んだが、この限度に關し、やはり濕球温度と氣動の量にのみに關するといふ結論に達した。彼の説に依ると、休息時上半身裸出での限度は、静止空氣中で濕球88°F 氣流速度150ft/min なる時は93°Fである。

筋勞作業の行はれてゐる時は體温が上昇する故にその限度は低下する。Haldane は14ft/min の速度で階段を上る場合の濕球温度の限度を見たところ前者の限度より8°-10°Fの低下があつたといふ。

最近 Vernon 及び Warner は、この濕球温度は氣温の影響に對し充分なる考慮が拂はれてゐない故にこれは充分な指示度ではないと唱へた。例へば同温の濕球温度に於いて、氣温の増加に伴ひ脈搏の増加が起る。故に肉體的反應は濕球温度及び單なる氣温よりの有効温度に一致するとし、之を推奨した。

2 熱痙攣

高温作業場即ち深坑、船舶、鐵工場等の従業者は、高温の爲に熱痙攣に罹り易い。この熱痙攣は多量の水を飲用する場合に起る、即ち汗は鹽分を多く含む爲、多く發汗する時は、體内の水分と共に多量の鹽分を消失する筈で、此場合多量の水を飲むならば、血液中の鹽分の濃度を減じ痙攣を起す原因となるものである。故に Moss は飲用水中に鹽の一定量を加ふことを説いたのである。

3 馴化作用

我々は氣候の變化に對して順應性を有し、夏季に於いては、冬季では不快な温度にも快適を感じ、作業者が夏季、冬季の快適温度よりも5°F 高い温度に服合するのも此例である。

馴化作用は高温に對する能力の上に重大な影響を持つもので Vernon と Warner は、同値の温度と湿度に於ても、冬季よりも夏季に於いて作業者の脈搏数は若干減少する事を報告してゐる。

尙最近 Vernon は一ヶ月の體驗後に於いては、月初めより濕球6°F 高の温度に對して耐へ得られることを發見した。

烈しい肉體勞働が高温に於いてなされねばならぬやうな状態では、熱に馴化する事は非常に重要な事である。例へば Mayrogordate と Pirow は南阿金嶺の深坑作業場に於ける死に就いて調査し、

彼等の死の原因の一部は高温馴化の缺乏によるものであると報告してゐる。高温作業場に新參者を急におく事はよくない。もつと低温の場所に於いて豫備的體驗をなさしめた後にすべきである。

この礦夫の事件は、熱の認容と馴化に對する調査、研究を刺激し、最近 Rand 礦山に於いては、新參者は深坑に入る前に高温室内で耐熱力を検査され、その結果に依つて高温作業に就く時期を割當てられた。この試験の採用が日射病を減少する結果となればまことに望ましい事である。

4 温度條件と作業能

熱射、熱痙攣の如き被害の非候は特別の高温に依るとはいへ、更に適度の温度は作業の効果を充分ならしめるものであることを考慮しなければならない。

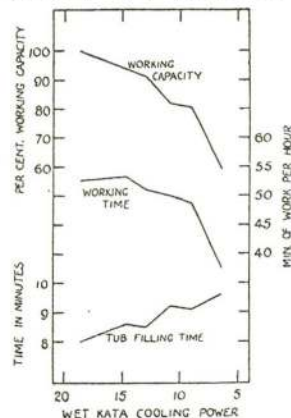
ニューヨーク換氣委員會では、種々の温度状態に於ける作業能につき試験を行ひ、75°F の温度では、68°F の場合よりも15%少量であることを確めた。

他の研究者は仕事が連續的に行はれる場合は、温度の上昇と共に肉體的努力が増すといふ事を明らかにした。

反對に特に手先を要する細かい仕事は不適當に低温なる時は、手先は冷却し、作業の出來高は減する結果となる。Vernon, Bedford, Warner に依つてもいくつかの試験が行はれたが、自転車の鎖をつなぐ仕事について實驗したところ、室温が低下しカタ冷却力が7-10に増加された時12%多量の仕事が行へることを發見した。

5 炭坑夫に就いての調査

高温による仕事の能率の低下は炭坑夫について



第15圖 濕カタ冷却力になる炭坑夫の作業高

調べた結果が多く報告されてゐるが、一般に作業能率は生産高から評価されるのに對し、炭坑では採炭場所によつて異なる爲、生産高によつて見るよりも、一定量即ち 10c. w. t. の器に充ちる迄採るに要する時間の割合を見る方が得策である。

第15圖は氣温63°—89°f、濕球温度59°—82°fに於て觀察し、濕球カタ冷却力は6—19を示してゐる。高温の場所では所要時間は休憩時間と共に増大し、最高温の場所の能率は最低温の場所の能率の59%であることを示してゐる。

Moss, Hall は高温の場所で働く鑛夫は低温の場所で働く鑛夫よりも休憩時間を多く要する事を確認した。

6 劇勞作業に於ける生産高の季節的變化

Vernon は劇勞作業に於いて、殊に高温に曝されてゐる時の生産高は必らず一様に季節的變化的影響を蒙るといふ事を明かにしたが、之に依るとやはり夏季最低、冬季最高を示し、春秋の季は此の中間に位することを實證した。此の現象は Farmer, Broke, 及び Chambers に依つても、硝子工場に就いて確認されてゐる。

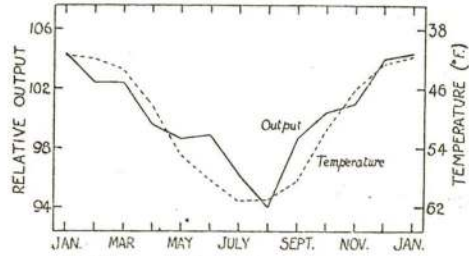
彼等によつて得られた結果は次の如し。

劇勞作業に於ける生産高の季節的變化

Occupation.	Relative Output during—		
	Winter (December-March).	Spring and Autumn.	Summer (June-September).
Men charging blast furnaces	105.0	106.5	88.5
Open hearth steel millers at Works C	107.7	102.0	96.2
Open hearth steel millers at Works D	85.7	85.1	84.8
Open hearth steel millers at Works F	102.5	100.5	97.2
Open hearth steel millers at Works J	102.5	104.6	102.8
Rolling mill men at Works III.	107.0	106.5	107.0
Rolling mill men at Works V.	124.0	118.0	111.0
Rolling mill men at Works VI.	105.2	98.4	96.5
Men puddling wrought iron	104.7	102.2	96.0
Tinplate mill men	103.3	99.9	96.9
Glass bottle making	101.7	99.6	98.7

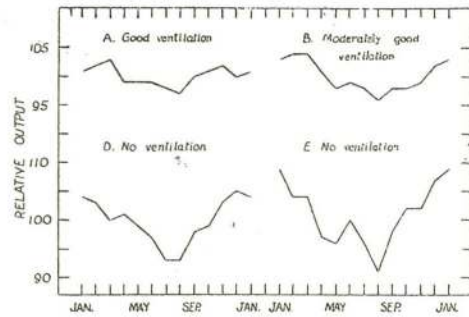
Vernon は外界の湿度とブリキ工場に於ける生産高との緊密なる關係につき實驗したが、この生産高と一ヶ月の平均温度とを同じ圖に書いた場合二つの曲線は同じ方向に進んでゐる事を發見した(第16圖) 8月に於ける生産高は12月、1月のそれより約10%少である。

ブリキ工業のやうに熱作業に従事してゐる工場では換氣が最も重要である。冷い新鮮空氣の豊富なる供給は温度を低下すると共に、低下した温度が附加的に氣動を促進する利點が擧げられてゐる



第16圖 生産高と温度の季節的變化 (ブリキ工業)

ブリキ工場の生産高の季節的變化の比較の中に換氣の影響が示されてゐる。(第17圖)

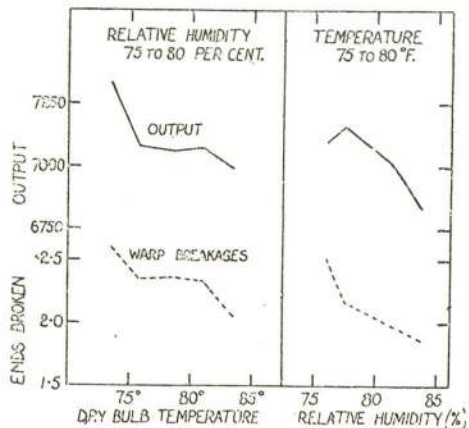


第17圖 各ブリキ工場に於ける生産高の季節的變化

夏の生産高は換氣可良ならば、冬の生産高に比して3%の減少にしか過ぎない。然るに換氣が悪ければ13%の減少を示すものである。Vernon は最も換氣の悪い工場では、最も暑い日の生産高は最も寒い日より多分3%少いであらうと概算した

7 綿紡作業に於ける作業能

工場内の温度はその作業によるのであつて、あ



第18圖 綿工業に於ける生産高及び破損數

る場合には局部的加温でよく、又全般的に調温の必要とする場合とある。

例へば綿紡作業室では人工的の一定温度と高温とが必要である。高温高湿なる空气中では經(たて糸)を機にかけるに破損は殆どなく、その生産高は乾燥せる冷氣中よりも遙に多い。

然しこれも或程度までいもつと高温となると生産高は減少する。Weston はこの實驗に於いて、

濕球73°Fにまで達すると生産高が減少する事を發見した。斯様な温度に對しては作業に對する肉體的状态よりも、作業者に及ぼす心的影響の方が大である。

綿工業に於いても同じやうな結果が Wyatt 及び他の學者達に依つて得られた。高温中でも氣温75°Fに達すると破損數ひいては停止數が減るが、生産高も減じた。(第18圖)(前原大二郎)

「都市に於ける航空港の將來」

1939年1月1日合衆國には2,374の航空港及び着陸場があり、その中791は市營の航空港である此の數字よりして、各都市が米國航空の發達に大きな役割をつとめた事は明らかである。航空港なくしては、航空機を發着させる事は不可能なるは勿論である。米國標準に合した航空港なくしては米國民間航空路系統が確立さる可くもない。しかし、相ついで大きくなるばかりの航空機に適合するやうに日々改新される航空港がなくては、現在の米國航空機は實用に供する事は出来ないであらう。

航空港財源の主なる型

聯邦、州、市政府は昔から、米國航空港の建設及び經營に莫大の金額を費つて居る。金額及び事項等に關する何等かの概念は次表から得られるであらう。

22,671哩の聯邦航空路を使用する航空機に役立てるために約17,500,000弗が航空商業局によつて費されて居る。これらの費用は中間着陸場、照明ラヂオ及びテレタイプ通信のためのものである。此の主な活動に加へて商業航空局¹⁾は、航空士及び機關士を試験し免許を與へ、航空機の檢定、飛行學校の監督、依頼による飛行場を修理、航空路統制の確立強化、航空事故の調査、統計及び報告の蒐集並に出版等によつて安全及計畫部²⁾を指導した。かゝる凡ての活動は、今は民間航空局³⁾に移管され且つ行はれてゐる。

聯邦政府も亦その緊急機關の手によつて、航空港に對し多額の金を費して居る。WPAは1938年3月31日に、約1,000の航空港計畫に對して87.90

8,998弗が費され、又は契約されて居る。PWAは、1938年3月14日までに2,767,445弗を非聯邦航空港のために費し又は契約して居る。之に加ふるに、PWAは航空路施設改良のために300萬弗以上を費して居る。

手近な報告によると、各州は過去10乃至15年の間に航空港に入つた總額の極く僅かしか費して居ないもののやうである。バージニア州では1928—36年の間に航空港の發達並びに改良に對し74,179弗つかつて居る。ニュージャシイ州にては、僅に15,000弗が航空委員會に充當されたに過ぎない。

航空港は都市に如何なる入費をかけるか

航空港の施設ある各都市は一聯の階梯を経なければならぬ。しかしその一つ一つが可成の額の入費を含んで居る。第一に、航空港の地域が取得されねばならぬ。時には都市は既に適當の土地を所有して居る事もあるが、然らざる時は土地は購買されねばならない。數年前になされた、都市航空港に對する有力な調査に依ると、當時の航空港の平均の大きさは396.5エーカーでその平均費用は1エーカー當り974.28弗であつた。土地が收用の後の土地は1エーカー當り190.05弗で取拂はれ、280.55弗で地均しされ、217.49弗で排水、鋪裝、照明及び適當な格納庫、倉庫その他の建物が設置される。

かゝる費用の故にこそ、航空港構築が企業としては割高になるのである。209の都市航空港の最近の觀測によると、116の都市が、その航空港の購買、建設、擴張に平均して508,705弗支拂つて居る。カンサスシテイ及びデトロイトは各5,700,

1) the Bureau of Air Commerce 2) Safety and Planning Division 3) Civil Aeronautics Authority

000弗の出費を報告して居るが、他方ネブラスカ州ノーフオークは僅に600弗を報告して居る。116都市の報告の總支出額は59,030,841弗である。可成の誤差を許すとしても、1939年1月1日現在の791の航空港を獲得するために、此の國の都市は350,000,000弗乃至400,000,000弗を費して居るらしい。

入費の第二の主な項目は維持經營費である。ハーバード大學都市計畫科で1930年になされた調査に依ると、31の都市は、維持經營に平均年額27.052弗支出して居る。1936年の調査には、此の中の20都市が平均29.683弗支出して居る。此の調査にて尙、88の市營航空港は平均經營費19.862費と報告されてある。最大の年經營失費はビッツバーグ市營航空港の179,057弗であつた。

更に意味深きは次の事實である。「貴都市の航空港の損益如何」の間に對し答へた84の市營航空港の中78は1936年には缺損であつたと報告した。缺損總計は78航空港に對し1,039,936弗で平均13,332弗となつて居る。

しかしながら此の數字は單に經營費をカバーするのみである。若しも減價費や航空港債券の元利支拂費その他同様の項目の費用が加算されるとすると、78の航空港の一つたりとも黒字だとは報告出来ぬであらう。各々の平均缺損はたやすく2倍乃至3倍になつたことであらう。

航空港經營の第三の主な項目は擴張及び改良費

である。資本支出の上述の數字は或る場合にはこの擴張並びに改良のために支拂れた資金を含んで居て、しかも第一義的支拂から第二次の資本消費を區別する方法もない。

商業航空への可能性とその魅力

航空港を市有にすることには或る魅力がある。商業會議所はそのやうな機關は市の商業を刺激すると考へて居る。航空港擴張の可否の問題となつて居る都市では、地方新聞が競争相手の都市の活動に注意を喚起してザックバランに「あいつらに負けるな」と述べる。

これらの理由が、市營航空港投資の經費の問題及利潤の可能性と同様に根底をなして居る。アメリカの都市は今や航空港を以つて利益をあげんとすることの根據のなきを知つた。僅かの都市が工場或ひは營業本部の所在によつて航空工業から利益を得て居る。例へばセントポールに於ては選舉權者は次の理由により航空港債券を支持することを要請された。

「全く適當な市の投資——唯單にそれが700入に2年間歳を與へるばかりでなく、セントポールは年に330,000費を支拂ふ航空路本部であり、北西郵便終點驛（若し遞信省が全ての第一種郵便を飛行機で運ぶことに定めたら年に600,000弗支拂れることになる）しかして年70,000弗支拂ふ第109航空聯隊本部があるから」と。しかし不幸にも、

PRELIMINARY REPORT ON AIRPORT CAPITAL INVESTMENT AND OPERATING FINANCES AS OF JANUARY 1, 1937*										
—Airports Grouped According to Population of the Cities in Which Located—										
	All Airports	Over 500,000	100,000 to 500,000	50,000 to 100,000	25,000 to 50,000	5,000 to 25,000	Under 5,000			
I. Total Capital Investment (1,137 airports).....	\$151,530,605	\$35,511,470	\$51,812,599	\$12,041,568	\$17,593,101	\$21,875,405	\$12,296,462			
A. Total cost of land	49,231,640	13,247,528	14,304,982	2,891,437	7,499,128	7,185,284	4,193,281			
B. Total cost of improvements	102,298,965	22,263,942	37,507,617	9,640,131	10,093,973	14,690,121	8,103,181			
1. By types of improvements:										
(a) Landing area	62,735,383	13,702,394	20,000,878	6,897,396	7,052,467	9,368,171	5,734,077			
(b) Buildings and equipment	39,543,582	8,561,548	17,506,739	2,742,735	3,041,506	5,321,950	2,369,104			
2. By types of airports:										
(a) Municipal (570)	85,021,547	19,040,254	36,108,869	8,865,681	7,020,631	9,577,496	4,408,613			
(b) Commercial and private (567)	17,277,418	3,223,688	1,396,748	774,447	3,073,342	5,112,625	3,691,568			
3. By source of funds:										
(a) Federal Government	44,797,914	7,502,594	13,126,720	6,246,365	5,938,267	7,089,461	4,874,507			
(b) State	3,775,139	—	2,895,735	164,151	147,541	251,077	326,635			
(c) Other	53,725,912	14,761,348	21,495,162	3,229,615	3,988,165	7,349,583	2,902,039			
II. Average Capital Investment per Acre (1,137 airports).....	880	5,281	2,364	918	959	457	193			
A. Average cost of land per acre	286	1,570	653	207	409	150	66			
B. Average cost of improvements per acre	594	3,311	1,711	711	550	307	127			
III. Total Gross Income (1,137 airports)†.....	2,281,387	329,309	641,284	166,642	257,017	572,650	314,485			
A. Total gross income (970 miscellaneous airports).....	1,281,859	102,715	115,642	58,674	169,215	523,182	312,431			
B. Total gross income (167 scheduled air terminals).....	999,528	226,594	525,642	107,968	87,802	49,468	2,504			
1. Gross income from air transport operations.....	402,297	138,075	166,791	39,260	40,163	16,240	1,678			
2. Gross income from miscellaneous operations.....	597,321	88,519	358,851	68,708	47,639	33,228	376			
IV. Total Operating Expenditures (1,137 airports)†.....	\$3,062,938	\$768,549	\$935,385	\$206,381	\$264,945	\$569,432	\$317,796			
V. Progress of Airport Survey:										
A. Total number of civil airports.....	2,005	67	121	106	136	502	1,100			
B. Total number of questionnaires returned.....	1,137	21	79	51	100	343	543			
1. For municipal airports.....	570	8	51	35	50	186	240			
2. For commercial and private airports.....	567	13	28	16	50	157	303			

* This summary based on National Airport Survey, Bureau of Air Commerce, August 16, 1938.
† For calendar year 1936.

航空港は名聲の他には殆ど何物も持来たさないし、その商品価値には納税者はすぐに疲れてしまふ。

結 論

アメリカ計画官吏協會*及び米國都市協會はそのパブリック・アドミニストレーション・サービス新聞第62號に航空港の矛盾と題し各部にわたつて航空に於ける都市の利益を議論して居る。航空港の金融を論ずるに當つて此の新聞は、都市が可能ならば増加した地方歳入を確保し、航空港の缺損を支拂ふのを助けるやうに努力することを示唆して居る。少しの損失は何も大きな問題ではないが經驗によると此のやうな缺損は積つて來ることがわかる。他の全ての條件が等しいなら、航空港は若し適當な方法がとられたら自ら維持してゆくことが可能であらう。

今や小額の入場料に就て公衆の承認を得るか否かが問題となつて居る時期となつた。そのやうな費用はヨーロッパでは一般に習慣化して居る。例へば、アムステルダムにては、公衆は入場料としてオランダ貨幣15錢取られる。ロッテルダムにて

も同様な制度となつて居り、兩方の場合、所有者たる市は歳入の三分の二を、そして航空路が三分の一をとる。

合衆國市長會議は約 2,300の航空港に對し聯邦の補助を要請した。その中 200は現在の航空路上のもので、他の約 600は正に航空路又はその營養線中にある可きものである。かかる計畫の費用は聯邦政府から275,000,000弗、都市が115,000,000弗程度で併せて四億弗近くとなる。

C A Aは最近米國航空路並びに港の系統に對する三つの案を會議に提出した。第一のものは128,000,000弗、第二案は230,000,000弗、第三案は完全な航空港開發計畫であるが、435,000,000弗を要する。第三案は 3,500の航空港を施設し人口五千以上の適當な密集地から20分以内で達する所におかうと言ふのである。又興味深いのは、はじめで、航空港を四階級にわけ、第一は滑走路長さの1,500呎、第二は2,500呎、第三は3,500呎、第四は4,500呎とする。現在合衆國にはこの第四に入るやうなものは一つもない。(後藤典夫)

* The American Society of Planning Officials

健康都市に對する例年の賞金

1938年都市健康保持競技並びに、1938年地方健康保持競技¹⁾賞金が、アメリカ公衆衛生協會²⁾の協力によつて、合衆國商業會議所によつて發表された。第十回都市健康競技の勝者は

第一群→人口 500,000以上の都市、勝者オハイオ州。クリーヴランド。有効賞、ニューヨーク州バツハロー、ペンシルバニア州。ピッツバーグ。

第二群→人口250,000~500,000の都市。勝者 R. I. プロビデンス、有効賞、デネツシイ州。メソフィス、ケンタツキ州。ルイスビル、テキサス州。ダラス、オハイオ州。シンシナチ。

第三群→人口100,000~250,000の都市。勝者ミシガン州。ブランドラビッド、有効賞、ペンシルヴェニア州。リーディング、ニューヨーク州。ヨンカーズ、それからペンシルバニア州。エリー

第四群→人口 50,000~100,000の都市。勝者マサチユセツト州。ニュートン、有効賞、ウイスコンシンク州。マデイスン、ノースカロライナ州グリーンズボロー、とイリノイ州。エバンワン、

第五群→人口20,000~50,000の都市。勝者、ニュージャージー州。フレインフィールド、有効賞、ミネソタ州。ウイノナ、ニュージャージー州。オレンヂ、コネツティカット州。スタンフォード

第六群→人口20,000以下の都市。勝者、ニュージャージー州。イングルウッド、有効賞、ミネソタ州。ヒイピング、とミネソタ州。バアジイニイヤ、之に加へて、特別賞ガメリーランド州、バルチイモア、マサチユセツト州。ブロックラインミシガン州。デトロイト、コンネチカット州。グリニツ、ニュージャージー州。ハツケンサツク、

* City Health Conservation Contest Rtrial Health Conservation Contest

* American Public Health Association

コンネチカット州。ハートフォード、ニュージャシイ州。ニューアーク、ニューヨーク州。シラキユーサに與へられた。此の各々の都市はすでに、二回以上第一等賞を得。1938年に於ても、以前の如き高い健康の標準を維持したものである。

第五回、地方健康競技賞は、次の分區に依つて行れた。

北東區→勝者、ニューヨーク州。カタロウガス縣、有効賞、ミシガン州。メコスタ・オセオラ區。ミシガン州。第七區、ミシガン州。セイヂイノー縣、同位者、ミシガン州。アルヂヤ・スクールクラスト區、ニューヨーク州。コートランド縣マサチューセツト州。パーク・シヤアー區

東區→勝者、メリーランド州。ウイコミツコ郡。有効賞、ケンタツキ州。フコイト縣、ケンタツキ州。メーソン縣、メリーランド州。モントゴメリー縣、ケンタツキ州。ゼファアソン縣、ケンタツキ州。スコツト縣、バーヂイニヤ州。アーリントン縣、ケンタツキ州。アンダーソン縣、ケンタツキ州。バーレン縣、テネツシイ州。ハミルトン縣、ノースカロライナ州。オレンヂ・バーソン・チエイサム健康單位

南東區→勝者、南カロライナ州。チャールストン縣、有効賞、ミシシッピ州。ローダレイル縣。デジョーイア州。ブルツクス縣、南カロライナ州。パークレイ縣、アラバマ州。メーコン縣、アラバマ州。ピツケンズ縣

中北區→有効賞、モンタナ州。ガラティン縣

中南區→有効賞、テキサス州。ダラス縣、テキサス州。タイラスミス縣、ルイジイアナ州。セントマリース教區

西區→勝者、カリホルニヤ州。ロスサンゼルス縣、有効賞、オレンヂ州。ワスコ縣、ワシントン州。クララム縣、オレンヂ州。マリオン縣、オレンヂ州。フイントマン縣

彼等各自の地理的分區に於て、地方健康競技に二度賞を得、又1938年を通じて、良好な状態を維持せるものに與へる、特別賞は、テネシイ州。デイビツドソン縣、テキサス州。エルバーン縣、ミシシッピ州。バイク縣、カンサス州。シヨーン縣に與へられた。

都市及地方競技の賞金は、必ずしも最も健康なる團體に與へられるのではなくして、寧ろ團體がその健康の問題への努力に對する實効をもととして與へられる。各々の町や地方は、アメリカ國家のあらゆる部分より、注意深く選擇された。健康鑑定人の團體にて成立つてゐる。審査委員により評價される。

①給水を施設し、保護する。②適當にして安全なる下水處理をなす。③幼子や、母體の死亡を減する。④結核と梅毒を征服する。⑤他の傳染病に對してその市民を保護する。⑥健康な子供を保護する。⑦ミルクやその他の食物を準備する。⑧それを必要とする總てのものに必要な奉仕をなす醫者又は齒科醫と効果的な協力を獎勵する。⑨病氣不時の死を防ぎ、健康維持の方法の施設を擴大し改善する、等の諸點に注意される。

都市健康競技は、生命保險會社の團體に依つて資金を提供されており、地方健康競技は、ミシガン州の、パタルクリーク、W.K.Kellogg 財團によつて資金を提供されてゐる。(後藤典夫)

州計畫局の病院問題に關する研究

オクラホマ州計畫局監督官 T・G・ガミイ

妥當な標準から考へればオクラホマ州は病院の便が非常に缺けて居る。一般病院の床數 737 が不足し、40559 床が利用可能である。結核のためのサナトリウムの床數 1,000 個であるが、尙必要數よりも 1,600 床少い。

オクラホマにては、一般病院やサナトリウムは州經營になる傾向である。1937 年に一般病床數の 12.3% を州で管理して居るが 1927 年には 11.2% であつた。結核病床の 96.3% を 1937 年に州が管理して居るが、1927 年には 84.6% であつた。

A State Plannin Board Studies the Hospital Problem, By T. G. Gammie, Pirector, Division of State Planning, Oklahoma, American City May, 1939. P, 73 :

他に驚く可きは、營利病院の廢業の率である。昨年に於いて一般病床の48%が營利醫院のものであつたが、十年前には60%がさうであつた。その一つの説明は、オクラホマ民衆の約半分が醫療費に堪え得ぬからである。貧窮な大人、老兵、子供の治療、病院實習に依る醫者の訓練、結核病の抑制等がオクラホマの七州立病院の公の機能である

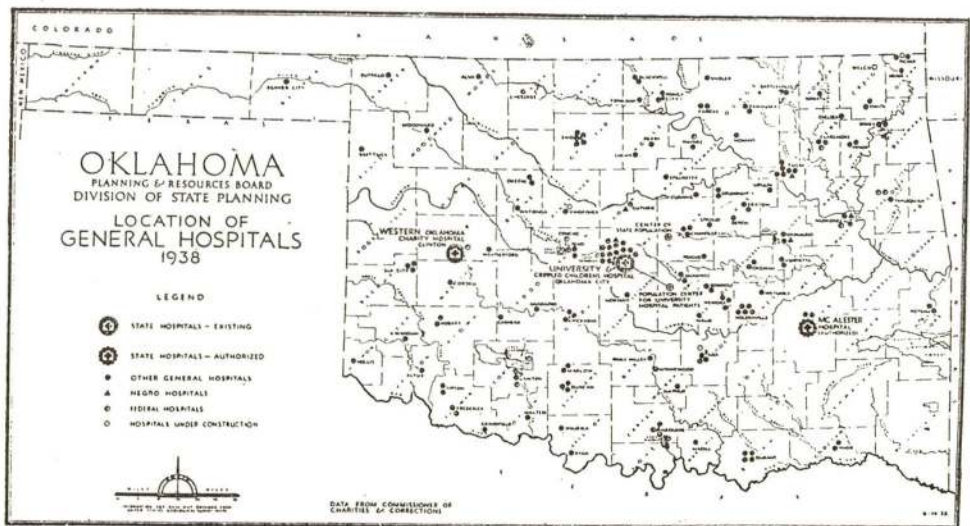
州立大學並びにオクラホマ市に於ける不具兒童病院にて醫學教育及び貧困者治療が、醫學校の標準に合する、患者の適當な型及び變型を分類せんと試みると言ふ全く反對の目的で、なされて居るが、しかし同時にそれは最も必要な施療をも行つて居るわけである。此の狀態を一掃するためにはもつと多くの病床を必要とする。

オクラホマは合衆國で唯一の老兵のための一般並びに結核病院を有する。この病院はサルファーにあつて病院に就ての凡ての標準を具へて居る。老兵病院の必要は年老ひて、虛弱になるに従ふが長い年月の後には減少すべきものである(但し次の戰爭を考へないで)二つの新しい州立慈善病院か、一つはクリントンに開設され、他はマックアレスターに準備中で、貧困者治療の新しい州の政策を示して居る。兒童の健康は公的機能として聯邦、州、縣、私的の組織によつて管理されて居

る。現在相互の協力は全く望ましい事ながら、公的中央當局及び指導の缺けて居ることは後々に困難な問題とならう。オクラホマの兒童健康計畫は視力測定、齒牙検査、小治療、避病院區、黒人兒童治療、肉體的に不具な兒童に對する充分な教育の機會等の計畫を包含して居る。しかし小兒の病院施設は、將來州内の小兒人口の減少を見込めば擴張する必要はない。

結核はレブラ、天然痘と共に實際には忘却されつゝあるが、尙なす可きものが残つて居る。結核を發見し治療し防ぐため臨床及びサナトリウムはサナトリウムを去る患者に對して正しい生活習慣を奨励し適當な副業につけ、更に廣範な計畫によつて完壁化されねばならない。州立サナトリウムはタリヒナとクリントンとにあるが、サナトリウムについては、オクラホマは尙少しく不足して居る。もつと多くのサトリウム病床と醫者と看護婦が必要である。結核はなほ、ネグロとインディアンとの間に多いことはその死亡率が白人では38人であるのに彼等には150人もあるのを見てわかる

更に又慈善病院が非常に必要となつて居る。その需要は如何にしたら追つけるであらうか。もつと多くの州立醫院をつくるか、或ひは私營醫院に州費を給したらよいであらうか?(後藤典夫)





本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中軍務公用者下記の通であります。

普通賛助員 植田正三郎君 羽間博司君

七月例会(見學)

時 6月30日午後2時—4時
所 大阪商船あるぜんち丸見學
出席者 赤松修氏外約600名

1. 受付開始午後2時半なるも既に1時半頃より續々參集2時半迄には500名前後に達す受付場所の關係上(他の見學團體もあり)非常に混雜を呈す、殊に正確なる出席者名記帳し得ず遺憾なりき。

1. 午後2時半より見學開始隨意入船順路により各室を詳細に見學し午後4時出席會員全部見學無事終了。

因に商船會社より繪葉書並世界一周の旅200組分寄贈あり先着200名迄に配布す

1. 本見學は當初商船側と200名内外の人員を以て見學方承認を得、協會としては大體300名見當を豫想し受付たる處通知後日ならずして之を突破し見學前日600名を越へる盛況なりしも當日の不參者も多き前例を考慮して會社側には相當オーバーすべき旨を申出置きたり然るに當日は着船早々にて諸準備行届かず加ふるに他團體多きため受付、乗船全く混亂を呈し、机一脚をも借入出來ずパンフレットも200部を限られるなど會員諸士に不尠御不満と御迷惑をかけた事を會社側よりも詫申出ありたり。尙會員章佩用方も先方受付の必要上初め嚴重勵行方申出ありたる結果なるが、これとても持參に限ありて賣盡し種々御不決の念を與へたる點惡からず御諒承を乞ふ。

材料委員會(第5回)

時 7月6日午後7時20分—9時
所 協會俱樂部室
出席者 委員長 松久保
幹事 木野山、道田
委員 秋田、島田

協議事項

1. 屋根材料の内日本瓦に付き研究を進むること
2. スレート工場見學の件

常務會(第12回)

時 7月8日午後5時10分—5時50分
所 大阪ビル八階食堂
出席者 理事 片岡會長、中澤副會長(早退)
坂副會長
監事 松本監事
常務 桐本主記、黒田主記
伴野主記、三浦主記
藪中主記、久保田主計
松井主計、棚橋編輯

議事

1. 理事1名辭任に關する件……………承認
2. 常務1名辭任に關する件……………承認
3. 評議員會開催に關する件……………承認
4. 都市防空防火座談會に關する件……………承認

報告

1. 6.7月例会終了報告
2. 出征協會員報告

災害強度委員會(第7回)

時 7月11日午後6時30分—8時40分
所 協會俱樂部室

出席者 委員長 渡 部
幹 事 浅 野
委 員 黒 田、 菅、 景 山
中 野、 後 出、 竹 花

協議事項

1. 建築物強度計算用風壓規準案に関する研究
2. 溶接手技簡検定方法に関する研究追加実験に関する件
3. 風壓規準解説作成小委員会設置の件
4. 臨時委員依頼の件

常 務 会 (第13回)

時 7月17日午後5時20分～6時

所 陳列場別室

出席者 理 事 坂副會長
監 事 山脇監事
常 務 黒田主計、伴野主計
三浦主計、久保田主計
松井主計、龜井編輯
新名編輯、堀口編輯

議 事

1. 設備委員会より要求に係る講演会 (3月6日常務会承認) 7月中開催の件 8月例会として開催
2. 同上臨時委員依頼方要求の件……………承認
3. 災害強度委員会より臨時委員依頼方要求の件……………承認
4. 建築と社会寄贈方依頼の件……………承認
5. 防火標語募集会議に掲載方依頼の件承認
6. 圖書紹介方依頼の件……………承認
7. 1月例会々員意見検討の件次回に繰越
8. 會員詮衡

報 告

1. 5月分会計報告
2. 昭和14年度第1回會計検査終了報告

評 議 員 会

1. 昭和14年7月17日大阪市北區中之島三丁目三番地朝日ビルヂングに於て評議員会を開會す
1. 出席者下記の通、評議員23名、監事1名
石井 春雄 石川純一郎 岩尾 保衛
大下順三郎 岡本松太郎 片岡 安

龜井幸次郎 久保田種吉 黒澤 研
黒田 茂 小林 清 小宮 賢一
新名 種夫 鈴木金太郎 中西 六郎
中野順次郎 伴野 貞三 坂 靜雄
平野 忠雄 堀口 甚吉 松井清之助
三浦 茂 米倉 威夫 (以上評議員)
山脇友三郎 (以上幹事)

1. 午後6時會長理事片岡安氏議長となり只今出席者23名にして定款第二十四條に依り評議員定員43名の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げて開會を宣し直に議事に入る。

議案第四號 理事1名補缺選舉に関する件

議案第五號 常務 (主計) 1名補缺選舉に関する件

議長より右一括上提の旨を述べ理事副會長中澤誠一郎君は東京に轉任のため常務 (主計) 石川寛三君は都合を以て共に辭任の申出ありたるに付、定款第十七條、第十九條及第二十條により補缺選舉を行ふ旨を宣し右選舉方法に付議場に諮る

評議員久保田種吉君起立前例により議長指名による詮衡委員5名を舉げて詮衡を一任したしとの勸議あり議長より賛否を議場に問ふ、賛成、異議なしと聲あり

議長は御賛成と認めますから詮衡委員制を以て選舉に換へますと宣し下記の通り指名す

大下順三郎君 龜井幸次郎君 伴野 貞三君
松井清之助君 米倉 威夫君

以上5名の方に御頼ひ致しますから直に別室にて御詮衡を頼みますと述べ詮衡委員は別室に退場其間評議員会は休憩する旨を宣す

1. 午後6時10分再會議長より只今詮衡委員より詮衡の結果を提示されましたとて下記の通發表す

理事 副會長 今林彦太郎君

常務 (主計) 岩尾 保衛君

前記兩君が夫々當選されましたから早速手續を致します (一同拍手)

1. 次で議長より第六號議案は都合により撤回する旨を告げ尙本評議員會議事録の代表署名者に下記の二君を指名し其承諾を得たり

石井 春雄君 三浦 茂君

1. 議長夫れでは之を以て本日の評議員会は閉會致しますと宣し散會す時に午後6時15分。

會 員 動 靜

入 會 者

會 員

- 淺 野 弘君 東成區勝山通8ノ40(大阪府廳建築課)
- 青 木 太 一君 兵庫縣有馬郡三輪町傷痍軍人療養所勝呂組作業所(合資會社勝呂組)
- 石 河 晃 大 郎君 兵庫縣武庫郡芦屋西ノ口101(株式會社竹中工務店)
- 井 上 善 博君 旭區森小路町6ノ12(建築設計監督自營)
- 上 地 清 治君 京都市上京區紫野下苔草町17(大阪市役所水滲部下水管理課)
- 上 田 宗 一君 東區南農人町2ノ40(大阪市役所教育部建設課)
- 岡 野 寛 次君 兵庫縣武庫郡寶塚中洲莊園(株式會社竹中工務店)
- 大 郷 松 三君 布施市小若江90(株式會社大林組)
- 男 野 定 雄君 府下泉南郡尾崎村308(日本電建株式會社大阪支店建築部)
- 北 川 正 彌君 兵庫縣武庫郡大庄村(古河電氣株式會社大阪仲銅所)
- 栗 栖 信 一君 岸和田市南上町1.449(不動建築株式會社)
- 黒 田 知 好君 府下三島郡吹田町1.092(株式會社大林組)
- 神 足 繁 雄君 東區小橋元町121(建築事務所自營)
- 小須田 雅之助君 神戸市須磨區稻葉町7ノ5(兵庫縣警察部建築課)
- 兒 玉 安 弘君 尼崎市昭和通6ノ217(三和工務店)
- 後 藤 四 郎君 豐中市櫻塚68(東洋紡績株式會社營繕課)
- 佐 野 貫 俊君 天王寺區谷町8ノ3(浪速工學校教頭)
- 櫻 井 政 一君 府下北河內郡枚方町宇山之上松村組

- 佐々木 俊 朗君 京都市 中京區 樂樂^レ廻 中町45
(日本ポルトランドセメント同業會)
- 白 髭 二 郎君 府下三島郡吹田町片山前2365
(株式會社竹中工務店)
- 城 生 勝君 東區平野町3ノ33(株式會社清水組)
- 田 中 稔 朗君 北區梅田町大林組大阪驛出張所(株式會社大林組)
- 橋 由 春君 京都府南桑田郡龜岡町西町50
(日本電建株式會社建築課)
- 中 村 收 次 郎君 北區都島中通4ノ4(大阪市役所)
- 西 村 秀 清君 住吉區墨江中3ノ33(株式會社竹中工務店)
- 服 部 浩君 兵庫縣武庫郡魚崎町横屋宇井手111 樂水莊內(東洋紡績株式會社營繕課)
- 林 達 治 郎君 尼崎市南城内206(建築事務所自營)
- 廣 瀬 勇君 旭區江野町47(關西工業學校教諭)
- 藤 原 賢 治君 尼崎市難波南通3ノ83(株式會社大阪組)
- 的 場 浩君 住吉區天王寺町3ノ387岩橋省吾方(長谷部竹腰建築事務所)
- 三 木 作君 堺市出島町603ノ80(日本電建株式會社大阪支店建築課)
- 森 川 重 夫君 東區舟橋町78(同)
- 森 元 正 一 郎君 普通贊助員ヨリ轉格
- 山 本 辰 雄君 北區中野町1丁目192號(大阪市役所教育部建設課)
- 八 壁 武 義君 港區八幡屋元町2ノ85(日本電建株式會社建築課)

地 方 會 員

- 濱 野 幸 次 郎君 吳市東片山町31ノ1(吳海軍建築部)
- 羽 柴 虛君 (株式會社大林組)

特 別 贊 助 員

- 淺 井 郁 爾君 府下泉北郡濱寺町大字船尾840(松尾橋梁株式會社)
- 池 本 圓 市君 豐中市南刀根山758(電氣一般工事請負業)

井 上 圭 司君 大正區南恩加島町1ノ1片山鐵工所内(片山鐵工所)

内 田 成 之君 普通賛助員ヨリ轉格

太 田 次 郎君 西宮市越木岩幸保山295 (太田組)

小 林 敏 夫君 東成區腹見町460

佐 原 忠 雄君 普通賛助員ヨリ轉格

高 淵 完 一君 住吉區山阪町4ノ48

多 賀 鈴 彦君 東區小橋元町75

建 部 虎 之 助君 西宮市御茶家所町36 (淺野物産株式會社大阪支店)

森 武 夫君 兵庫縣川邊郡川西町小戸南屋敷5、同)

森 本 利 吉君 住吉區北田邊町845 (株式會社日興製作所)

普通賛助員

岡 村 安 三君 東淀川區國次町643 山縣工業所内(建築請負業自營)

奥 村 和 夫君 府下北河内郡交野村大字倉治1,929

土 屋 三 郎君 豐中市大字櫻塚1461 (株式會社竹中工務店)

高 平 德 次君 兵庫縣揖保郡久津村吉美阪庄組出張所(阪生組)

島 居 正 男君 浪區九條中通4ノ398

中 堀 武 彦君 港區九條北通2ノ27

鍋 野 松 男君 北區善源寺町80(市岡工業會)

中 野 良 雄君 神戸市林田區池田谷川204 宮島トモ方(合資會社勝呂組)

服 部 四 郎君 北區都島南通4ノ32

平 井 謙 一君 東區北久寶寺町3ノ22 (株式會社清水組大阪支店設計部)

福 井 高 治君 尼崎市東櫻木町9 (同)

福 馬 幸 喜君 兵庫縣武庫郡園田村上坂市400 森永製菓塚口工場(森永製菓株式會社塚口工場)

松 井 重 一君 東淀川區中津濱通4ノ48

山 本 皓 造君 西淀川區浦 江上1ノ118 (工務店自營)

安 永 幸 信君 旭區古市町北通5ノ412宗素直方

吉 田 勝君 西區江戶堀南通2ノ14

退 會 者

會 員

木 田 德 太 郎君 大 野 文 治 郎君

地 方 會 員

中 田 猛君

特別賛助員

岩 脇 弟 一君

普通賛助員

伊 東 一 郎君 佐 藤 保 信君

轉 居 轉 勤

會 員

關 原 猛 夫君 住吉區山阪町4ノ9 (長谷部竹腰建築事務所)

小 川 政 德君 上海西華德路280 (錢高組上海出張所)

神 保 勇 三君 兵庫縣伊丹町北村大阪機工伊丹工場新築工事鹿島組作業所

高 橋 勝君 德山市上今宿6156 (德山曹達株式會社)

瀧 口 芳 雄君 南區饒谷西ノ町板谷ビル(日本建設工業株式會社)

廣 野 喜 一 郎君 兵庫縣武庫郡鳴尾村甲子園旭丘玉映荘内

甲 木 秀 治君 西宮市津門大筋町133 今津荘内

大 川 元 造君 住吉區平野西之町90住宅76號

草 野 正 男君 八幡市黑崎日本アルミ工場建築場竹中工務店出張所内

村 野 威 夫君 兵庫縣川邊郡小濱村字川面宮東21

鈴 木 一 君 東京市大森區池上德枝町664

青 島 務君 東京市豐島區巢鴨2ノ1894

小 野 茂 雄君 東區高麗橋二野村ビル6階 安井建築事務所内

小 杉 憲 一君 神戸市灘區畑原通3ノ27

中 村 武 雄君 旭區今市町943奥田宗吉方

清 水 憲 吾君 住吉區北島中1ノ21

地 方 會 員

松 下 譽 一君 東區今橋2ノ19 (不動建築株式會社)

武 富 英 一君 東京市澁ノ川區西ヶ原町350

持田 亮 治君 八幡市通町6丁目鹽田方（橋
本勉建築事務所）
本田 明 三 二君 大津市三井寺山内（別所番外）
渡邊 金 作君 長崎市城山町南二條ノ5
村田 富士 雄君 廣島市外向洋東洋工業株式會
社清水組作業所
山口 吾 郎君 池田市井口堂320
倉橋 寛 一 郎君 住吉區西住ノ江町2ノ9
宇都宮 邦 士君 西淀川區海老江下1ノ31

特別賛助員

松原 誠 一君 西成區南海通2ノ9

普通賛助員

熊野 茂君 住吉區住吉町1360田鹿勝利方
赤松 美 三君 千葉縣千葉鐵道第一聯隊第三
中隊八班
山下 源 太 郎君 京都市千本下立賣清水組（株
式會社清水組京都支店）
丹野 哲 夫君 北區天神橋6丁目 京阪電氣鐵
道株式會社建築課
繁岡 鐵君 山口市山口縣總警察部工場課

商店建築設計圖案懸賞募集

名古屋市大須仁王門通土地區劃整理組合では、今回名古屋市の主要なる盛場中區大須仁王門通に商店建築の設計圖案を懸賞募集することゝなつた。商店種別は（甲）一般商店向（2戸建）（乙）婦人子供用向洋品店及喫茶店（4戸建）（丙）小料理屋向（2戸建）である。當組合では市民に飽迄健全なる慰樂と信用ある商品を廉價にて賣る理想的な配給機關たらしめたい念願ださうである。この意義ある計畫に協會員諸賢の積極的な參加を希望する次第である。

暑中御見舞

昭和14年8月

社団法人 日本建築協會役員一同



編輯 後記

平日英會談が割合に障礙もなく進行して、うだる様な毎日の暑さの中にも一脈の涼氣が感じられないでもない。少くとも肩の上の重荷が幾分軽くなつた位のことである。夏は萬事かくあり度いものと思ふ。

☆そこで『建築と社會』も夏向きに、しかつめらしい題目を避ける方針で編輯した積りで、國策船『あるぜんちな』を中心としたのも一つはその爲である。

☆序に、見るから食傷しそうな雑誌の『分厚さ』をも救ひ得れば、ここにも幾分の涼しさが湧くだらうし、旁々雑誌費の赤字の埋合せにもなるかと考へたのであつたが、船の座談會が案外にはづんでしまつて、この方は何うも目的を達しなかつた様である。

☆松田軍平氏の文章は、造船技術全般に涉つて、日本蘭持の立場があるべきことを主張せられた點に於て、座談會中の和辻博士の説と軌を

一にしてゐる。兩方併せて讀まれると一層興味深いものがあると思ふ。

☆松本儀八、向井寛三郎の兩氏は、何れも主として船内裝飾に對する専門的な意見を述べられてゐる。船内のみならず一般建築の室内裝飾にも、よき參考資料であらう。

☆石川純一郎氏のものは、『建築の設計及び工事の思出』といふことで、綠蔭の讀物として各方面に依頼した中で、執筆によつた唯一の貴重な收穫で、何時もながらの好文章である。新名のは集らなかつた責任を負ふての穴埋めである。御諒承を乞ふ。

☆紫煙室は最も讀まれる欄として、新設以來各方面から好評であるが、本號は暑さのせいでもあらうか、中野吉彌君唯一人である。若い人々にはどつさり旨ひ度いことがある筈だ。投稿を期待する。

☆文獻欄執筆の各位には、暑氣の折多謝のほか、殊に前原氏の努力に敬意を表する。

☆朝日ビルの室内温度は盛夏2000米程度の高山の温度に匹敵するであらう。汗ばんだシャツを通る冷房の肌ざはりに、山を想ふこと切である。(新名種夫)

建築と社會

第22輯 第8號

毎月1回1日發行 定價 1冊 50錢(郵税3錢)
12冊 6圓(≠36錢)
昭和14年8月1日印刷 昭和14年8月5日發行

發行・編輯 小 板 常 男
印刷人

大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所 プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所 社 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3 朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪59975番

特約販賣店 柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁 轉 載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行為をなすことを禁す。

廣 告 掲 載 料 金

普 通	1 頁	1 回	15, 00
普 通	1/2 頁	1 回	8, 00
普 通 (前空欄1頁)	1 頁	1 回	45, 00
普 通 (前空欄2頁)	1 頁	1 回	40, 00
普 通 (前空欄1頁及空欄1頁)	1 頁	1 回	25, 00
ア ー ト (中 挿)	1/2 頁	1 回	20, 00
表 紙 2	1 頁	1 回	60, 00
表 紙 3	1 頁	1 回	45, 00
表 紙 4	1 頁	1 回	80, 00
建築事務所録	1 欄	1 回	1, 50
(建築関係業者案内)	1 欄	1 回	5, 00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割増、代金引換はお斷り致します。

“建築と社會”第22輯第8號 廣告索引

ア 旭硝子株式會社……………10 淺野スレート株式會社……………13 旭レール株式會社……………1 エ 榮進社……………23 英進商會……………6 荏原製作所……………27 オ 大阪窯業セメント株式會社……………中挿 大阪伊丹商店……………22 大阪組立コンクリート製作所……………14 大野製作所……………表紙 2 岡田建材店……………19 奥村重兵衛商店……………21 カ 關城化學工業株式會社……………表紙 4 キ 桐田商會……………16 ク 久保商店……………17 サ 坂田ベンチレーター製作所……………4 佐久間工業株式會社……………11 三正商會……………17 セ 政正合資會社……………8 タ 田島應用化工株式會社……………30 大洋組……………2	ト 東洋リノリウム株式會社……………表紙 3 東京建材株式會社大阪支店……………19 東京芝浦電氣株式會社マツダ支社……………24 東洋陶器株式會社……………29 ナ 南滿鐵業建材合資會社……………14 内外土木建築材料合資會社……………22 ニ 日本建築紙工株式會社……………6 日本金具株式會社……………中挿 日本陶織社……………4 日本機械工業株式會社大阪支店……………26 日東物産株式會社……………12 西原衛生工業所……………9 西孫南店建築金物部……………5 ノ 野澤幸三郎商店……………20 ヒ 平松釣戸車製造所……………18 マ 松井商店……………8 松下電器株式會社コンヂツト部……………3 ミ 三井物産株式會社……………7 ヤ 矢橋大理石商店……………5 ヨ 横河橋梁製作所……………15 淀川鐵工所……………25
---	--